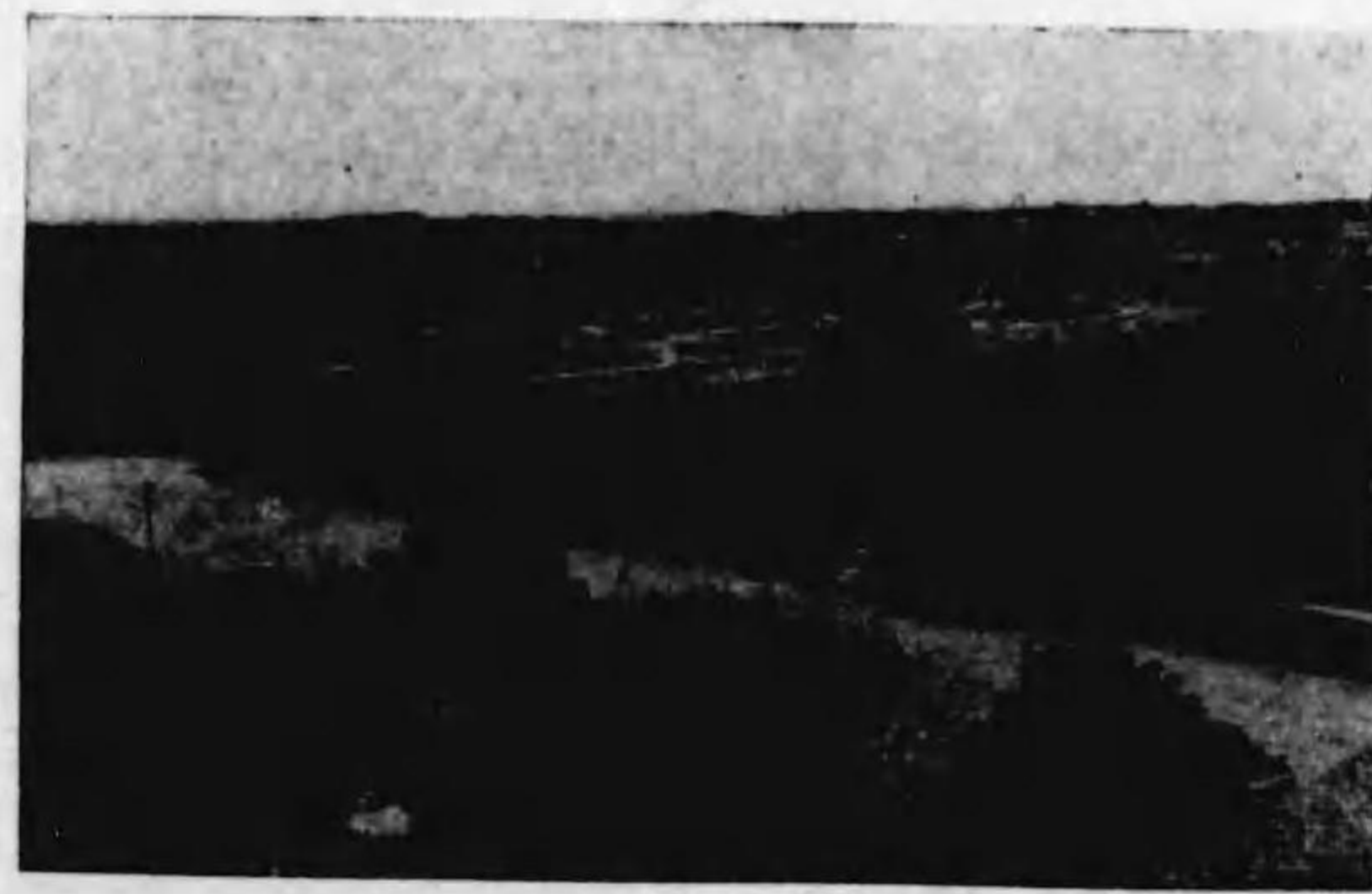


地であり、また交通貿易に於ても、こゝは南洋に於ける一大中心地である。港灣の設備として、現在四大棧橋と二大岸壁とがあつて、二萬トン級の汽船四隻を同時に繋留することが出来る。マニラ市はパシグ川を挟んで東西七キロ、南北九キロにわたり、人口六十二萬と稱へられてゐる。一九三五年の貿易高は、輸入一億五千萬圓、輸出九千萬圓で、砂糖・マニラ麻・コブラ・煙草等を輸出し、綿絲・綿織物・機械・金屬・雜貨等を輸入する。

市街は三百年にわたつてしみこんだスペインの香と、近四十年ではあるが、強烈な影響を與へたアメリカ文明の色彩と、さらに經濟的に根強い力を持つ華僑の臭と、土着民本來の特異な風習とが織りなされて、外觀が極めて多彩である。

上陸して先づ眼に映ずるのは、古色蒼然たる舊城壁である。これは十六世紀の末、外敵防禦のために築造されたもので、この城壁をめぐつてスペイン風の市街がある。この一帯には當時の遺物である大寺院を始め歴史的な興味をそ



第80圖 ルネタ公園

そるものが少くない。米領となつて以來、商業區は次第にパシグ川の北岸に移り、現在この區域には官衙・學校・兵營等があるに過ぎない。

ルネタ公園は舊城壁の南西にあつて海に面し、マニラに於ける唯一の散策地として杖を曳くものが多い。革命の志士リサールの銅像はこの公園のまんなかにあつて、マニラ灣に向つてゐる。こゝは彼が刑死の場所である。リサールこそはフィリピン不世出の偉人で、今なほ島民に神の如く尊敬されてゐる。彼が銃殺された十二月三十日はフィリピンの祭日となつてゐて、こ

の日は全島を擧げて業を休み、彼の徳を追懷してゐる。

ルネタ公園の外にはカトリック教の東洋における本山ともいふべきカセドラル寺院、日本におけるキリスト教徒磔刑の油繪があるので名高いサン・ドミンゴ寺院を始め、博物館・大學・マニラの銀座であるエスコルタ通等は旅行者の目を惹く所である



第81圖 マニラ市街

しかしかやうに表面立派なこの都市も一度足を裏町へ踏入れたならば、そこには舗装されない道路、バラック式の商店、ニッパ椰子で葺いた粗末な小屋が続いてゐて、奇異な対象をなしてゐる。ある意味において、これが今日のフィリピンを表現してゐるといつてもよい。

南洋名物の一は闘鶏であるが、わけてマニラの闘鶏は名高い。これは公然と許されて居り、見物人は観覧しながら勝負を賭ける。射倖心の強い土民たちは、一攫千金を夢みて集り、賭に

熱中するあまり、日々の業務をも忘れてしまふのである。

マニラに於ける邦人の事業としては、マニラ灣の漁業が第一である。これは完全に邦人の手に握られ、マニラ全市の需要する生魚の半分は邦人の手で供給されてゐる。在留邦人の数は約五千人に達し、三井物産、横濱正金銀行、臺灣銀行、太田興業會社を始め、多數の會社商店があるが、商業の實権はなほ華僑の手にあることを見逃すことは出来なう。

**バギオ** マニラを去る北方二百六十キロ、ルソン中央山脈の盆地に避暑地として建設された近代都市で、海拔千五百



第 82 圖 バギオ

米の高所にある。渺茫たる南支那海が眼下に展開し、眺望頗る雄大である。東洋における最も住みよい都會、世界中で最も快適な氣候を有する都會と稱せられ、極東における世界的名所の一つに數へられてゐる。

フィリピンが米領となつた當初から、米人は適當な場所に大規模な避暑地を建設するために、周圍の山々を探し廻つたあげく、このバギオ市を建設することを計畫したのである。人口は平常二萬四千位であるが、夏季には政府機關の大部分がこゝに移るので一躍五萬内外となる。市の中心は盆地の東斜面にあつて、斜面に沿うて下から商業地、諸官衙の分館、兵營等が順次階段状に建てられてゐる。盆地の中央は緑地帯で、そのまん中に長方形の池がある。池を取巻いて散歩道路とドライブウェイが三重に作られ、西側の斜面は住宅地になつてゐる。この都市の特徴は、全くアメリカ人の趣味に合ふやうに、避暑地として建設されたところにある。

この市を建設するための道路工事が邦人の手によつて完成された緣故から、こゝには多數の邦人が在留し、商業の實権も邦人の手に收められてゐる。またバギオ市の重立つた建物は全部邦人の手によつて造られ、最近は附近の金山にも、優秀な技術を持つてゐる邦人工が重用されてゐる。さらに農園地域には約四百の邦人が蔬菜栽培に従事し、この地で消費される蔬菜の大部分を生産してゐる。



第 83 圖 邦 人 の 工 事

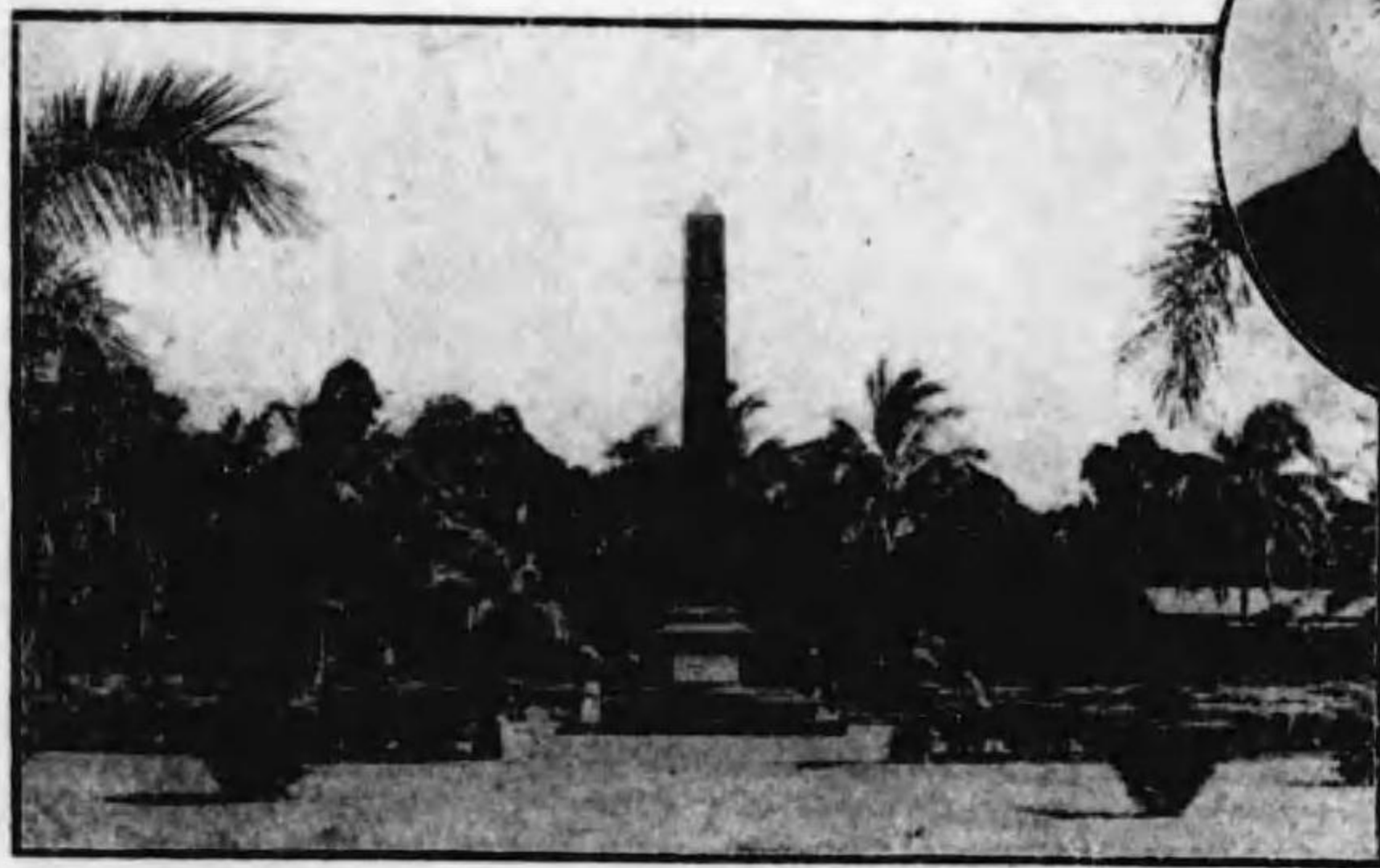
バギオは邦人の手によつて開かれ、ある程度まで邦人の手によつて支へられてゐるといつても過言ではない。

邦人の手になるベンゲット道路 マニラとバギオを結ぶベンゲット道路は、政府が六百萬圓の巨費を投じ、數百の人命を犠牲に供した難工事であつた。工事の初めには土人労働者を使役したが、遅延として捗らなかつたので、結局日本人労働者を入れることとなつた。明治三十六年始めて邦人労働者がこの工事に従事したので、さしもの大工事もつひに完成したのである。今日、朝マニラを出発すれば夕刻前にバギオに着くが、車上悠々と左右の景色を眺めつゝ進むものは、同胞の血みどろの苦闘と七百數十名の尊い犠牲とに對して、衷心から感謝の誠を捧げずにはゐられない。

一六、日本人の拓いたダバオ

南洋における邦人の栽培企業地として有名なのは、英領北ボルネオのタワオとフィリピン群島のダバオである。ダバオはミンダナオ島の東岸ダバオ灣の奥にあつて、ダバオ州の主都である。こゝは邦人の手によつて開發され、今でも多數の在留邦人を擁してゐる。フィリピンの特産物である麻の栽培地として、その名を世界に知られてゐる。

ダバオ開發の恩人 ダバオに於ける邦人の發展を知る上に忘れてならない人物は太田恭三郎その人である。彼こそはまことにダバオ開發の恩人である。彼はベンゲット道路工事に従つた邦人移民の食糧取扱をしたのが縁となり、明治三十八年その工事が終了した後、一部の邦人労働者を引連れてダバオに渡り、そこで麻の栽培を始め



第 84 圖 太田恭三郎とその記念碑

たのである。彼は先驅者の擔ふべき運命である。悪戦苦闘を續けた末、明治四十年太田興業會社を創立し、漸く邦人移民地としての基礎を築いた。その後におけるダバオの發展は目ざましいものがあり、太田氏の奮闘史はやがてダバオ發展の歴史となつた。ところが惜しいかな、彼は



第85圖 ダバオ市街

大正六年僅か四十三歳で有爲の前途を残してこの世を去つたのである。歿後九年、關係者の手によつて彼の記念碑は邦人集團の中心地ミンタルの丘上に建立され、ダバオ訪問者をして邦人海外發展の殊勳者たる彼の偉業を永遠に偲ばしめてゐる。

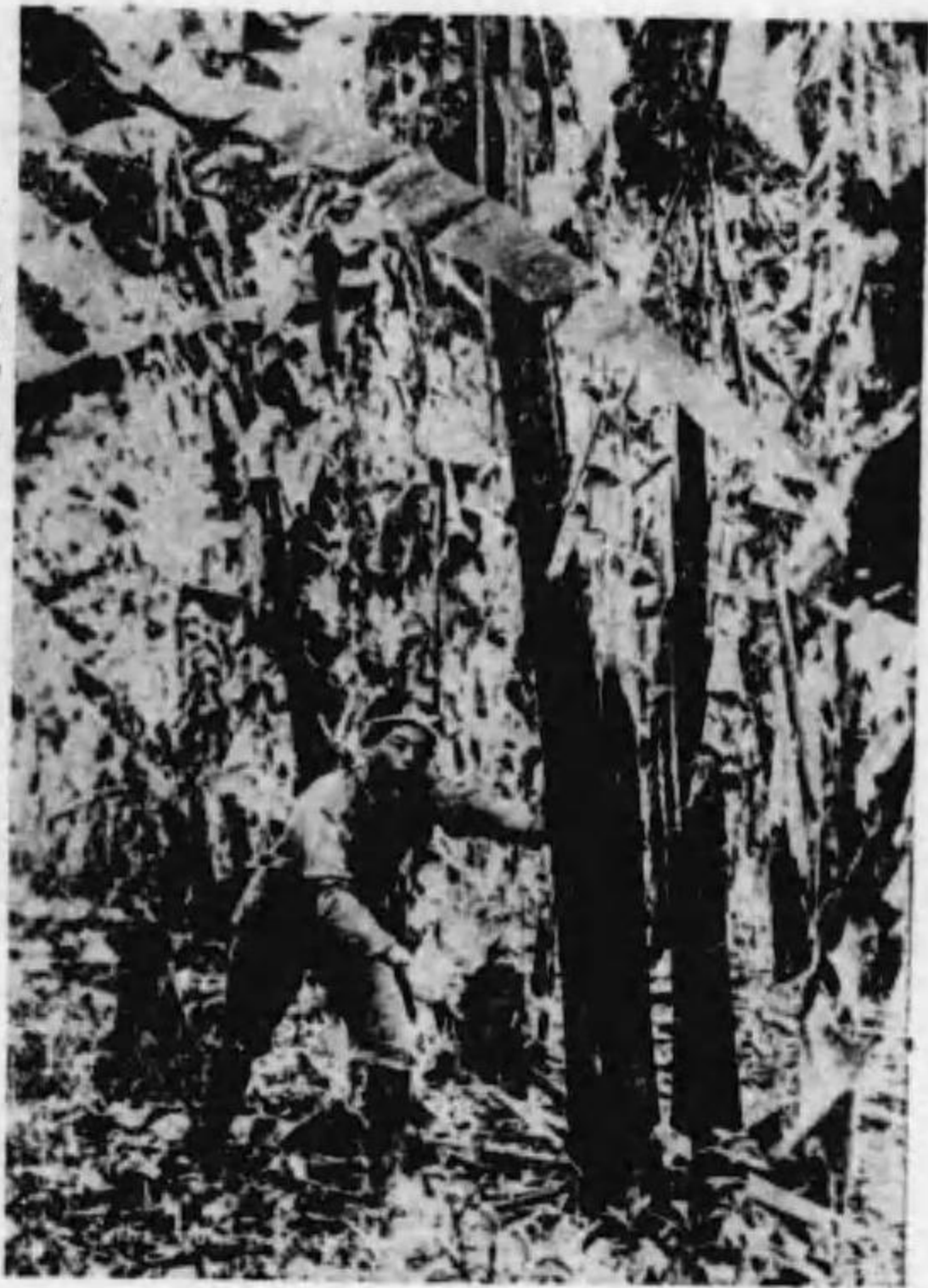
**ダバオ附近の邦人の發展** ダバオ州内に在留する邦人は一萬八千人に達し、南洋各地に在住する邦人總數の約四割に當つてゐる。邦人在住者は主にダバオ灣の西海岸殊にダバオからサンタクルスまで約五十キロに及ぶ自動車道路附近とその西方の一帯に居住し、タモル、ミンタル、ダリヤンを含む地方が邦人活動の中心地である。道路の完備してゐることは驚くばかりで、自動車の通じない所

はほとんどなく、自動車賃も頗る安い。ダバオにある邦人會社は太田興業會社、古川拓殖會社を始め四十餘りあつて、その投下資本は約三千萬圓に達するといはれてゐる。邦人の所有又は租借する土地は約三萬二千町歩で、その中に未開墾の所もかなりある。その他の土地にしても邦人の手によつて開發する以外方法のない有様であるから、邦人の發展地としては最も好條件に恵まれてゐる。最近まで日本郵船の濠洲航路は往復共にこの地に寄港して、邦人移民の便を計つてゐた。



第86圖 マニラ麻の畑

**マニラ麻** マニラ麻は土名でアバカといふ芭蕉に似た植物の莖から纖維を取つて乾したもので、ロープ製造を始め、帽子や織物に作り、屑は製紙の原料に用ひられる。アバカはフィリピンの特産で、その栽培には氣温の高い方がよい。多量の水分を要する植物であるから、雨量の多い地方、または空氣中に濕氣の多いたとへば河川・沼澤に富む地方によく育つ。アバカは植付後二年たてばマニラ麻を取ることが出来る。その後五年間は生産高が最も多く、六年目から漸減する。しかし植付後十五ケ年ぐ



第 87 圖 麻 の 伐 採

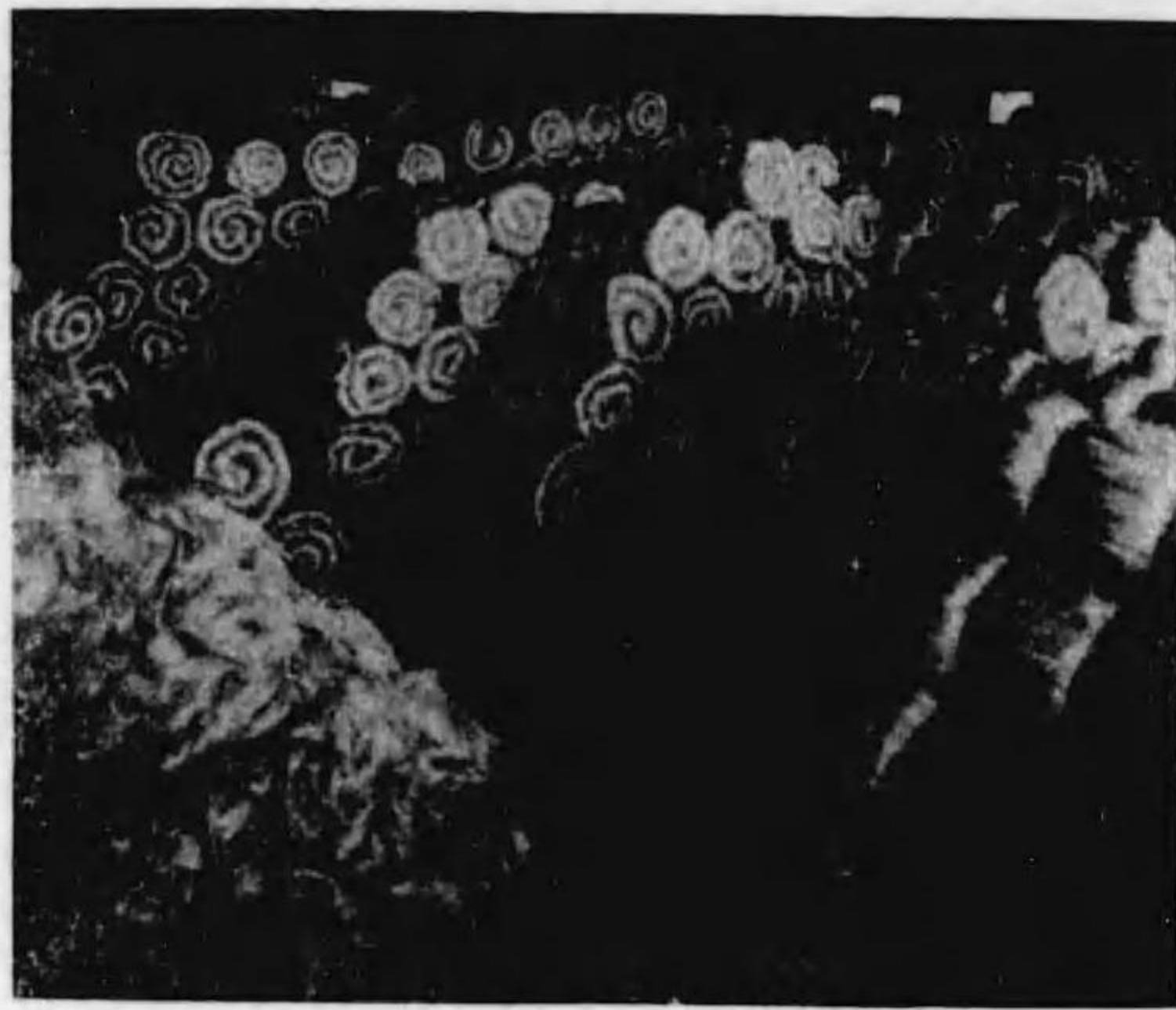
らるは經濟的價值を持つてゐる。

マニラ麻は他の麻類に比べて、淡水及び海水の何れに對しても耐久力が強く、浮力が大であるから、船舶用ロープとしては缺くべからざるもので、年々その需要が増大してゐる。

マニラ麻の産額と輸出狀況 マニラ麻は約百

年前から世界的商品として取扱はれるやうに

なり、爾來長足の進歩を遂げ、最近ではフィリピン全體で年十八萬トンの輸出を見るやうになつた。生産額においては世界總産額の約四割を占めてゐる。マニラ麻は従來ルソン島の南部に産し、大部分がマニラから輸出されてゐたので、商品として「マニラ麻」の名を勝ち得たのである。後ダバオ州が主産地となり、一九三七年にはフィリピン群島麻生産額の三五%を占めるに至つた。しかもその中心地は、ダバオ市であつて、實に全州生産額の九八%を産出し、品質に於ても斷然他州産を壓してゐる。そのため近年主要輸入國である日本や歐米各國の市場ではマニラ麻のことをダバオ麻と呼んでゐる。ところでそのダバオ麻の七八割までは邦人の手によつて生産せられてゐるので、現状のまゝで進むものとすれば、フィリピン總輸出品中第三位



第 88 圖 麻 絲 の 山

を占めるマニラ麻は、全くわが同胞の經營に依存するやうになるであらう。

マニラ麻の大部分は原料のまゝ海外に輸出される。一九二〇年頃まではフィリピン輸出品の大宗で、總輸出額の半以上を占めてゐたが、砂糖の進出によつて第二位となり、更に最近コブラ、椰子油類の増加のため、つひに第三位に墜ちてしまつた。しかしマニラ麻の生産は現在なほフィリピンの獨占の如き點があるから、世界的に見て重要な輸出品である點では變りはない。マニラ麻の主な輸出先は日本・米國・

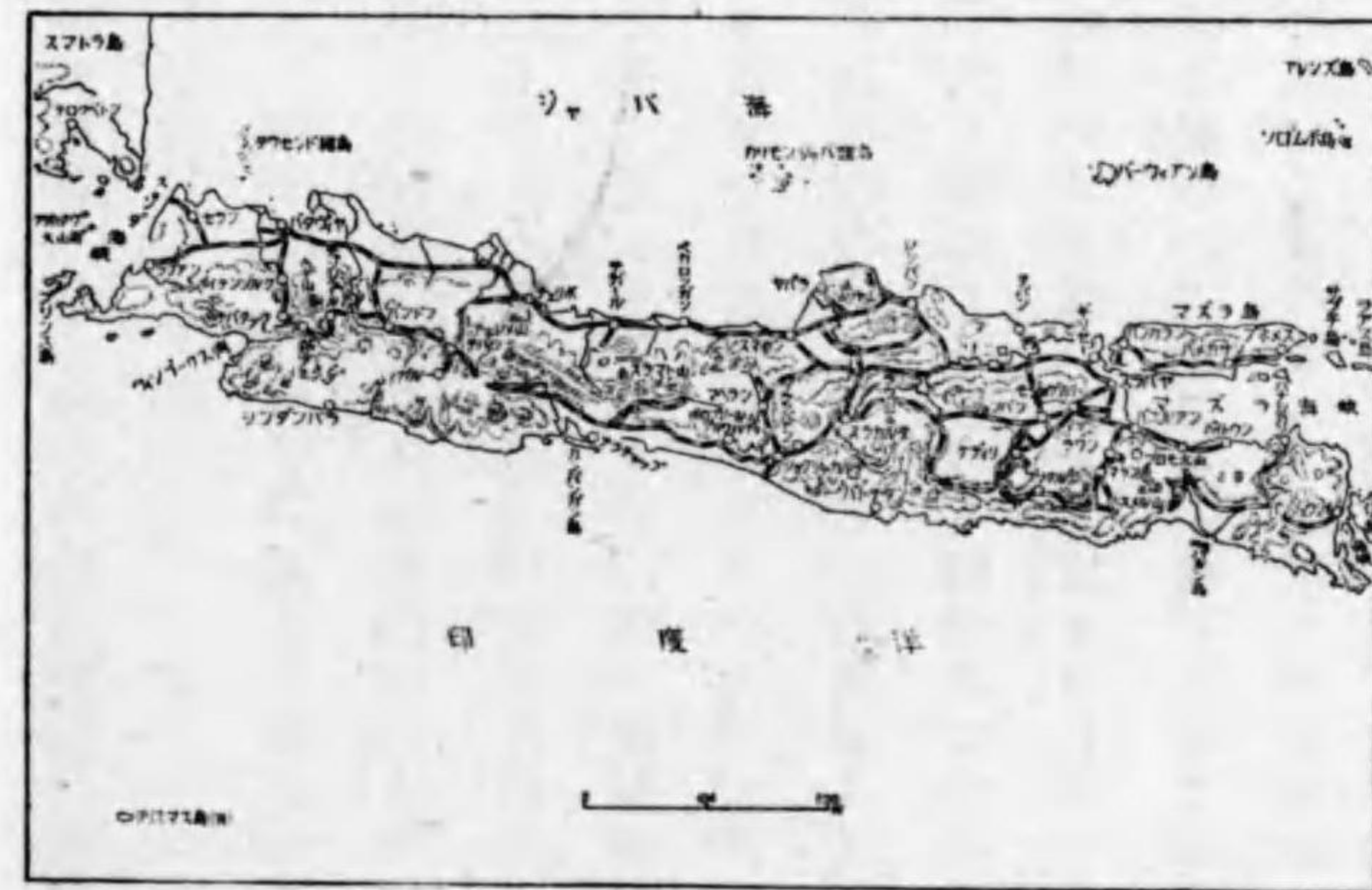
英國及び歐洲諸國に大別されてゐるが、日本への輸出は全體の約三割で第一位を占めてゐる。又ダバオに於ける麻輸出は、その七割までが邦人商社によつて取扱はれ、海運も大半邦船によつてゐる。かやうにダバオに於ける麻事業が、その生産・貿易・海運・消費等あらゆる分野に於て斷然他國を壓倒してゐることは、躍進日本の姿を如實に現してゐるものといふべく、我等國民の誇として刮目すべきものがある。

## 一七、蘭印の心臓ジャバ

### 南洋の寶庫

蘭印諸島はスマトラ・ジャバ・小スンダ列島・ボルネオ・セレベス・モルッカ群島・ニウギニヤとその附近にある島々から成り、全面積百九十萬平方キロ、人口七千萬以上を有し、面積人口とも全南洋の半を占めてゐる。オランダ本國が、わが臺灣よりも小さい國でありながら、なほ世界の「持てる國」の一つとして樂に暮してゐられるのは、實に本國の五十八倍もあるこの蘭印を持つてゐるからで、蘭印こそは、まさにオランダの寶庫であるといへよう。

しかるにこの廣大な蘭印のうち、眞に開發されてゐるのは、ジャバ島だけで、その他はあまり手がいづてゐない。したがつて、人口もジャバに集中し、ジャバ一島で蘭印全人口の七割を占めてゐる。かやうにオランダがジャバ一島に特に力を入れて他の島々を顧み



第89圖 ジャバの地圖

ないのは、決して他の島々に見込がないからではなく、オランダにそれだけの實力がないからである。したがつて列強の眼は常にこゝに注がれ、蘭印をめぐつて國際競争が行はれるのも故なきにあらずである。

**世界一の人口稠密地** ジャバの面積は十三萬平方キロで、わが九州と北海道とを合はせたくらゐである。人口は四千百七十二萬、その密度は一平方キロに三百十五人でわが國の二倍に當

り、實に世界一の密度である。しかも面白いことにはその分布状態で全人口の九割が村落に住んで農耕にいそしんでゐることである。それで村落といつても必ずしも人口がまばらなわけでもない。

**理想的な農業經營** ジャバはまことによく開發されてゐて、

どんな山の頂にも耕地があり、米・甘蔗・ゴム・茶・規那・コーヒー等の有用植物が至るところに植附けられてゐる。オランダ政府はこの地に農業に關する種々の研究所を置いて、適地作物の栽培に合理的な施設を行つて優秀な成績をあげてゐる。合理的な施設として、第一に驚かされることは、灌溉



第90圖 ジャバの水田

排水設備が非常に理想的なことである。それはオランダ本國が海面よりも低く、そのため排水の技術が頗る發達してゐるからであつて、その獨特の技術をジャバに應用して成功してゐるのである。排水設備がよいから、寸土尺地といへどもよく耕作され得る。その上オランダ人はよく道を作る。道路は實に立派で、二千メートルの山上にまで自動車で行ける。さういふことがまた農業經營に影響してゐることはいふまでもない。

かやうに産業交通施設がすぐれてゐる上に、暴風雨がなない、土質が火山灰で極めて肥沃である、光と熱とに恵まれてゐる。植物の種類が豊富である。つまりジャバの産業はオランダ人の技術と豊かな天恵が巧に組合はされて、立派に實を結んでゐるのである。

**南洋の樂土** 旅行をしてもジャバほど面白い所は他にあるまい。自然の風光は勝れ、珍奇な果物は旅行者の渴をいやすに十分であり、巨樹は鬱蒼として黒い影をつくつてゐる。その上至れり盡せりの文



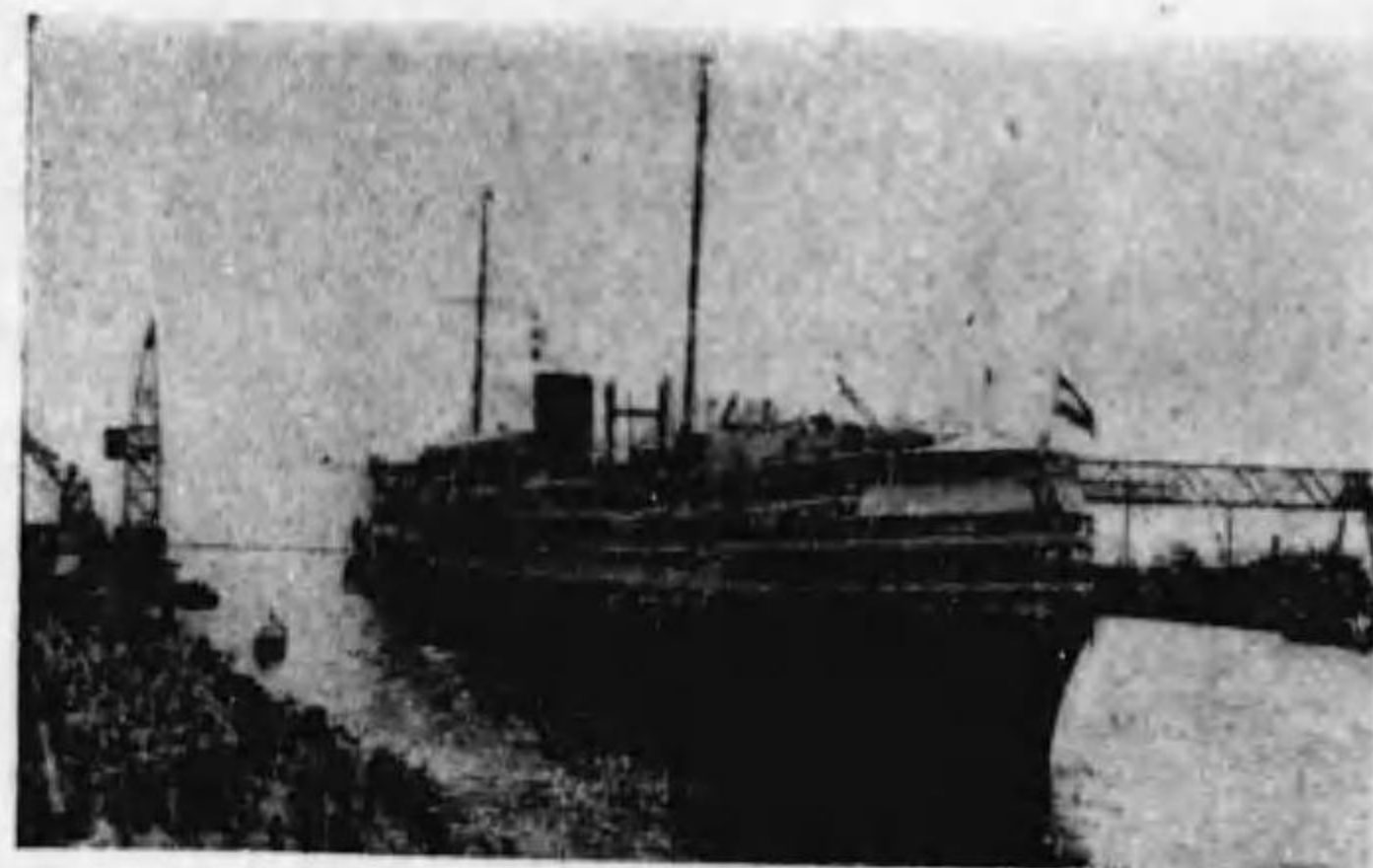
第91圖 ジャバ産業圖

化施設は、旅行者に限りなき満足と與へる。瀟洒な住宅、廣いベランダ、そのまはりの廣い庭園、チューリップの花畑、それらの住宅が秀麗なジャバ富士の山懷に抱かれて、あちこちに點在する有様はけだし一幅の繪であり、詩である。ジャバこそは眞に南洋の樂土であらう。

**バタビヤ** バタビヤは蘭印の首都、人口五十三萬を有する近代都市である。一六一九年オランダ人によつて建設された最も由緒ある都で、バタビヤとはオランダ人(バターフ)の居る處といふ意味である。各種の官衙・學校があつて政治教育の中心地であるのみならず、また近代商業

の中心地でもある。

外港タンジョンプリオクは蘭印の大玄関でバタビヤの東北約九キロ、シンガポールから四十時間の航程にある。大防波堤に包まれ、港内は廣く且つ深く港灣の施設もまた完備してゐる。貿易高も一億五千萬圓を超え、最近極めて活潑な發展をなしてゐる。こゝはまた國際航空上殊に重要な地點で、和蘭航空會社は遠く本國とアジャを結ぶ航空路を經營し、更にこゝを中心として蘭印各地に航空路を開き、またフィリピン、濠洲、印度支那とも連絡してゐる。



第92圖 タンジョンプリオク



第93圖 博物館

パタビヤは三百年來の港市であるだけに名所も多いが、ここには博物館、神聖砲、ジャガタラ首の三つだけを紹介するに止める。

博物館は上町のコーニングスブレインの一角にあるギリシヤ風の建物で、入口には一八七一年に來訪したタイ國王の銅像と、ボルネオ土王から分捕つた大砲が左右に並んでゐる。館内にはジャバ古代の遺物、美術品、工藝品等が多く陳列され、殊に黄金製の古代武器古佛像、ダイヤモンドの寶冠

等觀る人をして驚異と讚美の目をみはらしめるものがある。

神聖砲は舊パタビヤの城門であつたピナン門の中にある。長さ一五フィートのいとも不可思議な形の大砲で、無智な土人や支那人にひどく尊敬されてゐる。土人たちは之に詣でると石女もその功德で子が授かるといつて、參詣者引きもきらず、香花



第94圖 神聖砲

の絶えることがない。

ジャガタラ首はピナン門から程遠からぬ所の石壁の上にある。即ち今から二百年前に槍の先で突き刺されたままの梟首が残つてゐる。その首はドイツ人を父とし、ジャバ人を母とした混血兒のもので、彼は常々オランダ人に不満をもち、遂に一七二二年同



第95圖 ジャガタラ首

志と語らつて、ジャバに於けるオランダ人を一舉に虐殺せんとする大陰謀を企てた。それが危く事前に露見し、捕へられてその首を自己の邸宅の壁に縫ひつけられてしまつた。それが今もなほそのままに残されてゐるのである。首のさらされてゐる壁面には「反逆者ピーター・エルベルフェルトの呪はれたる記念を永久ならしむるため、何人もこの邸に家を建つべからず、樹木を植うべからず」と刻んである。

## 一八、蘭印の名所

### 一、夢のバリ島

地上の樂園 バリ島はジャバのすぐ東にある小さな火山島で、全島ほとんど山におほはれて平



地は極めて少い。中央には三千メートルをこえるグヌン・アグンをはじめ、多くの秀峰がそびえ立ち、パトゥール等の大火山湖は静かに紺碧の水をたゞへ、大小の清流と相俟つて山紫水明の境をなしてゐる。



第96圖 バリの女

バリは實に平和の島、夢の島である。腰にサロンを捲き、乳房もあらはに水をくむ若い乙女たちの純な瞳にも、物を頭にのせて運ぶ老婦たちの原始的な姿にも、満足と平和なかげが漂ふのみで、そこにはいさゝかの不満も不平も見られない。原始そのまゝの、もの静かな夢のやうな生活、これらが、バリをして「地上の樂園」と謳はしめるに至つたものであらう。

バリ島は男女の比が一〇對一七で女が極めて多い、自然男が怠けて女が働くやうになる。バリの女はよく働く、彼女たちは朝から野菜や、果實、鶏などを頭にのせて賣りに行き、歸ればまた田島でせつせと働いてゐる。ところが男は門前に坐りながらのんきさうに闘鶏用の鶏を胸にかゝへながら、しきりにその羽をさすつてゐる。年に一回の闘鶏に氣狂のやうになる位が男たちの仕事の全部であるかのやうに思はれる。



第97圖 豚賣女

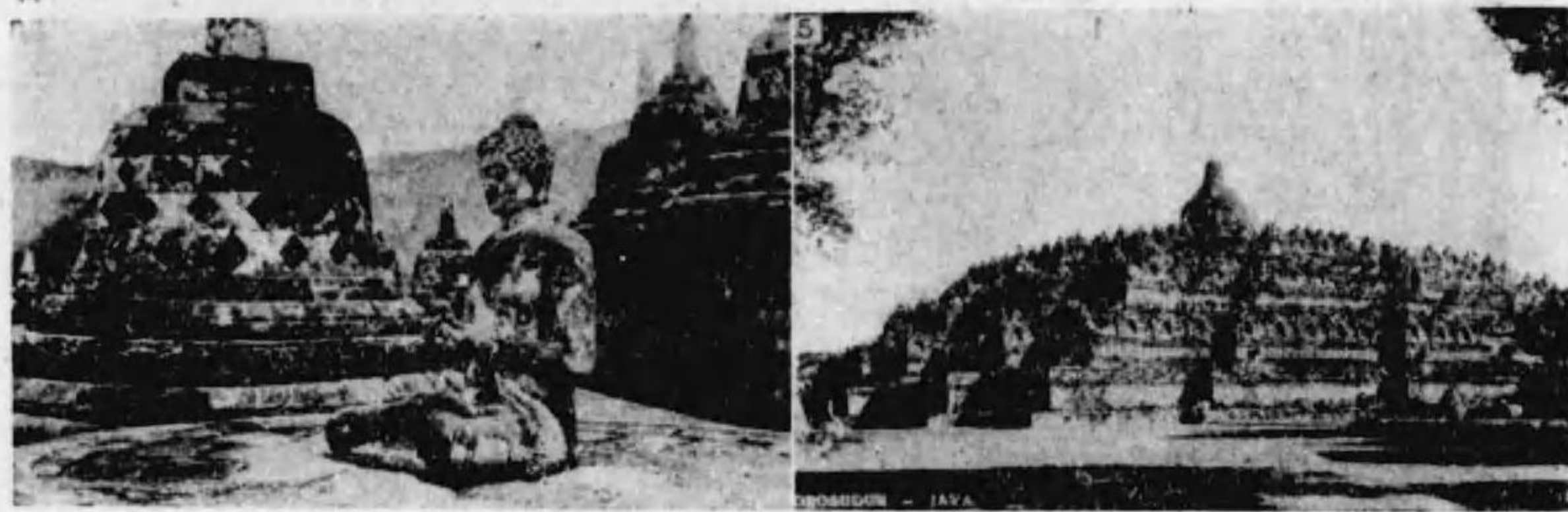
### 藝術と宗教の島 廣い蘭印には回教が花を咲かせて

あるが、このバリ島だけはヒンヅー教を奉じてゐる。嘗つてはジャバあたりもヒンヅー教と佛教が大いに流行してゐたが、今から五百年前アラビヤ人が渡來するに及んでほとんど回教徒となつてしまつた。然し信仰に生きる者は自由の天地を求めてこのバリに逃れたのであつた。百五十萬の島民は素朴な原始的生活を営みながらも、ヒンヅー教を固く守り續けて今日に至つたのである。政府もまたこれを保護して、バリ島だけにはキリスト教の布教を許さない。

バリを訪れて第一に驚くことは寺院の多いことである。村といふ村には必ず寺院がある。オランダ人は「バリ、そこは數千の寺院のある島である」といつてゐる。あかねさす朝日を浴びたグヌン・アグンの山を背景に、古色蒼然として神さびた大殿堂にぬかづく彼等こそ敬虔そのものである。



第98圖 バリのお寺の門



第101圖 同

上(2)

第100圖 プルブドールの佛教遺跡(1)

踊りだす。頭には金色燦然たる冠を戴き、原始的な色の強い衣服をつけていとも巧みに踊る。踊子たちには男もゐるが、大部分はみめうるはしい十三、四歳の少女たちで、色こそ黒けれ、すてがたい風情がある。歌は一般に哀調を帯び、夢のやうに單調であるがそれが妙にパリの雰圍氣にびつたりして、そゞろに遊子の胸にせまるものがある。

二、プルブドールの佛教遺跡

プルブドールの佛教遺跡はジャバ島のジョクジャ市より北方約二十五キロのクドウといふ小高い丘の上に、聳え立つてゐる。背後には妙義山に似た峰々を背負ひ、前には椰子林の點々とした沃野をひかへ、輪奐の美をつくしてゐる。この佛教遺跡に對して、世界の美術家、考古學者、紀行家はあらゆる讚辭を惜しまず、印度の建築、彫刻の如きは、數ふるに足りないときさへいつてゐる。

この佛教遺跡の由緒は明らかでないが、西曆七世紀から九世紀(わが推古朝より平安中期に至る間)に至るジャバ佛教の全盛期



第99圖 パリ人の踊リ

パリ人は悲しみといふものを知らないやうだ。秋の乾燥期を選んで年に一回行はれる火葬には産を傾けて棺を飾り立て、それを神輿風に擔ぎ出す。丁度お祭り氣分といつたところである。火葬がすんだらその灰は海へ流される。この悲しむべき行事の間にも人々は決して泣かないからふしぎである。

パリの舞踊 パリが持つ魅力の一つとして舞踊があげられる。南洋土人の住むところには至るところに舞踊が行はれるが、パリの舞踊ほど神秘的でしかも魅惑的なものはない。

パリ人は音楽や舞踊を好み、祭日や宴會などにはよく踊る。舞踊は野天で熱帯特有の大森林を背景に、焚火をしながら演ぜられる。樂器としては銅羅、太鼓、大小の壺、シロフォン、色々の笛、一絃の胡弓等が用ひられてゐる。ガメラン音楽と稱するものはあまりにも有名であるが、すべては素人の手によつて演ぜられ、しかもその多くは農民である。それほどに音楽は大衆のものとなつてゐる。

樹陰に陣取つた男達のオーケストラが單調ながらも古典的なリズムを奏でると、踊子がぞろ／＼と進み出て唄ひながら



第102圖 同上(3)

に建てられたものであらうといはれてゐる。十世紀以後佛教は次第に衰へ、十五世紀になつて、回教徒のために蹂躪されてからは、この佛教遺跡も火山灰の積るがまゝに放置され、つひに地下に姿を没して、土人すらその存在を忘れ果ててゐたのである。然るに一八一一年、一時ジャバ島が英領となつた際に、時の總督ラッフルスは前人の記録によつてブルブドールの佛教遺跡を探查し、數千人の夫を使役して、非常な努力をもつて發掘したのである。その後歴代の蘭印總督が鋭意その修理につとめて今日に至つた。

この建造物は約七千坪のひろさを占め、大體において四角形をなした基壇の上に築き上げられてゐる。基面から上の頂上まで十階あつて、各階毎に廣い廻廊を繞らしてゐる。この廻廊も六階までは方形であるが、七階からは圓形廻廊で、そこに七十二の龕があり、その一つ一つに佛像が安置されてある。二階から六階までの廻廊の壁には釋迦一代記及び釋迦時代の風俗習慣が浮彫となつて、隙間なく現はされてゐる。建築の用材は砂岩と稱するが實は粗面岩、安山岩で、彫刻には頗る困難であるにも拘らず、それに見事な浮彫繪が施されてあるのだから技術者の凡手でなかつたことに敬服せざるを得ない。また錠一つ、セメント一匙をも使用せず、



第103圖 植物園内の並木

岩石を全部積み上げて完成したことは建築技術上驚嘆に値するものといはれてゐる。

### 三、ポイテンソルグの植物園

**世界一の熱帯植物園** ジャバに遊んだ者が必ず一度は杖を曳く所にポイテンソルグがある。そこには世界三大植物園の一つに數へられ、熱帯植物園として

正に世界一の稱あるポイテンソルグ植物園がある。ポイテンソルグはパタピヤの南方三十哩、坦々たるアスファルトの大道を自動車で約五十分で達するところにある。海拔二百五十六メートル、ゲデー山の山腹にあつて、東と南に秀麗な火山が聳え、風光明媚で、健康地としてもまた有名である。ポイテンソルグとはオランダ語で「心配の外」すなはち無憂境といふ意味ださうである。一七四五年以來歴代の蘭印總督の常住地となり、官邸は世界一の熱帯植物園を後庭に控へた豪勢なものである。この植物園が世界一といふ名聲を博したのは規模が大きく面



第104圖 植物園内の總督官邸

積の廣いこと、植物の種類が多くその數約二萬種に達すること、栽植が分類式に整然としてゐて研究に便であること、園内が美化されて一大公園となつてゐること等によるもので、特筆すべきはジャバの産業界に盡した偉大なる貢獻と、熱帯の植物學の進歩を促したこととである。

總面積は二百エーカーの廣大なもので、内部や周囲には農・林業試験所、標本室、研究室、腊葉館、博物館、圖書館などを併設し、科學的、實用的植物園としての面目を遺憾なく發揮し、熱帯植物研究者のメッカとなつてゐる。

### 一九、土王の生活

南洋には、昔、ヨーロッパ人がこの地に渡來する前に君臨してゐた土王が今なほ餘喘を保つてゐる。ジャバのソロとジョクジャ、マレー半島のジョホール、安南のユエ等の土王がその例であるが、此處ではジャバのソロ土王の生活を一瞥することにする。

ソロの土王はマタラム王朝四百年の傳統を嗣ぎ、生神様としてジャバ幾千萬人の尊敬を一身にあつめてゐる。王城は王



第105圖 ソロ王宮



第106圖 ソロ王及び理事官及び王女

宮を中心とし、旗本一萬騎の邸宅が軒を並べて一大偉觀を呈してゐる。この一萬の家臣達は昔ながらの封祿を食んで、生粹のジャバ生活を営んでゐるのである。王宮の門には衛士が並んでゐる。その服装たるや色鮮かに見る目もまぶしい鎧をつけ、わが王朝時代の大臣のやうな冠を戴き、弓を手にして構へてゐる。王様の乗る馬車は重い扉の内に絨氈と縞子で飾つた腰掛や窓掛があり、車體の上には金色の鳳凰がついてゐる。土王がこの馬車で町

を驅ける時には、八頭の馬にこれを曳かせ、サロンを着飾つた武士がもの／＼しく前後にお供して出るのである。

武士は金釧を附けた緑色の上着にサロンを附け、茶色のトルコ帽を冠りクリス(ジャバ刀)を腰につけて裸足で悠々と歩いてゐる。貴人の外出には必ず従者數名が後から長柄の日傘を差掛けて、ゆつたりと道路を練り歩いて行く。かうした姿はいかに



第107圖 瓜哇王の行列

もこの古都にふさはしい情景である。

ジャバの土人にとつて、ソロの王様はいつまでもスフーナン(大王の意)である。全宇宙がこの王様を中軸として廻轉してゐると信じられてゐるから、王様は年一回必ず儀禮的な休息をとつて、土民の歓迎をお受けになるのである。この時ジャバの土民達は遠近を問はず夜を日についで四方の村落から王城の前に集つて来る。それが彼等にとつて無上の光榮なのである。

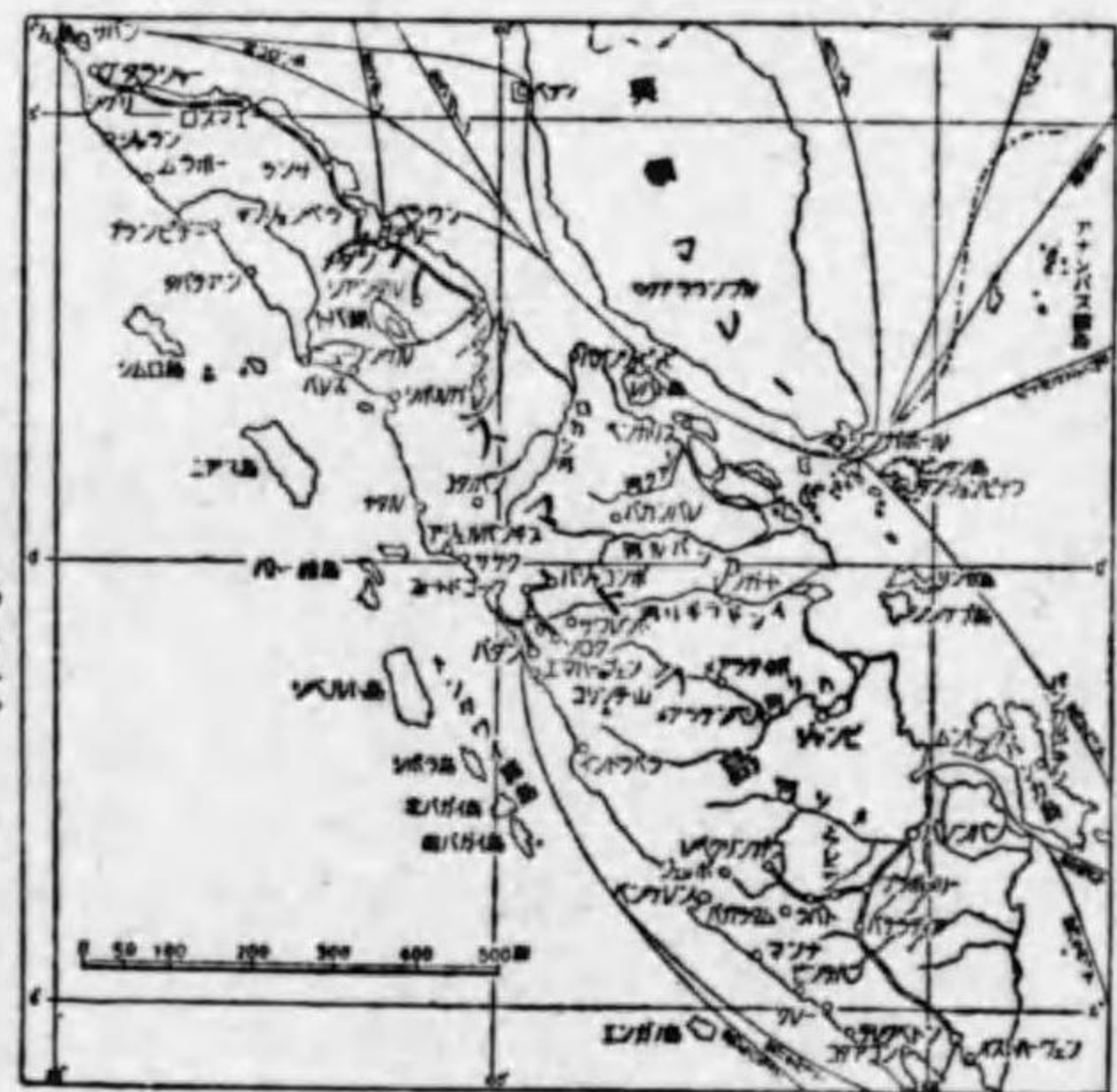
オランダはこのやうな土王に昔ながらの生活を許し、二百五十萬ギルダの年金を與へて王者の威嚴を保たせてゐる。しかし反面、王城の背後にはいかめしい城壁があつて、城壁の銃眼からはオランダ砲兵の砲門が一齊に王城に向いてゐる。また王宮にはオランダの理事官が顧問として附添ひ、一切の行動を監視し、外客との應接は勿論のこと、面接の際の會話まで一切監視してゐる。その上、都には別に獨立の地位を與へた由緒正しい貴族である大公を置き、若し王にしてオランダ政府に對し一指でも動かすやうなことがあれば、直ちに王を廢してその大公を王位に上らせるぞと威嚇してゐる。曾ては威令ならび行はれた土王も今では文字通り「王冠を戴ける囚人」として希望のない生活を送つてゐる有様である。こゝにもオランダの巧妙な政策をうかゞひ知ることが出来る。

## 二〇、有望なスマトラ

**第二のジャバ** スマトラは面積四十七萬平方キロ、世界第五位の大島であるが、人口わづかに八百萬、その密度は我が國內地の十分の一にも達しない有様である。幾多の資源に富んでゐるが、今なほ到るところ未開發のままになつてゐる。今後適當な施設をして、その開發に努めたならば、その發展は計り知れないものがあらう。明日の蘭印を背負つて立つものはスマトラであるといつても過言ではあるまい。

**有望な栽培業** スマトラにおける栽培業は東海岸のメダン、南部のパレンバン、西海岸のパダンが中心地であつて、この三市を基點として各、その後背地へ向つて發展しつゝある。農園は一般にジャバのものより大規模であるが、これは人口稀薄で比較的大面積の土地が自由に得られるためである。

煙草の栽培は一八六四年スマトラ東海岸地方に有望な煙草耕地が発見されてから急に盛とな



第108圖 スマトラ



第109圖 煙草苗床及植付直後

られ一〇%がアメリカへ輸出される。

茶の栽培は一九一二年以來のこと、スマトラの土質が茶の栽培に適してゐることが唱へられてから、東海岸地方の高原地帯に茶園を拓くものが續々と現はれ、シヤンタルを中心とした茶産地はジャバを凌ぐ勢となつた。現在茶の産額はジャバの二分の一に達してゐる。

ゴム栽培は本島最大の産業で、最近異常の發達を遂げ、東海岸地方、アチエー州、中央山脈の東斜面及び西海岸地方等各地に盛である。なかでも東海岸地方において最も大規模且つ組織的に行はれ、この地方の産額のみでジャバ全土の生産額に匹敵し、實に蘭印總産額三十萬トン



第110圖 ゴム園

の四十五%を占め、英領マレーを凌ぐばかりの勢である。各國の投資もこのゴム栽培に主力を注ぎ、邦人の之に従事するものも可なり多い。ボルネオゴム園、スマトラゴム園、南洋ゴム園等の諸會社は、相當の發展を遂げてゐる。油椰子は一九一〇年頃ポイテンゾルグの植物園よりスマトラ東海岸地方に移植されたものであるが、この栽培はそ

の後顯著な發達を遂げ、遂に世界的のものとなり、本島においてゴム・煙草に次ぐ重要作物となつてゐる。油椰子の油は人造バター製造に適してをり、油脂として獨特の地位を占めてゐる。油椰子の成育はココ椰子より早く、植付後四年目から收穫される。邦人でこの事業にたづさはるものも多く、特に野村、三菱、大倉等の資本による農場は好成績をあげてゐる。

以上の外にコーヒーは高原地帯に於て土人によつて栽培されその産額は蘭印第一であり、マニラ麻も新しい産業として東海岸地方にその栽培が年々盛になつてゐる。しかし第二次歐洲大



第111圖 油椰子園

戦の影響を受け、ゴム以外の栽培業は擧げて苦境に陥り業者はその應急策に腐心してゐる。

**東亞最大の油田** 蘭領印度には豊富な油田が多く、知られてゐるものはスマトラ油田・ジャバ油田・ボルネオ油田・セラム油田・ニウギニヤ油田であるが、現在採掘されてゐるものは、スマトラ・ジャバ・ボルネオ・セラムの油田である。その産額は世界産額の二・八%を占め、世界第五位にある。僅か二・八%といへばいかにも貧弱なやうに思はれるが、實は八百萬トンで東亞における最大の産額である。

スマトラ油田は蘭印油田中最大の産出を有し、蘭印總産額の六七%を占めてゐる。南部・中部・北部の三油田に分れ、南部油田はパレムバン、中部油田はヂヤムビー州、北部油田はアチエー州、東海岸地方を中心としてゐる。パレムバン油田は現在隆盛を極めてスマトラ石油の六十%を産し、蘭印の油田中一頭地を抜き大いにその將來を囑望されてゐる。現在スマトラの産油量は五百三十二萬トンでその内パレムバン三百十二萬トン、ヂヤムビー二百二十萬トンである。尙この外に島内到的所に未開發の油田があるので、各國とも競うてこれが開發權の獲得に努力して來たが、オランダ政府はその利益を獨占せんがため、各國の進出を制限するに至つた。現在これ等の油田は主にイギリス・オランダ系資本のバターフセ會社、この會社と蘭印政府共同出資の蘭印石油會社、米國系のオランダコロニアレ石油會社の三つで經營されてをり、産油

の七十%はイギリス・オランダ系の會社で占め、残りは米國系會社で占めてゐる。

この外にオムピリン・ブキット・アセムからは石炭が豊富に産出し年百二十萬トンの産額がある。スマトラ北方のバンカ、ピリトン島は世界第三位の錫の大産地である。また近くのピントンはアルミニウムの原鑛ボーキサイトを多量に産し、その大半はわが國に輸入されてゐる。

### 二一、セレベスの印象

**未開發の島** セレベスは蘭印諸島のうちで最も變つた形をした島で、面積は十九萬平方キロ、我が本州から中國を除いたくらゐの廣さである。人口は四百二十萬人、一平方キロあたり僅に二十二二人、ジャバの三百十五人にくらべて非常なちがひである。

セレベスは一般にジャバにくらべて土地がやせてゐるが、東部のミナハサ半島や南セレベスのマカッサルは豊沃で農業に適してゐる。

住民は土人四百十七萬人、支那人四萬人、ヨーロッパ人(主にオランダ人)八千人、日本人六百人、その他



第112圖 セレベスの地圖



第113圖 トラヂア族

の順となつてゐる。土人には、トラヂア族、ブキス族、マカッサル族、ミナハサ族等があるが、最も多いのはブキス族で、多くは南セレベスに於て支那人に負けない程の商賣上手である。日本人は多くマカッサル、メナドで商業に従事し、また漁業を営んでゐる。支那人は殆ど商業貿易に従事して經濟上の勢力を握つてゐる。

セレベスの産業は農業以外、殆ど未開發の狀態にある。農園では主にココヤシ、コーヒー、カボックの栽培が行はれ、コブラは蘭印全體の四割を産出する。農業に次ぐものとしては水産業で、近年メナドを中心に日本人漁夫が鰹をとつてゐる。地下資源としては石油・金・鐵・ニッケル・マンガン等があるが、その採掘はいづれも隆盛を見るに至つてゐない。

**メナド附近** メナドは南のマカッサルと共にセレベスに於ける貿易港である。港らしい設備は何もないので不便であるが、後方には美しいクラバット山が長く裾をひき、紺碧の海と相映じ、



第114圖 メナド

恰も保養都市の如き觀がある。人口二萬七千、我が國は領事館を設けて邦人の發展に努めてゐる。セレベスの北端地方即ちメナド附近をミナハサといひ、本島では一番開けた地方である。大部分は火山地帯で秀麗な山が多く、一帯の高原は火山灰に被はれ、地味は頗る肥沃である。氣温・降水量の上では他の地方と大差はないが、高温の季節に湿度の低いことは人類の活動に適してゐる。又風土病も殆どない。

ミナハサ族はメナド附近に住んでゐて、全部キリスト教に歸依し、文化も向上して蘭印中最も進歩してゐる。教師や下級官吏、下士官以下の軍人等が多く、官吏となつたものにはジャバその他の地方まで進出してゐるものがある。しかし生活に窮してゐる爲め、格安な日本品を歓迎し、高價なオランダ品を買ふことを好まないが、これを強ひられるのでオランダ政府に對して不平を抱く者が多い。

土人は稻・椰子・コーヒー・玉蜀黍等を栽培し、歐人は大規模にココ椰子・カボック・香料植物等を栽培してゐる。この地方には農園以外の地にココ椰子が到る處に繁茂してゐるが、これについては次のやうな話がある。

此處の土人は生活苦のために嘗ては嬰兒を殺す蠻風があつた。宣教師はこれを救ふために、一兒が生れると二本の椰子を植ゑることを教へ子供が十歳になる頃には、椰子に多くの實が



なるから、これを生活費に宛てさせた。それが積り積つて今日の如き椰子の大産地となつたといふ。

椰子の多いのに従つてコブラの産額も多く、外領(ジャバを除く蘭印)産額の約五割を出してゐる。カボックの産は外領中最も多く、香料の肉荳蔻に至つてはモルッカ諸島と共に世界産額を獨占してゐる。水産業は邦人によつて開かれたものであるだけに、今日も邦人の獨壇場である。殊にブートンは嘗ては無人にも等しい所であつたが、我が漁夫が鯉漁業に従事してから次第に發展し、今日では數千人の大部落となつた。漁獲高も多く、南洋漁場中でも最も有望視されてゐる。

**マカッサル** マカッサルはセレベス島の西南端に位し、人口八萬五千、セレベス州(島の南半)の州廳所在地である。港口に珊瑚礁があつて防波堤をつくり、蘭印第一の良港である。將來蘭印のシンガポールたるべしと誇つてゐるだけに設備もよく、一キロ半に及ぶ岸壁には六千噸級の船舶を自由に横付けすることが出来る。又その位置も極めて良いので、單にセレベスの物資の集散地たるに止らず、東はモルッカ諸島、ニウギニヤ、南はフロレス、西は東部ボルネオに至る物資の集散地となり、各國汽船が定期に寄港する。輸出品の主なる物は、コブラ・コーヒー・貝殼・香料等で、綿絲・綿織物・雜貨等を輸入する。海岸にはロッテルダム要塞があつて蘭人

侵略の昔を物語り、今は兵營になつてゐる。

## 二二、ボルネオの富源

**世界第三の島** ボルネオは赤道直下にある世界第三の大島で、面積約七十五萬平方キロ、丁度我が内地の二倍に相當する。中央には高さ二千メートルの山が聳えて居り、こゝを中心として山脈はK字型に四方に延びてゐる。クテイ河・バリト河・カブアス河・レジヤン河等、大小の河川はその間を四方に流れ、流域には果てしない大平原や、沼澤を展開し河口には三角洲を形

づくつてゐる。これらの河川は本島に於ける唯一の交通機關で、これによつて案外樂に奥地深く溯ることが出来る。土人たちは巧に獨木舟を操つて河を上下してゐる。

本島の北西部はイギリス領で、この地方は更に北ボルネオ・ブルネイ・サラワクの三部に分たれ、全島の五分の二を占めてゐる。南東部は蘭領に屬し、無限の資源を藏してゐるが、まだほとんど開發され



第115圖 ボルネオの地圖

てゐない。外國資本の投下も少く、人口は僅かに二百十七萬、その密度は一平方キロ當り四人に過ぎない。廣漠たる原野は密林に蔽はれて、徒に猛獸の遊び狂ふ場所となつてゐる。

**ダイヤ族** 南洋土人の中でパプア族に次いで野蠻なのはボルネオのダイヤ族である。ダイヤ族



第116圖 ダイヤ土人

然しどの部落に行つても今なほ數十の獨體が見られ、豊年祭の時にはこれを神に供へてゐる。

男子は我が國の六尺に似た禪をつけ、女子は上半身は裸體で腰にサロンを纏うてゐる。家は鐵木と稱する堅牢な材で造り、屋根は鐵木の葉又は椰子の葉で葺き、海岸や水邊では一、二メートルの高さに床を設けて梯子で上下する。床が高いのは、害獸を防ぐためと、濕氣を避け通風をよくし、涼しく暮すためである。一棟の家には數十家族が棲み、恰も横に長いアパートの觀がある。米を主食物とし、辛子の如き刺戟性のものをよく混用する。食事には箸を用ひず手

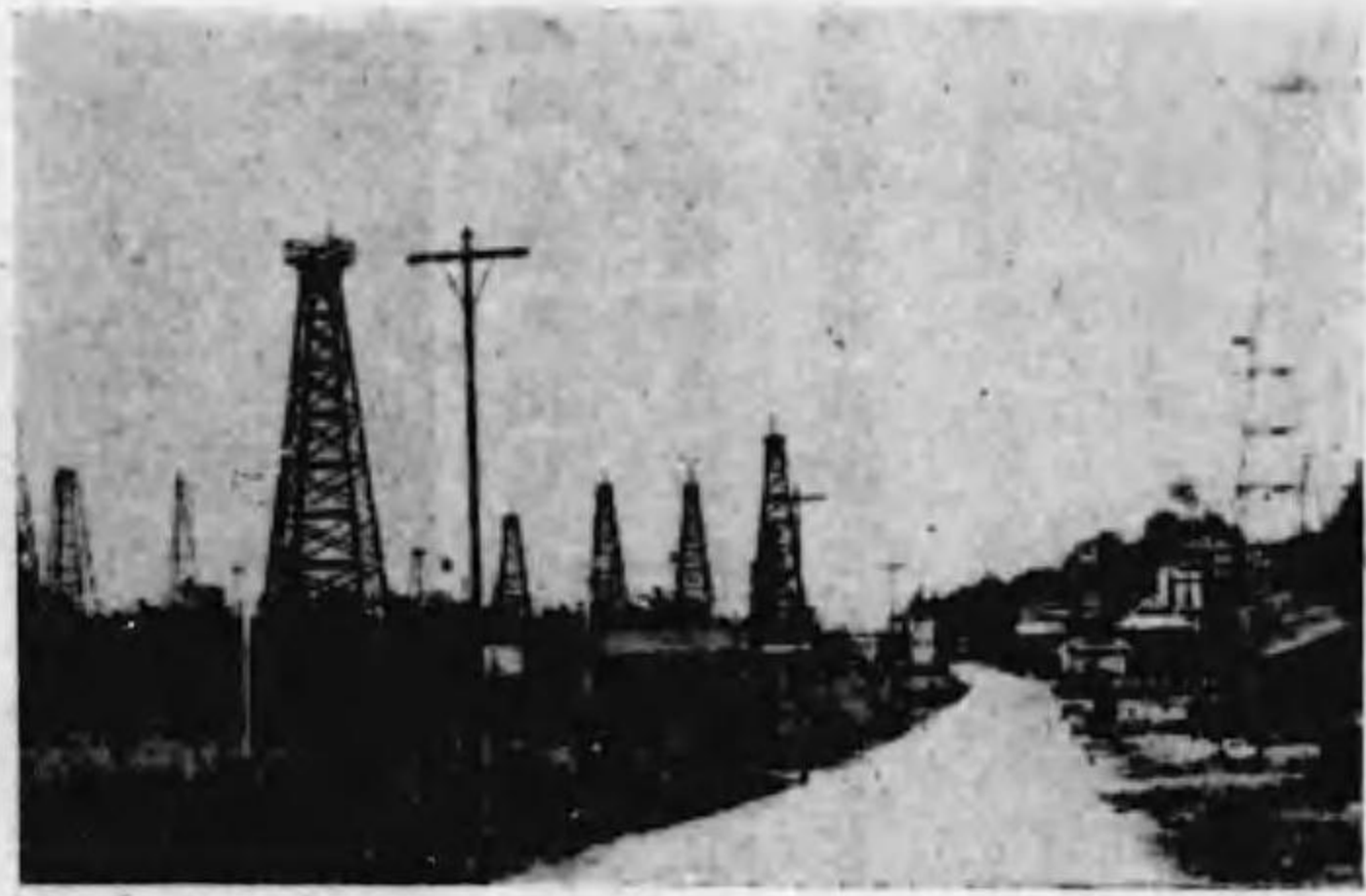
づかみである。婚姻は一族内においてのみ行ひ、男女間の關係は極めて嚴格で、之を犯す者は部落から追放される。追放は彼等にとつて死刑の宣告にも等しいものである。平地のダイヤ族は實に正直で男女共によく働き、水田の草取り、豚、鶏の手入等にはげんでゐる。彼等は我が古武士の如く刀を愛し、部落には共同の鍛冶屋がある。

**開拓者ジームス・ブルーク** マレー半島あたりの國王はいつれも土人であるが、サラワクの王はイギリス人である。初代の王(ラジャ)ジームス・ブルークはイギリス人と印度人の混血兒で、一官吏としてビルマに駐在して居たが、彼の性格は官吏として止まることを許さず、つひに探險家となつてボルネオに渡つた。時に一八三九年、たまく島内で回教君主と土人との間に争亂が起つてゐた。回教君主はブルークにラジャ(王)の尊稱を與へることを條件としてひたすら内亂鎮定の助力を請うたので、一代の風雲兒ブルークは懇請黙し難く遂に立つて之を鎮定した。彼は約束通り王位に上り莫大な土地の支配權を握り、その威令は大いに土人の間に行はれたが、やがて病を得たので王位を甥のチャールズ・ブルークに譲り、懐しのボルネオを去つて英本國に歸り、一八六八年遂に歿した。現在はチャールズ・ブルークの嗣子チャールズ・ヴァイナー・ブルークが三代目の王位を繼いでゐる。チャールズ・ヴァイナー・ブルークは半年政務を見れば、残りの半年は英國で暮してゐる。昭和四年には我が國に來遊したこともあつて、我が國を相當に理

解してゐる。

サラワク王国はイギリスの保護領ではあるが、外交に關すること以外は純然たる獨立國であつて、英國の資本をも容れぬことを原則としてゐる。しかしこゝには現在我が日沙商會がサラワク第一のゴム園を經營してゐる外、若干の米作移民がある位で、その總數百五十人に満たぬ淋しさである。

**ボルネオの富源** ボルネオは赤道直下で暑氣が強雨が非常に多い。一年間に二百日乃至二百三十日も雨が降る。この氣候は果樹や甘蔗のやうな乾期を要求するものには不適であるが、ゴムにはかへつて好都合である。その上肥えた無限の處女地を擁してゐるので、ゴム栽培こそはボルネオにおける最も將來性のある産業である。野村東印度拓殖をはじめ邦人のゴム栽培への進出は最近目覚ましいものがある。その外にサゴ椰子の栽培も盛でその幹からとつたサゴ粉はビスケットの原料や料理などに用ひられ重要輸出品の一つとなつてゐる。マニラ麻は北ボルネオの到る所に産するが、殊に東海岸のタワオを中心とする地方が最好適地である。同地の日本産業タワオ農園ではその栽培試験を長年月にわたつて行つてをり、品質はフィリピン産のものより優良であると折紙が付けられた程である。目下この地方には邦人の手によつてマニラ麻の栽培が盛に行はれてをり、第二のダバオとして繁榮を見る日もさほど遠い事ではあるまい。林



第117圖 サラワクミラー油田

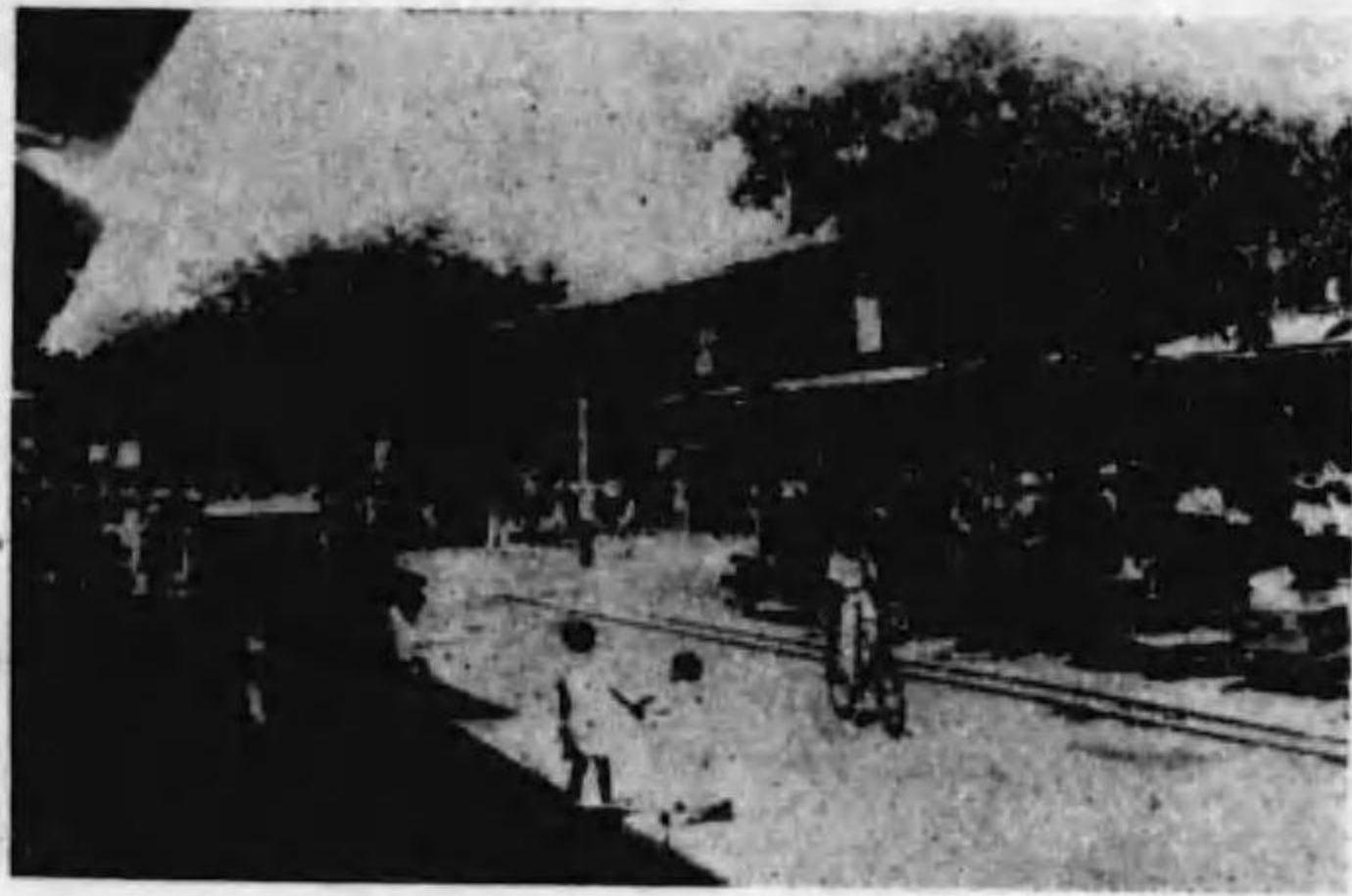
産資源はスマトラと共に無盡蔵ともいふべく、林産物はすでに重要な輸出品となつてゐる。我が國ではボルネオ杉や鐵刀木など全輸出量の三分の一を輸入してゐる。又ボルネオには鑛物の種類も甚だ多く、金・金剛石・銀・銅・アンチモニー・鐵・石炭・石油等が埋藏されてゐるが、石油を除いては未開發の状態にある。石油は英領ではサラワク・ブルネイに多く、東亞に於ては蘭印に次ぐ大産地である。ブルネイの石油はすべてパイプでサラワクに輸送されてゐる。英領ボルネオの石油産額は昭和十四年九十四萬トンであるが、その殆どがシン

ガポールに送られてゐる。

蘭領の油田は東部と南部の海岸や島嶼にあつて、現在はサンガサンガ・タラカン島・ブンヂユ島が主産地となつてゐる。昭和十四年の産額は百七十萬トンでスマトラには及ばないが、新油田が開發されつゝあるから相當期待されてゐる。我が日本石油と三井物産の出資に成るボルネオ石油會社でも東海岸のサンクリラン灣附近で、目下採掘中である。

**タワオに於ける邦人の活動**

大正二年林學士後藤房治氏が北ボルネオより招聘を受けて約二ケ



第118圖 タワオ市街

年タワオ地方の森林調査に着手した結果、この地方が農業に好適であると説いたので、我が企業家はタワオ東方の地に移民村の計畫をたて、政府の許可を得て大正五年開墾に着手し椰子園の經營を始めた。同年久原鑛業もタワオのゴム園を買収して久原農園を經營したので、多くの邦人が相次いで渡航した。そのため従来一寒村に過ぎなかつたタワオ一帯は急激な發展を遂げ、白人はタワオを呼んでジャパニーズ・セトルメント(日本人植民地)といふやうになつた。

臺灣總督府はこゝに病院を設立し、また漁場の調査等に積極的になり出して今日のボルネオ水産會社の生みの親ともなつてゐる。水産業は邦人の獨壇場で、漁獲物は歐米市場に送られてゐる。タワオ一帯に於ける在留邦人は千二百人でゴム、椰子の栽培と水産業とを主とし、近時はマニラ麻栽培をも盛に行ふやうになつた。

### 二三、謎の島ニウギニヤ

我が南洋群島の南、赤道直下に巨體を横たへてゐるニウギニヤ(一名パプア)は世界第二の大

島で、面積約八十萬平方キロ、日本全土よりも遙かに廣い。その西半は蘭領、東半は英領及び濠洲委任統治領であるが、探檢開發ともに奥地には及んでゐない、いはゆる「謎の島」である。

**山河と氣候** 雪をいたゞく峨々たる諸山脈が東西に走つてこの島の脊骨をなし、その大分水嶺に源を發する諸大河は多くは南北に流れてゐる。河の流域には廣大な平野が開けてゐるが、低濕で水路も安定しないので、經濟的價値に乏しい。海岸線は割合に屈曲に富み、良港があつて、本島開發の基をなしてゐる。



第119圖 ニウギニヤ島

赤道直下にあるために、氣候は一般に酷熱であるが、蘭領の北海岸は割合に良好で、むしろ我が南洋群島よりも凌ぎ易いといはれてゐる。

**生物** ニウギニヤは嘗ては濠洲大陸と陸続きであつたといはれ、こゝには他の地方ですでに化石となつてゐるものが今なほ生存し、また他の大陸に廣く分布してゐるものがこゝにはないといふ珍しい現象を呈してゐる。即ちカンガルー、カモノハシ、王冠鳩の如き古い時代の動物や鳥類が現存してゐる。

**パプア族** 本島の人口は約八十萬で、その密度は一平方キロ一人といつた稀薄さである。しか



第120圖 パプア族の生活

もその大部分がパプア族といふ土人である。パプアとはマレ  
ー語で縮毛を意味し、この島を一名パプア島といふのも縮毛  
の種族が多いからである。

彼等の中には外國人に使役されて、農耕に従事し、多少進  
歩してゐる者もあるが、奥地の者は蘭印第一の野蠻人である。  
これらの者は服装の怪奇なことは勿論、常に争闘を好み、今  
なほ首狩を事とし、人肉を喰ふ等の野蠻行爲をなしてゐる。  
南部ニウギニヤに住んでゐるカヤカヤ族もこれに屬し、男は  
身の丈二メートル豊かで筋骨も逞しく、頭には羽毛で作つた  
冠を被り、鼻には動物の牙をはめ、貝類の環を耳飾とし、胸には豚やカンガルーの歯牙をつな  
いだものを纏つて居る。頗る残忍で、人肉を喰ひ、首  
を貯藏して居る。近年オランダ政廳が喧しく取締るた  
め、海岸地帯では幾分この蠻風も改まりつゝある。食  
糧としてはサゴ、甘蔗、樹根等植物性のものや、蛇・  
猫・鼠等すべての動物を喰ふ。



第121圖 カヤカヤ族

**鎖された資源** 本島は今なほ未開の處女地であつて、オランダ・イギリス兩國とも自然のまゝ  
に放任してゐるので産業には何等見るべきものがない。この島が「暗黒の島」といはれるのも  
このためである。

現在知られてゐる産業の中最も主要なものは農業で、棉・ココ椰子・サゴ椰子・ゴム・煙草  
等が栽培されてゐる。棉は外國人の手によつて經營され、我が國人では南洋興發會社が蘭領ニ  
ウギニヤの西北岸ヘールフインク灣のモミ・サルミ地方に約六千町歩の農園を經營してゐる。  
ヤシ類は各地に栽培されてはゐるが、土人が常食にしてしまふ程度で産物といふ程にはなつ  
てゐない。ゴムや煙草は主に英領で外國人によつて栽培され、可なりの成績をあげてゐる。  
全島ほとんど巨木の密林に蔽はれてゐるので有用材に富んでをり、殊に鐵刀木、黑檀、白檀  
等が無盡藏であるが、ほとんど利用されてゐない。なほワニス原料となるダマール樹脂の産  
額が多く、現在本島輸出品の大宗である。我が南洋興發會社はこの事業にも當つてゐる。  
水産業は沿岸および南方のアルー島を中心とする眞珠貝・高瀬貝・夜光貝等の採取が主で、  
各國の競争も甚だ盛であるが、邦人の活躍が最も目醒ましい。

鑛物資源は全く分らぬが相當有望視されてゐる。殊に金の埋藏は豊富といはれ、英領では既  
に數箇所の金山を採掘してゐる。最近英領と蘭領の國境地帯の山地にも發見され、兩國の會社

が共同出資でその採掘を始めた。また最近油田開発のため、イギリス系・オランダ系・アメリカ系の共同資本でニウギニヤ石油会社が設立されるに至つた。

## 二四、珍しい果物

南洋には珍しい果物が多い。奇妙な形をしてゐるドリアン、形も色も美しいマンゴスチン、形がやゝドリアンに似てゐるトゲバンレイシ、偉大なパンの實、外面に硬い毛が密生してブラシを思はせるランブータン、そのほかアボカードベヤー・サボチラ・カリツサ、臺灣にも産するバナナ・パイナップル・パパヤ・バンジラウ・マンゴウ等があり、實に多種多様である。

またこれらの果物のうちには、甘いもの、澁味のあるもの、濃厚なもの、淡泊なものなど、いろ／＼あつて、いづれも特いな香味をもつてゐる。

**ドリアン** ドリアンはスマトラあたりの森林中に自生する大木もあるが、ほとんど各地で栽培されてゐる。實の大きさは子供の頭ほどもあり、外面には太くて硬い刺が一面にある。

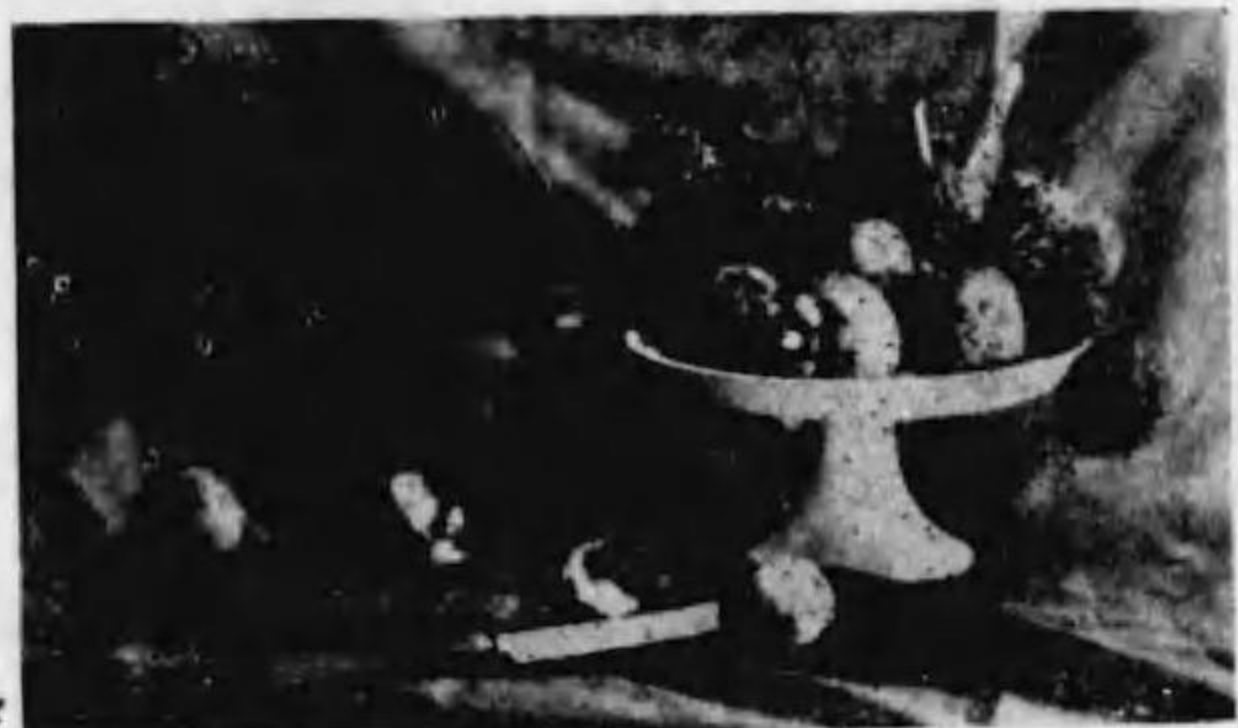


第122圖 ドリアン

ドリアンとは土名で刺實の意味である。果物の王といつて賞讃されるのは、その味が他の果物と全く違つて、一種異様な臭と濃厚な味をもつてゐるためである。これに對する土人の愛好ぶりは強烈で、熟期が近づくとその木の傍に小屋を作り、落ちるのを待つて喰べるとさへ云はれてゐる。

**マンゴスチン** マンゴスチンは一名マンギスともいはれ、形も大きさもへたのあることも柿に似てゐるが、へたが大へん大きく、臍の所に十字形で幅の広い隆起があり、色が紫色をしてゐる。皮に輪形の切目をつけ二分すると内部に白い肉が六つある。これをフォークでひきだして口に入れると淡雪のやうな感じがし、肉は自然に溶ける。芳香と甘味と酸味とがあつて、その美味なことは得も云はれない。それでこの果物は萬人に好かれ、果物の女王とされてゐる。

**サボチラ** サボチラは橢圓形で、外面が褐色をなし、熱帯の果物に



第123圖 マンゴスチン

似ず臭は強くなく、美味である。

**アボカードベヤー** アボカードベヤー即ち鱈梨は小形の梨くらゐの大きさで球形か又は卵形を呈してゐる。一種の臭味があるので萬人向きのする果物ではないが、滋養分に富んでゐるので



第124圖 パンの實

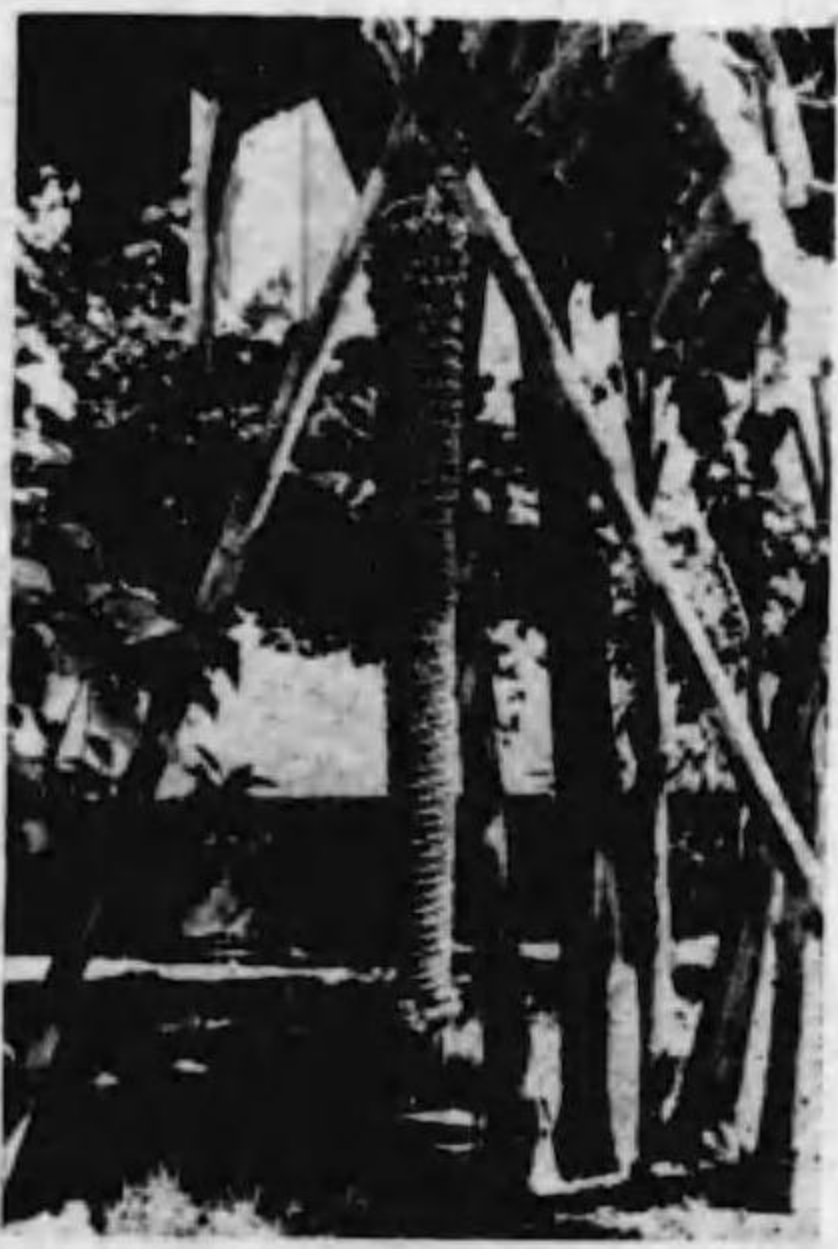
名高い。

**ランブータン** ランブータンは龍眼に似た植物である。家の表面には澤山の毛が生えてゐるので土人が毛果(ランブータン)と呼んでゐる。

**パンの實** パンの實は非常に大きい。それが幹から垂れた有様は一奇観である。この實は土人の常食となつてゐるもので、外の果物と違つて煮たり、焼いたりして食べる。

**バナナ** バナナはわが臺灣でも栽培されてゐるが、南洋には一房に二千餘りもなるものや、アイスクリームの味をもつたものなどがある。

**パイナップル** パイナップルといふと多くの人はすぐ罐詰を思ふであらうが、罐詰よりも生がはるかにすぐれてゐる。南洋では各地に栽培されてゐるが、マレー半島が最も多く、罐詰の輸出ではハワイに次いで第二位を占めてゐる。ボルネオのサラワクも有名で、こゝから産出するものには重さ三キロ以上のものがある。



第125圖 二千餘箇を實るバナナ

**マンゴー** マンゴーは臺灣にもあるが、卵形の果物で、熟すと皮が黄色くなる。肉はやはらくてうまいが、強い香氣をもつてゐるために、はじめて味ふ人はちよつと躊躇する。

**無核文旦** 南洋の柑橘類のうちで最も甘いのは、タイ國の無核文旦である。これはバンコック近くのバンマイといふ一寒村にのみ栽培されてゐる。一度これを口にしたら者は永く忘れることができないと賞讃してゐる。

## 二五、南洋の風土病

**南洋の風土病** いつも暑くて濕氣の多い南洋の諸地方では、各種の病原體やその傳播者である昆蟲などが盛んに繁殖し且つ土人の生活が極めて非衛生的であるため傳染病が多い。

**マラリア** 南洋にある病氣のうちで廣く分布し、且つ最も注意を要するものはマラリアである。マラリアは必ずしも南洋に限られたものではないが、なんといつても南洋の熱帶地に最も猖獗をきはめ著しい慘害を及してゐる。このやうにマラリアは南洋に於て保健上重大な關係をもち、南洋開發の事業がマラリアによつてしばしば失敗に終ることさへあるから、南洋に渡つて生活し、或は事業を営まうとするものは、まづマラリアを念頭に置かなければならない。

マラリアは血液に寄生する原蟲によつて起り、アノフェレスといふ蚊によつて傳播される。

南洋のマラリアには三日熱・四日熱・熱帯熱の三種があるが、いづれも間歇的に發熱し、貧血をおこし、脾臓が腫れることが主な症候である。熱帯熱はそれらの症状が最もひどく、マラリアで死ぬのは大抵これである。普通悪性マラリアといふのは大體この熱帯熱を指してゐるといつてよい。

マラリアの豫防はマラリア原蟲を傳播するマラリア蚊の發生地を處理することが根本であるが、それとともにこの蚊に刺されないやうに設備し、又この蚊の棲息しない地點を選んで住宅を建てることなども大切である。また豫防薬をのむこともよい。

不幸にしてマラリアにかゝつたならば、すぐ治療を受けなければならない。治療は發作を抑へただけでは不十分であつて、再發しないやうに徹底的に行ふことが肝要である。治療薬としてはキニーネ・アテブリン・プラスモヒン等があるが、いづれも醫師の指示にしたがつて服用しなければならない。

なほマラリアに續發する黒水熱も南洋各地に見られ死亡率が高い。このためにもマラリアを豫防することは極めて肝要である。

**デング熱** デング熱は南洋の各地にある風土病で、時として大流行をすることがある。多くは突然發熱して、三九度乃至四一度に達し、一旦下降するが再び上昇して六日又は七日目に全く

下熱するのを普通とする。發熱とともに關節がひどく痛み、普通發疹があらはれ、食欲がなくなる。この病氣で死ぬものはほとんどないが、熱が引いたあと長く色々の症状が残る。

この病氣は蚊によつて傳播されるのであるから、豫防としては蚊に刺されないやうにすることが唯一の方法である。蚊は晝間さすので、これにさされないやうにするのはなかく、困難であるが、蚊は空罐・空瓶・竹の切り株・水がめ・タンクなどのやうな水溜に發生する故、これらのものを適當に處置して發生を防ぐことが肝要である。

**カラア・ザール** カラア・ザールは南洋でもビルマに比較的多い病氣で、リーシユマニアといふ病原體によつて起る。その傳播は「さしてふばへ」の類によつて行はれるやうに考へられてゐる。死亡率は甚だ高いが、近來特效薬ができて大部分は治るやうになつた。

**恙蟲病** この病氣はマレーの油椰子の栽培地に多く、また佛印にもそれらしいものが見られる。この病氣はダニの類であるアカムシによつて傳播される。症状は二週間くらい續く高熱、發疹、さゝれた部分の潰瘍、その附近の淋巴腺の腫脹等を特徴とし、マレーでは約五乃至七%の死亡率をもつてゐる。

これに似たものでデリー熱と呼ばれるものがスマトラにある。これの傳播者はやはりアカムシの一種で、死亡率は約三%である。



右の二種はいづれも野外で感染するが、このほか家屋内で感染する型のものがある。これを地方病性又は散発性發疹熱といひ、佛印・マレー・ジャバに比較的多い。この病氣は鼠蚤によつて傳播され二週間くらゐ發熱がつゞくが、死亡する者はほとんどない。

恙蟲病・デリー熱・地方病性發疹熱の三つの病氣は何れもリッケチアと云ふ微生物に因つて起るもので特殊の療法がない。したがつてその豫防が肝心で、野外作業には身體殊に下半身をよく覆つてアカムシのはひらぬやうにし、住宅にあつては鼠退治を勵行することが大切である。

ペスト 南洋で現在ペストの存在してゐるのは、ジャバ・ビルマ・佛印・タイ國などである。そのうちジャバが最も多く、その數、年々數千を越え、しかも死亡率九十九%といふ驚くべき高率を示してゐる。蘭印當局もこれを重視し、鼠退治に努力してゐる。

コレラ コレラは近年少なくなつてゐるが、なほ佛印・タイ國・ビルマにある。これはこの地方に水上生活者が多く、隨つて病原菌が傳播しやすいためである。

赤痢・チフス 赤痢はどこにもある。アムール赤痢よりも細菌性赤痢が多い。腸チフス・パラチフスも至るところにある。南洋の多くの土地では、これら罹病者の届出をしなくてもよいことになつてゐるので、患者が出てても消毒をしない。なほ細菌性のもので南洋特有の傳染病にリオイドシスといふ相當激烈なものがあるが、これは比較的稀である。

癩 各地ともこれの撲滅に苦心してゐる。救癩事業で有名なのはフィリピンで、九千名の患者を隔離してゐる。クリオン島の療養所は世界的に有名である。

結核 結核患者も各地にあつてその數が相當に多い。南洋の熱帶地では結核の進行が早いといはれてゐる。

寄生蟲病 寄生蟲で多いのは十二指腸蟲である。これはこの蟲の發育が南洋の風土に甚だ適してゐる上に、便所が不完全であり、またはだしの風習があるためである。面白いことに佛印のカンボヂヤやラオスのやうに、地上高く組立てられた家に住んでゐる土民には比較的この病氣が少い。

蠅蟲、鞭蟲も多い。フィラリア病は南洋各地にあるが土地が限られてをり、いろいろの種類しゆるるの蚊によつて傳播される。この病氣に對しては未だ十分な治療法がない。肝吸蟲病はわづかながら各地にあり、住血吸蟲病はフィリピンの或る地方にある。

皮膚病 皮膚病には熱帶特有のものが少くない。フランベシアは南洋いたる所にあり、外觀は微毒に似て、皮膚の到るところに大きな發疹を生じ、それが潰瘍となる。進行すると骨や關節を侵すが、中樞神經や内臟は侵さない。接觸によつて感染する。特に子供に多い。これにはサルプルサンが甚だ有效なので近時各地の政府がそれによつて撲滅をはかつてゐる。又鼻の缺

けるガンゴーサがフィリピンに、關節附近結節症が南洋各地にみられる。

また南洋には渦状癬・癩風・マツラ足などの皮膚病がある。渦状癬といふのは皮膚の各所に同心性の渦紋が澤山できる病気で甚しい痒みを覚へる。癩風は圓形の白斑點の集合したもので搔くと白い粉が落ち、治つた後は白くなる。マツラ足といふのは菌が足のなかにはいつて、足がだんだん大きくなり、つひに破れて骨まで破壊される病気で、さうなるまでは少しも痛みを感じない。はだして働くものに多い。南洋にはまた熱帯潰瘍も多い。これは主に足の下部でさきる極めて頑固な潰瘍で、病勢が進むとだんだん大きくなつてまんまろく擴がる。農園などに働くものに多い。

**性病** 梅毒・氣候性横痃が各地にあり、又陰部肉芽腫が或る地方にある。

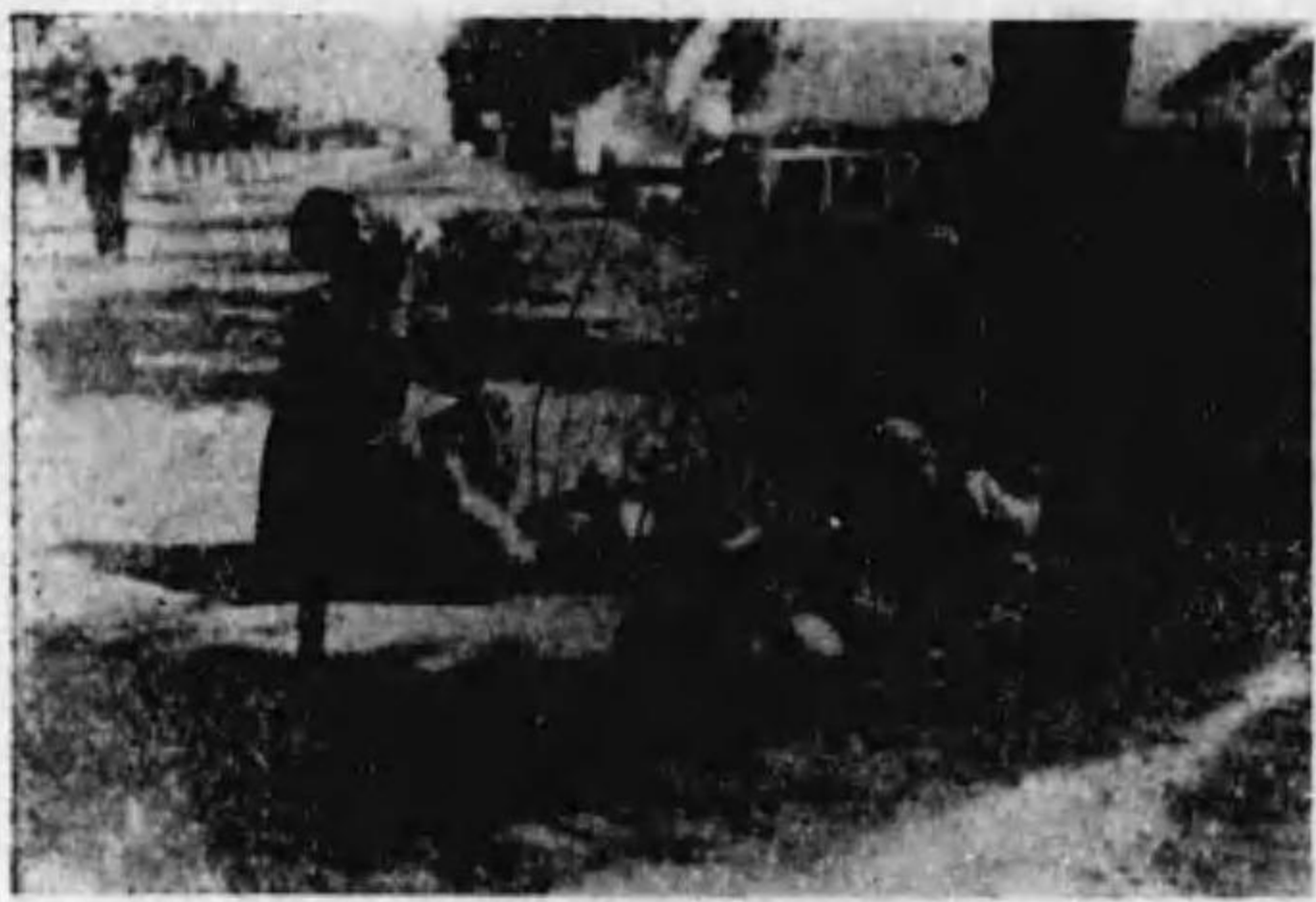
**その他の病氣** 各地とも脚氣が多く、また日射病、熱射病（高温多濕の氣候に對して體溫調節機能が失はれることによつて起る病氣）なども多い。なほ熱帯生活では神經衰弱になりやすいから規則正しい合理的な生活をしなければならぬ。

**風土病と事業** 以上のやうに南洋には色々の病氣があり、この地で生活し事業を經營しようとする場合に障害となることが多い。しかしこれらは必ずしも豫防し得ないのではないのであるから、できるだけ合理的な豫防法を講じて、健康を保持せねばならない。南方の開発にはこの

ことが絶対に必要である。

## 二六、椰子のいろいろ

誰でも椰子を見ると南を思ひ、南洋と聞くと椰子を聯想する。まことに椰子こそは南洋の代表的植物である。



第126圖 椰子の實の汁をのむ土人

酷熱の南洋では椰子の葉蔭が一家團樂の清涼境であり、青年達の娛樂場でもある。椰子のありがたさはそればかりではない。その葉で屋根を葺き、實は土民達の缺くことのできない飲料水となつてゐる。またある椰子の莖からは砂糖や澱粉等を探り、實の脂肪は石鹼やバター原料となし、石の様に硬い核はボタンに造る。

このやうに南洋の生活に深い關係をもち、われ／＼の生活にも大切である椰子のうち、その主なるもの二、三について述べてみよう。

**ココ椰子** ココ椰子は椰子類で一番よく知られてゐるので、單に椰子といふときにはココ椰子を指す場合が多い。ココ椰



第127圖 ココヤシ

子は熱帯各地に廣く分布する。農園で栽培されるものも多く、これを經營法から見ると、南洋における他の農産業と同様に、土人農園と、エステートに分けられる。エステートとは大規模の農園のことで、歐米人や支那人の資本によるものが多い。しかし近頃は日本人の經營によるものも多くなつてきた。

ココ椰子の栽培に適した土地は、氣温が平均二十二度以上でしかも年中その差の少いこと、一年間の雨量が千六百ミリ以上で毎月の雨量が平均してあること、日光の照射がよいこと、土地が深く肥えてをり、排水のよいことなどが條件で、海岸や河岸の沖積土によく成育する。

ココ椰子の幹の高さは約二十メートル、直径は三十センチから七十センチくらいで、外面には葉のついてゐた痕が輪の形にハッキリ残つてゐる。花は總のやうになつた軸に非常に多く咲く。實は開花後一ケ年で成熟する。人の頭ぐらゐの大きさで、内部には厚い隙間の多い纖維層がある。なかに非常に硬い核があり、核の内側には脂肪分の多い胚乳の層が附着してゐる。大概六、七年目から實を結び、一樹から五十乃至百の實が採れる。



第128圖 コブラ採取

ココ椰子栽培の主な目的はコブラの採取にある。コブラは實の殻を割つて胚乳を剥ぎとり、日乾しにするか火力で乾燥させたものである。之を搾つて油を採り、人造バター、石鹼をはじめポマー、クリーム等の化粧品や製薬の原料にする。コブラを搾つた粕は家畜の飼料となる。若い果實の液は美味で飲料として珍重される。このほか葉や幹や莖は次のやうな用途があり、何一つ捨てる所がない。

- 根 タンニン。
- 幹 建築材料・工藝用（洋傘の柄・ステッキ）。
- 幼芽 食用。
- 葉 敷物・帽子・籠・屋根葺・帚・油の濾過器・農作物の日覆。
- 花軸の液 晒・砂糖。
- 果實 (纖維層) 繩・刷毛・マット・織物。(核) 食器・細工物。

南洋におけるコブラの産額は世界産額百七十七萬トン（一九三八年）の八〇%を占めてゐる。南洋ではフィリピンが最も多く、六十萬トン（世界産額の三四%）を産し全島民の三分の一が

その栽培に従事し、特にルソン島の中部に盛である。蘭印は五十八萬トン（世界産額の三三%）を産し、ボルネオ西部と、セレベスのメナドと、サンギス島が主産地である。その他英領マレに十五萬トン（世界産額の八%）、ニウギニヤ八萬トン、佛印二萬五千トン、英領ボルネオ一萬トン餘、タイ國一萬トンを産する。第二次歐洲大戰前まではこれらは主に獨・米・佛・英の諸國に輸出されてゐた。



第129圖 オイルパーム樹

油椰子 アフリカが原産地であるが、近年南洋にも栽培される。蘭印に輸入されたのは一八四八年で、アフリカから四本の苗が有名なポイテンゾルグ植物園に移され、そこでできた種子がさらにスマトラ東海岸に送られ、つひに今日の盛況を見るに至つた。スマトラではゴム・煙草につぐ重要農業となつてゐる。東海岸州とアチエー州を主産地とし、これらの地方には日本人の農園もいくつかある。

油椰子の成育はココ椰子より早く、植付後、約四年目から開花し、その實から油をとる。油のとれる期間は六、七十年に及ぶが、なかには百四、五十年も繼續するものがある。實は指頭大で卵形を呈し密生する。果肉には五〇乃至六〇%、核には五〇%の脂肪分を含有するが、採



第130圖 サゴヤシ

油率は約三〇%である。果肉からとる油はパーム油といひ、核からとる油をパーム核油といふ。核は普通そのまま製油地に輸出される。優良品は人造バター製造に用ひるほか、蠟燭・石鹼の原料とする。蘭印のパーム油産額は世界一で、殊にスマトラは二十二萬トンを産し世界産額の

四割を占めてゐる、英領マレーからも六萬トン産出される。サゴ椰子 サゴ椰子（サゴはマレー語のサグの轉訛で、食料粉の意）は各地に産するが、マレー群島とニウギニヤ島に最も多い。幹は高さ十メートルに及び幹の内部に澱粉を含む。その量は花の開く前が最も多く、實を結ぶと急に減つて内部はほとんど空洞となる。この澱粉はサゴ粉と呼ばれ、ニウギニヤ、モルッカ、ボルネオあたりの土人はこれを練つて餅のやうにし、常食としてゐる。サゴ粉は八、九年生のものに最も多く、一本の椰子から二百乃至四百キログラムも採れるから、一本で一人一



第131圖 砂糖椰子から砂糖をとる

ケ年分の食料しょくれうにすることが出来る。またこの粉はサゴ米といはれる小粒こつぶにして、各國こくごに輸出しゅつしゅつされ、スープその他の料理れうりに用ひられてゐる。

**砂糖椰子** マレー地方の原産げんさんで、同地方では山野さんやの乾燥地かんさうちに生ずる。この椰子は臺灣たいわんの山野に多いクログの仲間なかまで、幹は高さ七、八メートルに達する。葉は羽状はねじやうで長さ五、六メートル、幅一メートル餘よあり、小葉せうえふ百枚以上を互生するが、各葉の先端せんたんは矢筈状やはずじやうを呈し葉柄はへには粗い毛がある。



第132圖 ニ、パヤシ

十年くらゐのものは葉の脇わきから圓錐状えんすいじやうの花房を出し、その若い花軸くわじくに傷をつけると多量たりやうの液が出る。これを煮詰にっめて砂糖を製し、また醸かして酒をつくる。一本の樹から四、五年間は液えきをとることができ、約二百キログラムの砂糖さとうが採れる。幹からはサゴ粉さごこなが採れ、これを普通ふつうジャバサゴと稱する。

**ニッパ椰子**(海椰子) ニッパ椰子はマレー群島・フィリピン・セロン島の海岸や磯邊いそべの低濕地帯ていしつに生育する特殊な椰子で、幹は極めて短く、葉はほとんど地際ちぎわから叢生そうせいしてゐる。羽状はねじやうで長さ四乃至六メートルに達し、葉柄はへは太くて相互さうごに抱き合

つてゐる。花軸くわじくを傷つけると液がでる。これを煮詰にっめて砂糖を製したり、或は醱はつかうさせて酒を造る。この酒をアラック酒といふ。

二七、ジャングル

南洋なんやうは日射しが強く濕氣しつきが多いので植物の成育せいよくが盛んであるから、太古たいこから斧鉞ふあつを入れない原始林げんしりんでは、様々の樹木や蔓草つるくさが思ふ存分ぞんぶん生ひしげつて所謂いはゆるジャングルをなしてゐる。日光にっくわうは

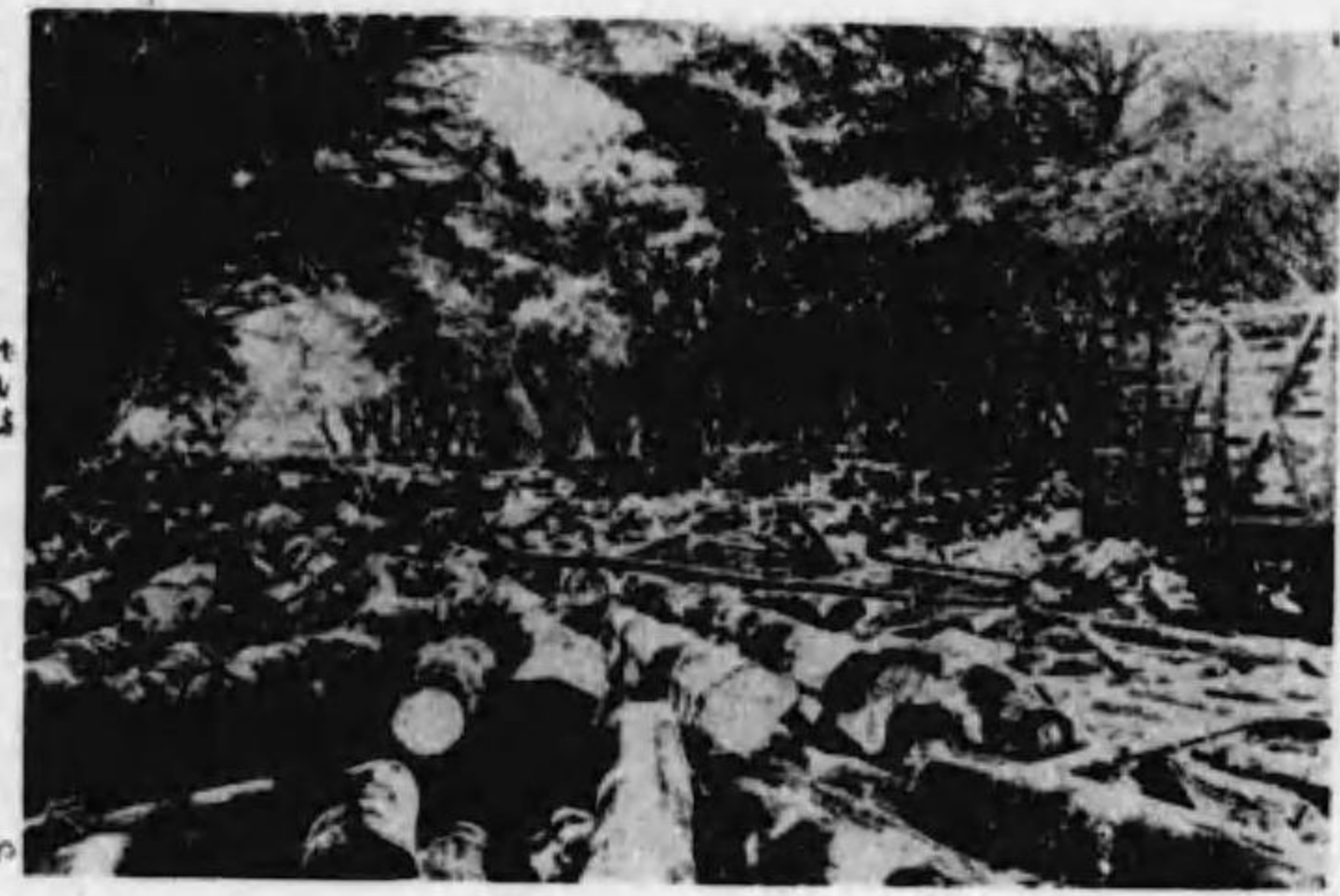


第133圖 ジャングル

樹々にさへぎられて晝ひるなほ暗く、名もしれぬ蔓草つるくさは足にまっはりつき、枯葉かれはは地を埋め百メートルも足をふみ入ると、もう方角ほうかくが分らなくなる。それで旅行者りょこうしやのうちにはこのジャングルの中で方角ほうかくを失ひ數日間も出口でぐちを求めてさまよひ歩き終つひに猛獸まうじゆうの餌食えじきとなる者がある。

しかしボルネオ・スマトラ・佛印等おくちの奥地に多いジャングルのうちには有用な種々しゆしゆな樹木じゆもくがあつて、重要じゆゑんな林産資源しんげんとなつてゐる。今著名ちよめいな有用材いゆうざいについて大略たいりやくを述べてみよう。

**チーク** チークはタイ・ビルマ・セレベス等とらに多く、なかで



第134圖 チーク材

もタイのチークは世界一の産額をあげ、米・錫・ゴムに次ぐ重要輸出品となつてゐる。この木は黒褐色を帯び硬くて美しく一度乾燥すると曲つたり割れたりすることがなく、鐵釘を打込んだ跡が腐らないし、白蟻や船蝕蟲に食はれることがないから、建築・橋梁・船艦材・車輪等の用材として貴ばれる。鐵木・タガヤサン・黒檀・紫檀なども堅い材でわが國へかなり輸入されてゐる。

**ラワン** ラワンはフィリピンの特産で重要輸出品の一つになつてゐる。ミンダナオ島、ルソン島西岸、ミンドロ島に多い。

フィリピン政府は昭和四年以來、アメリカ人、フィリピン人以外には伐採を禁じてゐるが、それ以前に伐採権をもつてゐる邦人會社や、フィリピン人名義で、伐採権をもつ邦人が盛に活躍し、フィリピン産額の大部分をわが國に輸出してゐる。ラワン材には、赤ラワンと白ラワンの二種があり、赤ラワンの材は色が美しく細工もしやすいから、フィリピン・マホガニーといつて家具や裝飾材として貴ばれ、また白ラワンは工藝、建築用に廣く用ひられてゐる。藤は椅子や籠などをつくるのに廣く利用されてゐるが、これは主に南洋のジャングルで、樹

にまつはりついて生育してゐるものを探つたものである。

## 二八、南洋の漁場

南洋の土民は日本人に似てゐて、一般に米を主食とし、副食物として好んで魚を食べる。タコの如き、佛敎國で殺生を戒めてゐる國でさへ、魚を取ることに食へることは特に許されてゐる。それ故各地とも魚類の需要が多いが、土民の漁撈が幼稚なために漁獲高は少く、せいゝ一地方において消費されるに止り、進んで輸出するほどの量はない。支那人も漁業に従事してゐるが、白人の近代的企业



邦人漁業根據地	總漁獲高	調査年
佛領印度	410,000 トン	(1936年海軍研究所調査)
蘭領印度	1,000,000 ギルダ	(1939年)
英領マレー	88,000 トン	(1933年)

第135圖 邦人漁業根據地

業も全然ない。しかるに、獨り日本人のみはカツヲやマグロなどの回遊魚を追つて、盛に活躍してゐる。その主な漁場はトンキン灣・南支那海・スルー海・セレベス海・英領マレー近海等である。

邦人漁業根據地調査表

港	經營者	資本金 推定	年産額 推定
○香	日本水産株式会社	—	五〇萬圓
○マ	三	三〇〇萬圓	一五〇萬圓
○ダ	後藤金藏外一七名	二二萬七千圓	四五萬圓
○サン	シーフードコーポレーション(日比合併)	三六萬圓	五〇萬圓
○ホ	八	—	一二萬圓
○メ	大岩漁業、日蘭漁業會社 其ノ他、三	二五〇萬圓	六五萬圓
○タル	大岩漁業出張所	—	七萬圓
○アン	玉城、金城、渡口(個人漁業)其ノ他一(社内)	七萬圓	三萬圓
○プ	ブートン眞珠株式会社	三〇萬圓	一四萬圓
○マ	玉城組	三萬圓	七萬圓
○タ	ワ	—	—
(事業場シヤミール)			
○新	ボルネオ水産株式会社 英領北ボルネオ移住漁業團 拓洋水産漁業會社	二五〇萬圓	六〇萬圓
○南	大昌公司、大城公司、其ノ	二〇〇萬圓	—
○群	他三	推定	二四萬圓
○島	巴	推定	—
○バ	他三	推定	—
○タ	他三	推定	—
○ビ	他三	推定	—
○ヤ	他三	推定	—

○シン	大昌公司、石津公司、其ノ	三二〇萬圓	三〇〇萬圓
○ガ	他六	—	—
○ポ	金城及玉城組	個人推定	一萬圓
○ル	五	—	—
○グ	林兼商店、日の丸漁船隊	—	—
○イ	五	—	—
○ヤ	五	—	—

漁業のほかに眞珠の採取が盛であるが、これも主として日本人が經營してゐる。

トンキン灣

佛印東北方に位するトンキン灣ではマダヒ・チダヒ・レンコダヒ・インドダヒ・赤松ダヒ・白松ダヒ・サバ・イワシなどが豊富にとれるが、漁獲にあたるのは日本人が主で、内地や臺灣から出漁し、或は香港を根據地として活躍してゐる。また支那人經營の小規模な漁業も行はれてゐる。

南支那海 日本人が臺灣の高雄を根據地としてマグロを取つてゐる。

スルー海 フィリピン東南のスルー海にはカツヲ・マグロが多く、サンポアンガを根據地とする日比合辦の南洋水産株式會社がこれらの漁獲に従事してゐる。

セレベス海 フィリピンとボルネオとセレベスにかこまれたセレベス海にはカチキ・マグロ・サメ・カツヲが多い。英領



第 136 圖 ボルネオ水産株式會社シヤミール工場

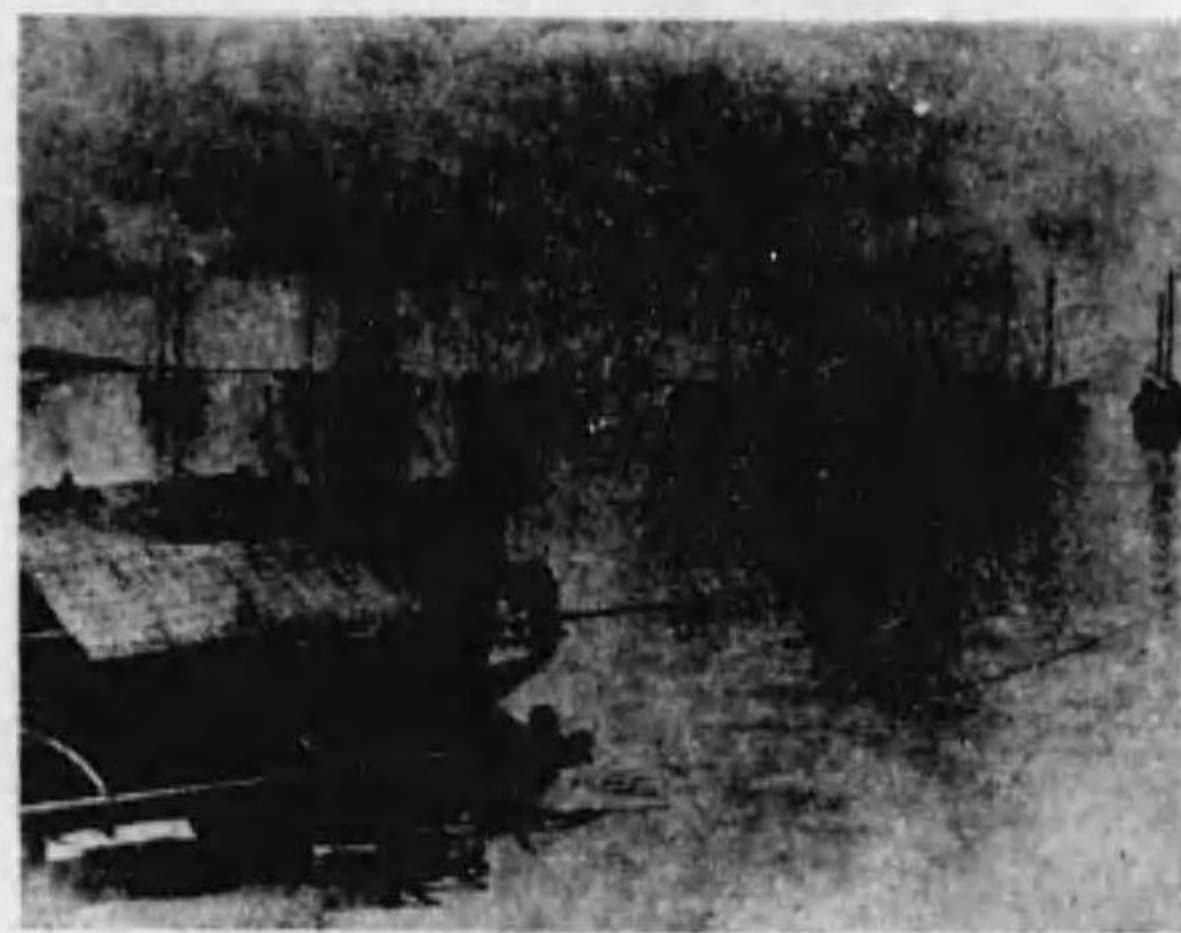
北ボルネオのタワオにある日本人經營のボルネオ水産株式會社と、セレベスの北部メナドにある日蘭漁業株式會社が主としてカツヲ漁業に従事してゐて、この二つの會社は南洋における日本人漁業經營のうちでも最も規模が大きい。

**アルー群島** ニウギニヤの西にある小さなこの群島の周圍は眞珠貝の漁場として、又その取引市場として各國の貝商人が詰めかけるので知られてゐる。

**英領マレー近海** 英領マレーにおけるわが漁業の進出は南洋で最も目覺ましく、イワシ・ボラ・タヒ・サバ・アヂ・マグロ・カツヲ等が漁獲される。シンガポールはこれら水産物の消費市場として、南洋最大のものである。

**眞珠採取** 濠洲の木曜島において行はれる眞珠採取は有名であるが、南洋ではアルー群島のほかにフィリピンのスルー群島のホーロ、セレベスの東南端ブートン島において行はれてをり、日本人が主に經營してゐるものである。

以上によつて明かなやうに、南洋の漁場はほとんど日本人の獨壇場であるから、將來の南洋の水産業は眞珠採取と回遊魚の漁獲を主として發展することが期待されてゐる。



第137圖 眞珠の採取船

## 二九、いはゆる外米

世界の米の主な産地は支那、印度に次いで日本であり、この三つの土地から世界年産高約一億三千万トンの七割が産出されてゐる。あとの三割は主にビルマ、佛印、蘭印、タイ國から出でゐる。これらの米産地のうち輸出のできるのはわづかにビルマ、佛印、タイ國の三地方にすぎない。日本に輸入する外米といふのも結局これらの地方の米である。外米の輸入は今に始まつたことではなく、明治三十年ごろからしばしば行はれてゐたが、昭和十四年の大凶作による米不足から、特に大量の輸入を行ふやうになつた。

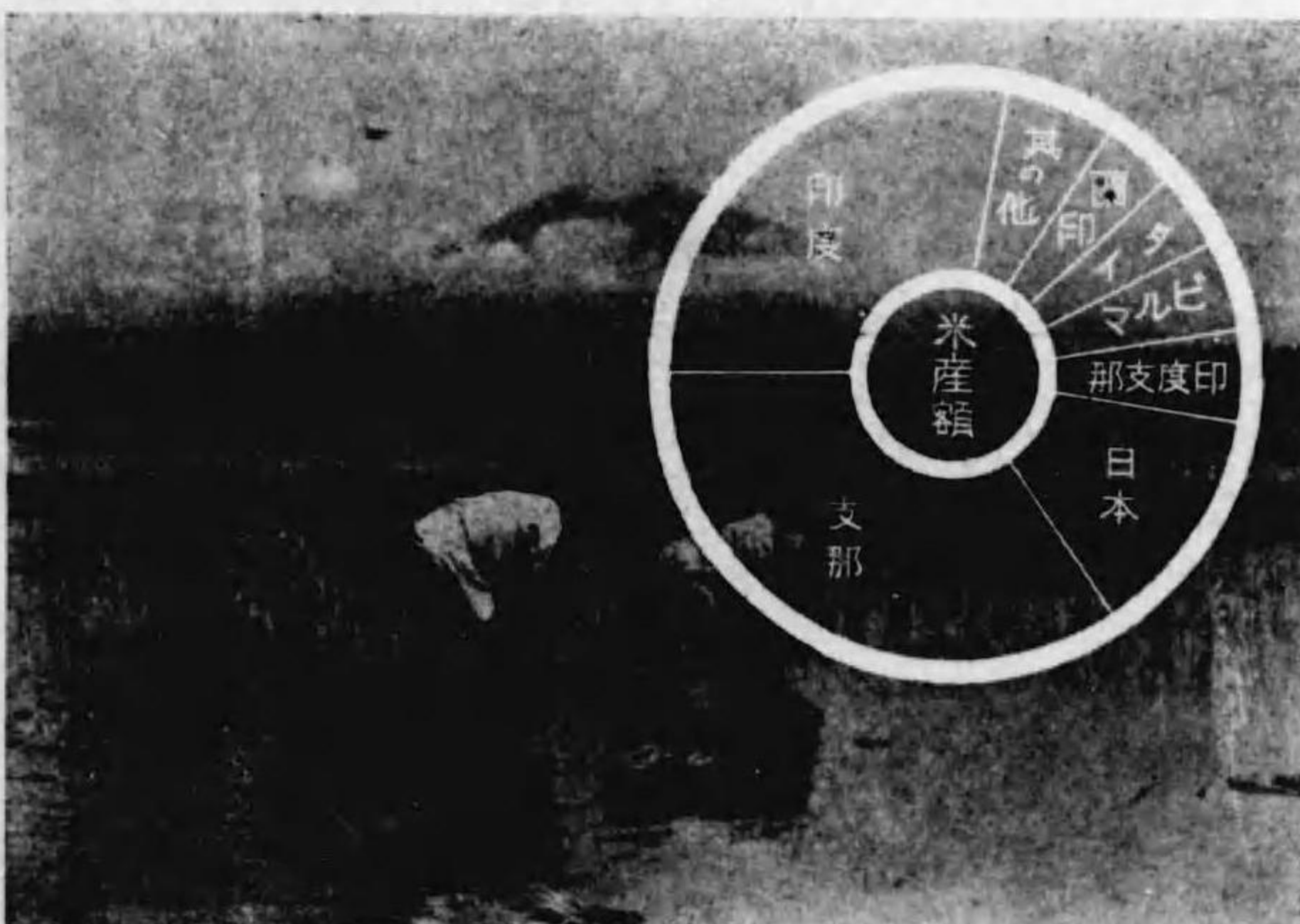
**品質** 外米には産地や積出港によつて名前がつけられてゐる。佛印の北部トンキン平野から出るものをトンキン米といひ、南部の大平原から出るものをその積出港によつてサイゴン米といふ。タイ國の米はもとシヤム米といはれてゐたが、國號が改まるとともにタイ米といはれるやうになつた。またビルマの米はその積出港に因んでラングーン米と呼ばれてゐる。



第138圖 サイゴン郊外シロンに於ける米の積み出し



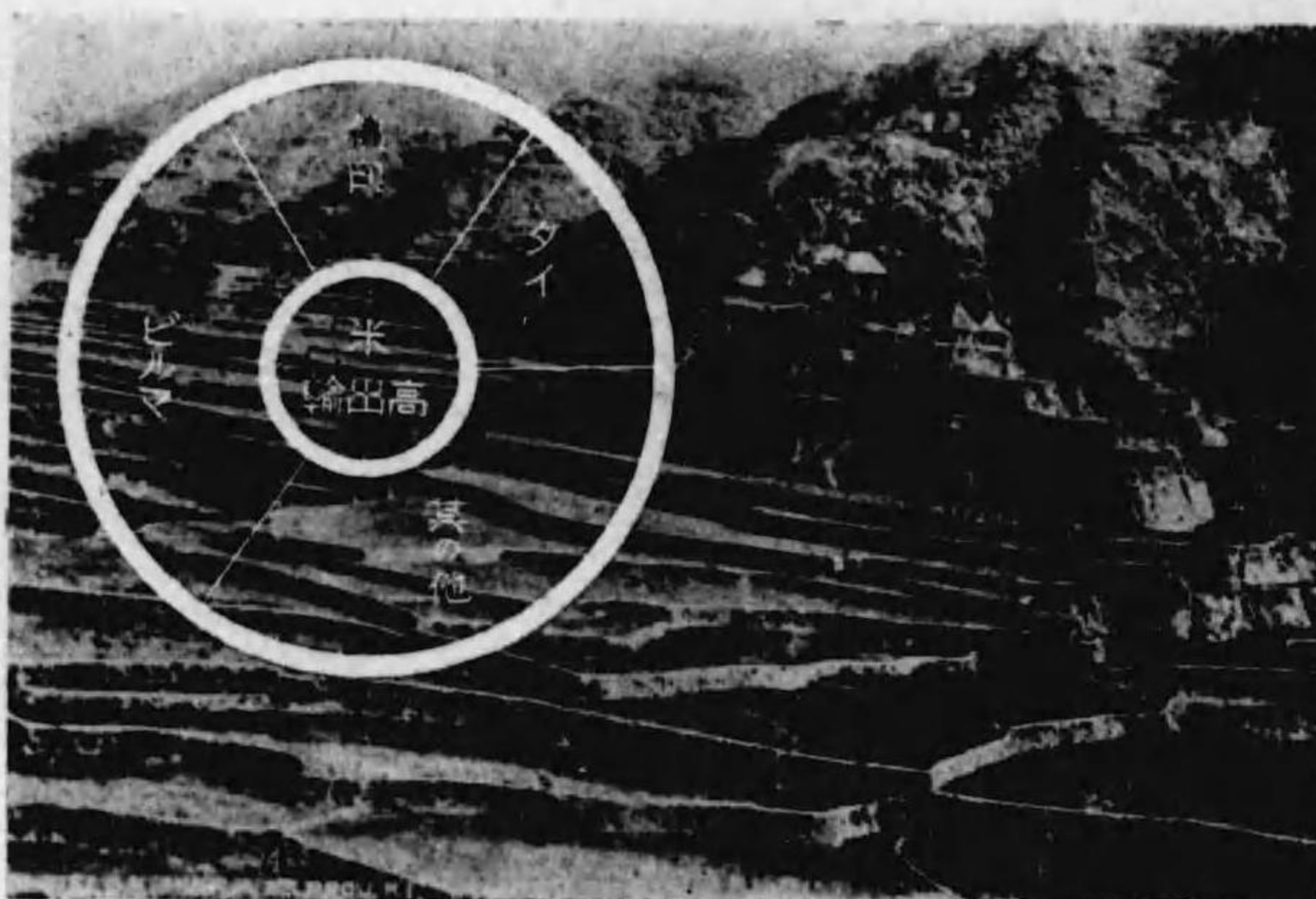
る。これらの米はいづれも日本の米にくらべて、ねばり気が少く、味も劣るが、やゝすぐれてゐるのはサイゴン米である。ラングーン米も相當品質がよいのだが包装が良くないために悪くなるといはれてゐる。



第139圖 世界米産額圖

**輸出量** 南洋の米の輸出量はトンキン米とサイゴン米とが約百五十萬トン、タイ米も同じく百五十萬トン、ラングーン米は三百萬トン、合計六百萬トンである。これで見るとラングーン米の輸出量は結局世界一といふことになるが、これはラングーン米が二期作である上に、ビルマの人口が稀薄であるからそれだけ多く輸出できるといふわけである。次に各地の米の輸出額が總輸出額に對してどれくらゐの割合を占めてゐるかを見ると、佛印の米は現在約四割、タイ米は約五割、ラングーン米は約四割を占め、いづれも米が重要な輸出品であることを物語つてゐる。

**主な輸出先** 佛印米の一番のお得意先はかつて支那



第140圖 世界米輸出額圖とフィリピンの米田

であつたが、昭和十二年頃からフランスが急に移入量を増し、約三割から四割を占めて第一位となつた。しかし第二次歐洲戦争が起つて以來歐洲への輸出が困難となり、フランスへの移出量もかなり減つてゐることと思はれる。タイ米はシンガポール向けが四割から五割を占めて第一位、ホンコンが二割を占めて第二位である。ラングーン米はインド向けが四、五割を占め、あとはセイロン一割五分、マレー一割といふ割合になつてゐる。いづれも日本への輸出は全輸出量からいへばわづかである。

**耕作の方法** ソンコイ・メコン・メナム・イラワヂ

の諸河は雨期になると大氾濫をなし、上流より肥沃な土砂を流してくる。農民はこれに頼り、ほとんどの田に肥料をやらない。だから取入れる米の量も日本にくらべると割合に少い。佛印やタイでは植付けをすますと、それつきりほとんど草取りもせずに實るのをまつといふやり方である。近頃では灌漑や排水の設備をするやうになつ



第141圖 佛印の米の收穫

たが、まだ極めて不十分である。サイゴン米とタイ米は一期作であるが、トンキン米とラングーン米は二期作である。トンキンにはお米が一年に三度とれるところもまれにあるといふ。

**米田面積と收穫量** 佛印全体の米田の面積は約六百萬ヘクタール、タイ國は三百萬ヘクタール、ビルマは五百萬ヘクタールであるが、タイ・ビルマにはこのほかに未墾の原野がかなり残されてゐる。收穫量は佛印約七百萬トン、タイ國五百萬トン、ビルマ七百萬トンで、一ヘクタール當りの收穫量は日本の約二分の一から三分の一にすぎない。土地の肥沃なるにかゝらず、生産力の劣つてゐるのはいふまでもなく、農業施設の不完全と農業技術の幼稚なことに基くものである。

**農民の生活** これらの地方では農民がいくらも人口の八割を占めてをり、しかもその生活は恵まれない。トンキン地方には五ヘクタール以下の田をもつ貧農が大部分を占め、南部平原には小作人や農業労働者が多く、これらは地主の間にたつ管理人に小作料や賃銀の上前をはねられ

て苦しんでゐる。農民の苦しみにつけこんで、各地に支那人や印度人の高利貸がゐて、收穫を擔保に金を貸しつけてゐるが、その高利の借金は二重に農民を痛めつけてゐる。

**米と華僑** 米の取引と精米をやつてゐるのは主に華僑である。華僑は農民と米の取引のほかに日用雜貨品、食料品の賣買、金の貸借などで密接に結びついてゐる。したがつて農民は華僑をはなれては暮してはいけないやうな有様である。タイ國では最近、國立の米の配給會社をつくり米を華僑の手から引きはなさうと努めてゐるが、華僑の勢力は案外に強く、まだ十分な成績をあげてゐない。またビルマの農民は生活程度が低いために安くて良い日本の日用雜貨に非常に頼つてゐる。ところがこれらの日本品を賣つてゐるのが華僑であつて、かれらは支那事變以來、日本品を仕入れずまた賣らないやうにしてゐるので、農民は非常に困つてゐるといふことである。

### 三〇、南洋の砂糖

南洋の砂糖はジャバとフィリピンが主産地で、いづれも多量の砂糖を輸出することにおいて世界的に有名である。したがつて糖業は蘭印、フィリピンにおける最も發達した農業で、砂糖の輸出如何がその國の政治や經濟を左右するほどの重要性をもつてゐる。

ジャバの糖業は蘭印農業中最古の歴史をもち、幾多苦難の道を歩んで今日の大をなしたのに對し、フィリピンの糖業はアメリカ領になつてから僅か四十年間にその手厚い保護を受け樂々と發達したことは興味ある對照をなしてゐる。ジャバ糖は支那事變以來、支那向け輸出が激減し、さらに第二次歐洲戦争の勃發によつて輸出市場の混亂を來してゐるため、またフィリピンの砂糖はあまりに強度のアメリカ依存のため、いづれもありあまる砂糖を今後いかに處分してよいかに苦しんでゐる。

ジャバ糖は曾て多量にわが國に輸入されてゐたが、現在はほとんど輸入されず、またフィリピンの砂糖は、はじめからわが國との取引關係がなかつたので、わが國は南洋の砂糖に對し餘り關心を拂ふ必要がなかつた。しかし今日大東亞共榮圈内で砂糖を自給し得るのは、ジャバとフィリピンとを除けば日本だけであるから、今後共榮圈内の砂糖の需給を圓滑ならしめるためには、ありあまる南洋の砂糖を是非とも活用する必要が起つて來よう。

**ジャバ糖業の沿革** ジャバの糖業はジャバがオランダ領になつてから次第に盛となり、一八三〇年ファン・デン・ボッシュ總督の強制栽培制度の實施によつて一大發展をとげたが、まもなく歐洲に甜菜糖といふ強敵が現はれて糖價が下落し、またセラ病といふ甘蔗の病氣が蔓延して一時は全滅の危機に瀕した。このため政府と糖業者は巨費を投じてその回復に努め、苦心經營の結

果やうやくにして、品種の改良、製糖法の改善等により危機を切り抜けることができた。そして第一次歐洲大戦の勃發による甜菜糖の生産中止に乗じて立ち直つたが、まもなく船腹不足から糖價が暴落した。これも糖業者の努力によつて持ち直し、甜菜糖の減收に乗じて増産に増産を重ねていつた。やがて一九三〇年世界的の不景氣が襲來し、ストックの累積、糖價の慘落等により、ジャバ糖業はもとより全世界の糖業は立ち上ることのできない程の大打撃をうけた。

全世界の糖業者は集つて砂糖の生産制限を申し合せ、その解決策に力をつくしたが、蘭印政府においても強力な統制を行つてストックの一掃につとめるとともに、工場の整理や品質の改良生産費の切り下げなどに努力し、一面海外市場の開拓に力を注いだので、やうやく四、五年前から次第に持ち直すことができるやうになつた。

ジャバ糖が盛になつたのは、ジャバの氣候が甘蔗の栽培に適し、風害が少く、灌漑の便がよく、土地が肥沃である上に土人の賃銀が安かつたこと、さらに研究をつゞけて新しい品種をつくり、栽培法や製糖法を改良し、また經濟的に保護の



第142圖 パスルアン試験所

方法をとつたことなどのためである。ジャバにおける甘蔗の栽培地は乾濕兩期のはつきり分れてゐる東部から中部にかけての平地である。同じ面積からとれる甘蔗の収量は臺灣の約二倍、世界一のキューバの約三倍である。臺灣で目下栽培してゐる品種はジャバの有名なパスルアン糖業試験所でできたものである。ジャバの糖業はほとんどオランダ資本の經營するところでオランダが蘭印の開發に投じた資本の七五%を占めてゐる。

ジャバ糖の生産高

植付面積	生産量
一九三五年 三七、三五九	五一三、五五四
一九三六年 八四、八五九	五九二、三九〇
一九三七年 八五、七四四	一、四一四、五〇〇
一九三八年 九四、八七二	一、三九八、九二七
一九三九年 九〇、九七八	一、五七五、三五三

ジャバ糖の輸出 昭和十四年における蘭印の總輸出額は七億七千五百萬ギルダで、そのうち砂糖の輸出額は前年のストックを處理したため、七千八百萬ギルダ（一六〇萬トン）となり、



第143圖 ジャバ糖生産高圖表とジャバ製糖工場の寫眞

は次第に支那向が減少し、支那事變が起つてからは香港經由以外は全く輸出不可能となつた。ジャバ糖は大打撃を受けるに至つた。かくてジャバ糖は近年その捌け口に困つてゐるので、蘭印としては日本との片貿易を調整す

總輸出額の一割強を占めてゐる。前年の砂糖輸出額四千五百萬ギルダ（一二〇萬トン）にくらべると六割の増加であるが、これは第二次歐洲大戰勃發のために買い急ぎが増加し、特に印度の需要が激増したことによるもので、前年の百八十八萬ギルダから一舉に二千萬ギルダに増加し、輸出先の第一位を占めるに至つたためである。

日本とジャバ糖 日本も以前はジャバ糖をかなり輸入してゐたが、臺灣の糖業が發達し自給自足ができるやうになつた昭和四年ごろからは、ほとんどジャバ糖を買はなくなつた。あまつさへ餘分の砂糖を支那へ輸出するやうになつたためジャバ糖

るため、砂糖をもつと輸出したいと思つてゐることは事實である。日本と蘭印との經濟交渉にはいつも砂糖の問題がつきまとつてゐる。

**フィリピンの砂糖** 今から約四百年前マゼランがフィピン群島に來た頃既に甘蔗が各地で栽培され、極めて原始的な方法で砂糖が造られてゐたといふことであるが、スペイン政府は煙草栽培に興味を持ち、糖業には餘り關心を拂はなかつたので見るべき發展を遂げなかつた。ところがアメリカ領となつてから、同國資本の進出によつて漸く糖業に對する關心が高まり、たまに第一度歐洲大戰の勃發によりフィピン糖業は急速に發展するに至つた。すなはち大戰と共にアメリカ本國の砂糖供給は非常な不安を感じるに至つたので、アメリカはフィリピンの砂糖を無税でしかも無制限に輸入することを許すことになつた。これが動機となりフィピン側でも新式工場の建設や甘蔗栽培に必要な資金の供給等、積極的な獎勵策を講じたので、糖業勃興の機運は大いに動き、僅か十數年足らずしてフィリピンの糖業は世界的な水準に達した。

アメリカとの自由貿易によつて發達したフィリピンの糖業は一九三〇年に襲來した世界的不景氣にもさしたる打撃を受けず、極めて順調な發展を遂げ、一九三四年には約百四十五萬トン、十年前の五倍に上る生産を示し、一躍世界第三位の産糖國となるに至つた。

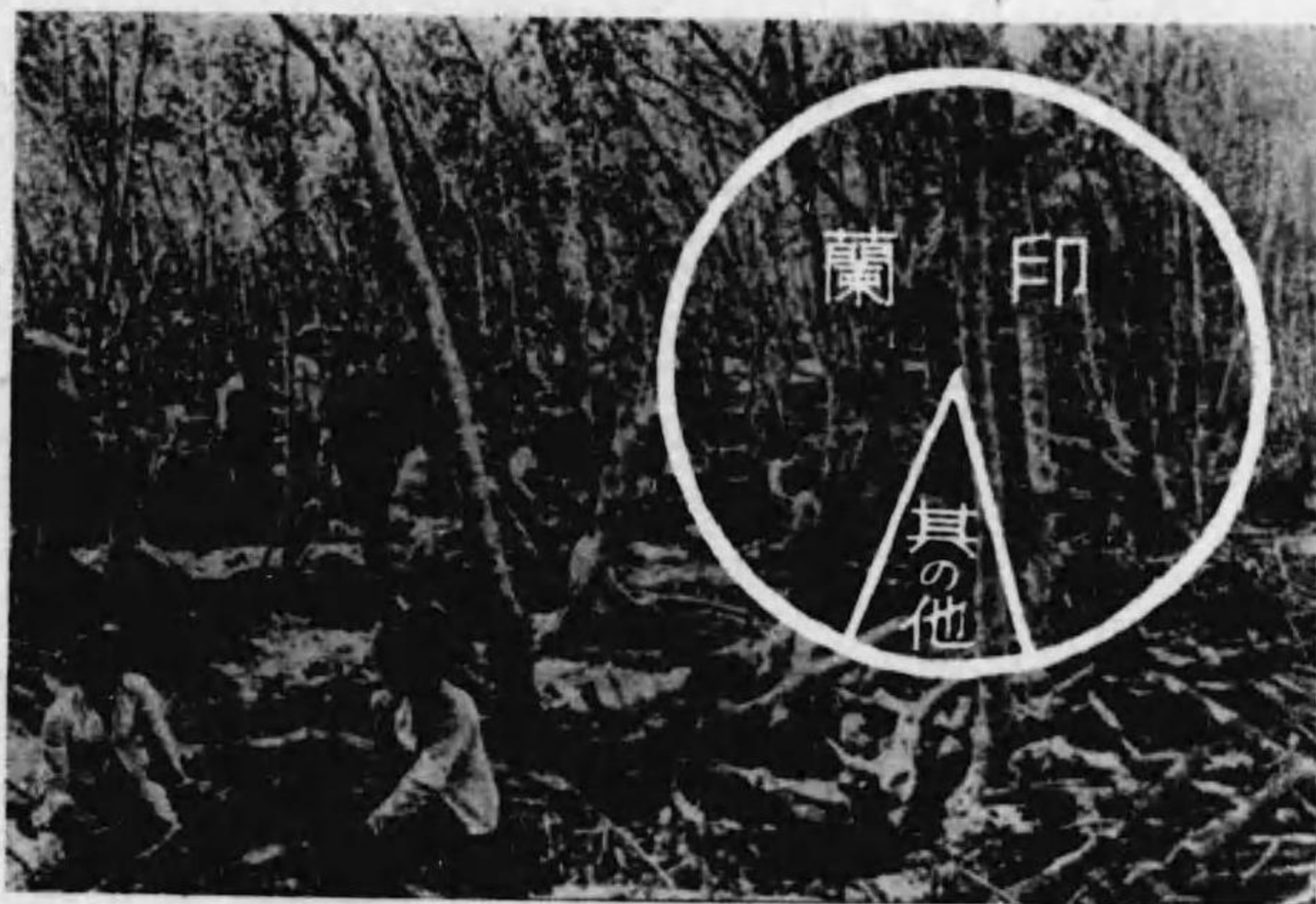
しかしこの自由貿易によるフィピン糖のアメリカ進出は同國の甜菜糖やキューバ糖の輸入業

者を壓迫するに至つたので、これが主要な原因となりアメリカは遂に一九三四年フィピンの獨立法案を通過させるとともに、フィピンの砂糖の生産を極端に制限し、アメリカ輸出を著しく抑へて今日に至つた。

甘蔗は群島いたる所で栽培されてゐるが、ネグロス島が過半を占め、これに次ぐものはルソン・パナイ・セブの諸島である。しかしジャバの如く製糖工場を持つ大農園で大規模に栽培されるのではなく、製糖事業とは分離し土人が個々の契約にもとづいて耕作するので、ジャバに較べて缺點があり、その改善を要望されてゐる。工場数は現在四六で、近代的な設備を具えてゐるが、大半はフィピン人の投資・經營による。糖業に投下された資本は五億三千萬ペソで、農業に對する投資額の一四%を占めてゐる。生産高は年百萬トン前後で、その九割まではアメリカ輸出である。しかしこのアメリカ輸出も一九四一年から漸増的に關稅が課せられ、完全獨立四ヶ年後には従來アメリカから受けてゐた貿易上の特惠を全く失ふことになるので、フィピン糖業は大打撃を受け、手近な東洋に新市場を求めざるを得ない情勢に立至つてゐる。

### 三一、規那・煙草・コーヒー

**規那** 熱帶地方に最も多いマラリアの特効薬キニーネは規那の皮からつくられる。まことに規



第144圖 キナ皮の收穫と世界キナ産額圖

那<sup>な</sup>は熱帯生活者<sup>せうくわつしや</sup>にとつて命の親<sup>いのちのちか</sup>といつてもよい。この規那<sup>きな</sup>の效用<sup>かうよう</sup>が世界に知れたとき、各國は争つて原産地<sup>げんち</sup>南米からその輸入<sup>ゆふ</sup>を企て熱帯の植民地に栽培したが、結局現代成功<sup>せいこう</sup>してゐる所はジャバ・印度北部・ビルマのみである。近時わが臺灣にも栽培されてゐる。

ジャバが世界一の規那産地である原因の大なるものは、シンコーナ・レッチェリアナといふ優良な品種を得たことと、政府が七、八十年の久しきにわたり多大の犠牲<sup>ぎせい</sup>を拂つて學者や技術家<sup>ぎじゆつか</sup>の研究を助けたことにあるといはれる。ジャバの總生産高<sup>そうせいさんだか</sup>は千二百萬キログラムで、その約六十%を輸出する。大部分はホランダ本國に輸出され、規那栽培業者とキニーネ製造業者との協定で市場を獨占してゐる。煙草 世界で最もよい煙草は西印度のハバナ煙草であるといはれてゐるが、第二位はスマトラのデリー煙草、第三位がフィリピンのマニラ煙草といふことになつてゐる。



第145圖 煙 草 畑

デリー煙草は、一八六四年オランダ人テンホイスがデリーにおいてその栽培を試みたのにはじまり、今ではスマトラの重要産業の一つとなつてゐる。現在はメダン市を中心<sup>しゅうみ</sup>に周圍五十キロにわたる地域に栽培されてゐる。この煙草はすべて葉卷の上巻用とされ、ハバナ煙草、マニラ煙草にしても、葉卷の表面の一枚は必ずデリー産を使ふとまでいはれてゐる。スマトラで煙草を栽培するには、はじめ原始林を焼拂つて、そこを三、

四區に區分して植付ける。煙草は同一の土地に毎年栽培するとよくないので、わが國でも三、四年に一回づつ栽培してゐるが、デリーでは一回煙草を栽培すると一年は稻を作り、あと七ケ年は畑を休ませる。デリー煙草は主としてオランダ本國を通じ歐洲市場へ輸出されてゐるが、第二歐洲戦争により輸出が杜絶し



第146圖 煙 草 畑

大打撃を受けてゐるといはれる。ジャバ・スマトラで約六萬トンの葉煙草が生産される。

マニラ煙草はフィリピン各地に栽培されてゐるが、北部産のものが良種である。一エーカーあたり約四千本の割に植付け、收穫した葉は葉柄を竹にとほして日乾しにし、十分に乾いたものを積み重ねて三、四日間醗酵させて仕上げる。デリー煙草について葉巻用として賞用され、紙巻用としてもまた良好な煙草である。この煙草は主に北アメリカに輸出されるが、わが國へもかなり輸入されてゐる。このマニラ煙草栽培の歴史は古い、アメリカがこの島を領有するに及んで急激に發展し今日の隆盛を見るに至つたのである。約三萬六千トンの産額がある。

**コーヒー** 世界各地の飲料は多種多様であるが、コーヒーと茶とカカオの三種が主要なものである。わが國でもコーヒーは年々普及して需要が多額に達してゐるが、主に蘭印と南米から輸入してゐる。近年は臺灣でも栽培してゐる。

世界におけるコーヒー産地は、ブラジル・コロンビアその他の中南米諸國、アフリカと東洋の熱帯地方であるが、中南米だけで世界の九割餘を産する。南洋ではジャバ・スマトラ・ボルネオ・セレベス・フィリピン・佛印であるが、ジャバが最も多い。



第147圖 コーヒー

コーヒーは砂糖とともにジャバで最も古い農産物で、一六九六年アラビヤのメッカからアラビカ種が輸入試植され、東印度會社によつて強制栽培制度が實施され、これによつて生産が次第に増加し、主要な輸出品となつた。しかし一八六九年にコーヒー病が流行して大害を受けてからアラビカ種は絶え、これに代つてリベリヤ種がアフリカから輸入された。しかしこれも間もなく栽培ができなくなり、一九〇〇年に至つてアフリカのコンゴからロブスター種が輸入されて現在の南洋地方で栽培されてゐるのである。

蘭印におけるコーヒーの年生産高は約百萬トンで、そのうち約八十萬トンが輸出されてゐる。主要輸出國はオランダ・アメリカ・フランス・デンマークである。

一九三〇年の世界的不景氣時代には、コーヒーも大打撃を受けたので、現在でも好景氣時代の六、七割しか生産されてゐない。

第148圖 カカオ

**カカオ** カカオは南米の原産であるが、現在は廣く熱帯地方に栽培されてゐる。南洋では主に中部ジャバのスマラン附近に産する。量は多くないが品質は優良である。カカオの種子はココアとチョコレートの原料とする。





第149圖 ジャバの茶つみ

出する。スマトラの東海岸にも多量に産出される。全蘭印で約八萬トンを産し、約七萬トンをエジプトその他英屬領地に輸出してゐるが、第二歐洲戦争で輸入禁止を受け大打撃を蒙つてゐる。

### 三三、ゴム

**ゴムの需要** ゴムは科學の進歩と共に人類の生活に缺くべからざるものとして、その需要の範圍を擴大しつつあるが、最も多いのは自動車、自動車、航空機のタイヤで、全消費量の七割を

占めるといはれてゐる。このほか電氣の絶縁用、工場のロール・バルブ・ベルト、醫療器具、文具、防氷布、ホース等各種の生活必需品に使用されるが、殊に戦時にはガスマスク・タイヤ等の製造が急激に増加するので、ゴムの需要は一層重要となる。ゴムが石油と共に現代文明の寵

世界生ゴム産額 (單位千トン)		1935	1936	1937	1938
英領マレ	一印	424	359	477	378
英領マレ	一印	287	315	439	308
英領マレ	一印	55	50	72	60
英領マレ	一印	29	41	44	59
英領マレ	一印	29	35	36	42
英領マレ	一印	29	30	40	28
英領マレ	一印	14	15	10	9
英領マレ	一印	5	6	7	7
英領マレ	一印	1	1	3	3
英領マレ	一印	17	24	28	28
英領マレ	一印	888	872	1158	919

兒として謳はれるものもここに在る。

**ゴムに集る世界の眼** 世界におけるゴムの消費額はアメリカが第一位で、實に世界總消費額百萬トンの約六割を占め、その供給はすべて南洋に仰いでゐるのである。それ故にもし南洋との關係が杜絶したならば、アメリカの最大工業の一つである自動車・航空機の製作は不可能となるであらう。アメリカばかりでなく文明諸國は、程度の差こそあれいづれもゴムの大消費國で、わが國でも近年急激に消費量が増加してきた。しかもこれらの原料は同じく南洋に求めてゐるので、南洋は世界注視の的となつてきた。「南洋を支配するものは世界を支配する」といふ語は正しく、ゴムについてもいはれた言葉である。**ゴム栽培のはじまり** ゴムは植物の皮部を傷けて分泌した液から精製したものである。このゴ



ム液を分泌する植物は約三百種にも上るといはれるが、最も経済的に利用できるのはパラゴムで、この木は學名をヘビアといひ、南米のブラジルを原産地とする喬木である。昔土人たちは野生のゴムの木から液を採取して防水布に用ひるのみであつたが、一七七〇年イギリス人ブリ

世界ゴム消費額 (單位千トン)

	1935	1936	1937	1938
アメリカ	500.0	575.0	543.6	411.0
イギリス	96.5	99.7	114.6	107.0
フランス	64.0	71.8	98.2	90.0
日本	53.0	56.8	60.0	58.0
オランダ	57.0	63.0	65.0	47.1
イタリア	24.4	16.0	24.0	28.0
ソ連	38.6	31.0	30.5	26.0
カナダ	27.4	27.9	36.1	26.0
オーストラリア	10.0	14.0	19.3	13.0
その他	8.1	9.6	15.0	11.0
計	69.0	73.9	90.0	94.0
計	948.0	1038.7	1096.2	911.1

ストレーが消ゴムを製してから用途が開け、次第に栽培が行はれるやうになつた。一八七五年(明治八年)に、イギリス人ウィッカムは南米アマゾン河下流からパラゴムの種子七萬箇をイギリスに輸入し、これをキュー植物園で栽培して、セイロン島・シンガポール等に移植したのが南洋におけるパラゴム栽培のはじめである。しかしシンガポールのものは枯れてしまつたので、一八七七年(明治十年)再びキュー植物園から二十二本の苗木をマレー半島に輸入し、シンガポール及びペラ州に移植した。これが企業化されたのは、一八九五年前後からであるが、交通の便と好適なる氣候に恵まれて漸次發展し、今やこの地方のゴム生産額は世界總生産額の四割強に達し世界第一位を占めてゐる。現在南洋におけるパラゴムの主な栽培地区はイギリス領

が最も多く、ついでオランダ領・フランス領の順となつてゐる。なほ、キュー植物園にはゴムの母樹が成育してゐる。

**ゴム栽培の現状** ゴムの栽培には、氣温が高く雨量が大であつて、且つ降雨が年中平均してゐること、風が強くなく、土地は排水が良好で腐植質の土壤であること等が必要である。かゝる條件を具へてゐる地方は廣い熱帯地方でも、たゞこの南洋一帯に限られてゐるといつても過言ではなからう。

マレー半島は廣くゴムの栽培に適してゐて、殊に好適な地方は低い海岸平野と内部の丘陵地とである。現在は聯邦州が最も盛で海峽植民地は比較的少ない。イギリスはマレー半島を本據として、蘭印へもゴム栽培の手をのばし、世界のゴム市場を支配してゐる。

タイ國は一八八〇年(明治十三年)イギリス人が試作してから次第に廣まり、英領マレーに近

い諸州に栽培されてゐる。佛印は一九〇七年(明治三十九年)頃から栽培をはじめたが、政府の保護の下に近年大に進み、今では佛本國の自給自足が可能となつた。その主産地は交趾支那で、これと隣接するカンボヂヤにも發展しつゝある。

蘭印はマレーよりも遅れてゴムの栽培がはじめられた。最も盛なのはスマトラで、産地は海

岸を主とし、北部には白人の大規模なエステートが多く、南部には土民の農園が多い。ジャバでは東部と西部を主とし大部分平地に栽培される。この他ボルネオもまた英領・蘭領ともに隆盛となりつゝある。



第150圖 世界生ゴム産額圖とゴム園

南洋各地における土民のゴム園は白人のエステートの如き科学的栽培には缺けてゐるが、低廉なる労働力をもつて白人エステートの壘を摩さんとするの勢を示してゐる。

**邦人のゴム栽培** 邦人のゴム栽培の開祖は笠田直吉である。彼は明治三十五年にマレーのスレンバン地方に小規模の栽培をはじめた。三十九年には葛田顯理・中野光三の二人がジョホール河口にさらに三五公  
司がベンゲランで大規模に着手した。その後四十三年頃から大正六年頃の好景氣時代には、三井・三菱・藤田組等が相次いで本事業を計畫し、地域もマレーからスマトラ・ジャバ・ボルネオ・サラワク等の諸

地方に擴大した。その結果多くの會社が起つて、邦人の南洋發展上の主流をなすにいたつた。これらの投資額はイギリス・オランダに比すべくもないが、總額九千萬圓を超え、それ／＼着實な發展を示してゐる。

**ゴム栽培法** パラゴムは苗木を育成して本園に定植する。苗木は挿木及び接木で育てるが、近頃は接木法によるものが多い。

ゴムは一度定植すると三十年以上も繼續して收穫するので、定植前の整地は丁寧にする。手

入としては雑草の繁茂を防ぎ、病蟲害の發生を防止することが大切である。

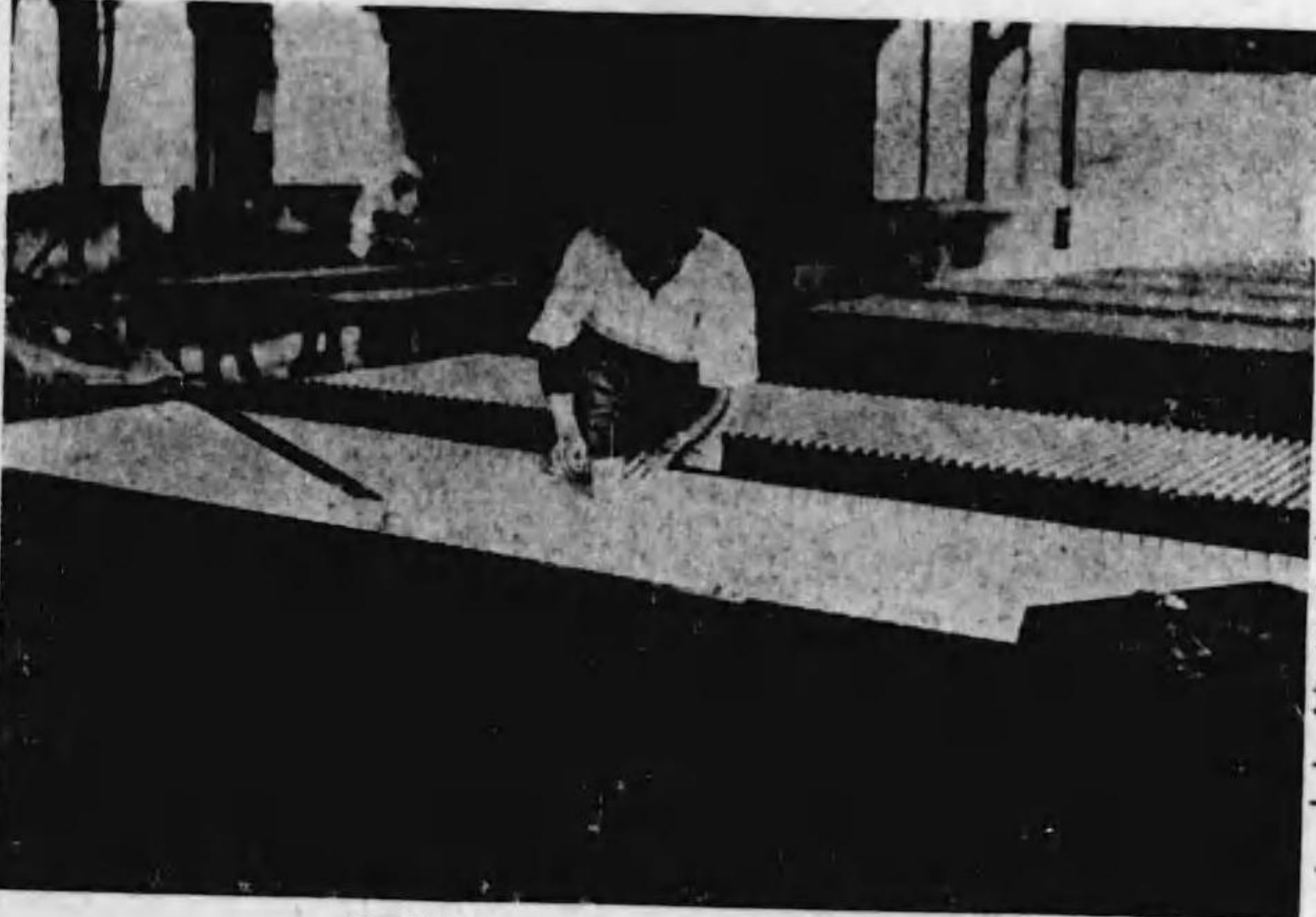
**ゴムの採取** ゴム液の採取は植付後五、六年の後、經二十センチ位に達してからはじめる。二十年前後のものが最良で、三十年を超えると老境に入る。

ゴム液採取には切付けを行ふ。切



第151圖 切付けと世界ゴム消費高圖

付けには種々の形式があるが、現在は單一傾斜法とV字形法とによるものが多い。切付けは毎日又は隔日に早朝行ふが、天候を考慮して一年に百五十日乃至二百日くらゐを限度とする。最初は木の周囲三分の一位を地上一メートル位の所からはじめて順次下方に及び、一箇年にして地際まで切り、翌年は次の三分の一を、翌々年には残りの三分の一を採取し、四年目には最初の部分に戻るといふやうに循環して行ふのである。切付けを終ると、その下部に篋を挿入し、その下に茶碗を置き、しばらくしてからこの液(ラテックス)を集めて工場に搬入する。



第152圖 ゴム工場の内部

**ゴムの製法** ラテックスは牛乳状で、比重は水よりやゝ軽く、弱アルカリ性を帯び、空气中に放置すると凝固して褐色となり、さらに黒色に變ずる。ラテックスからゴムを分離するには、醋酸か蟻酸を加へる。そして上面に凝固したものをローラーにかけ、壓縮して板状又は帶状とする。板状のものは粘着を防ぐ

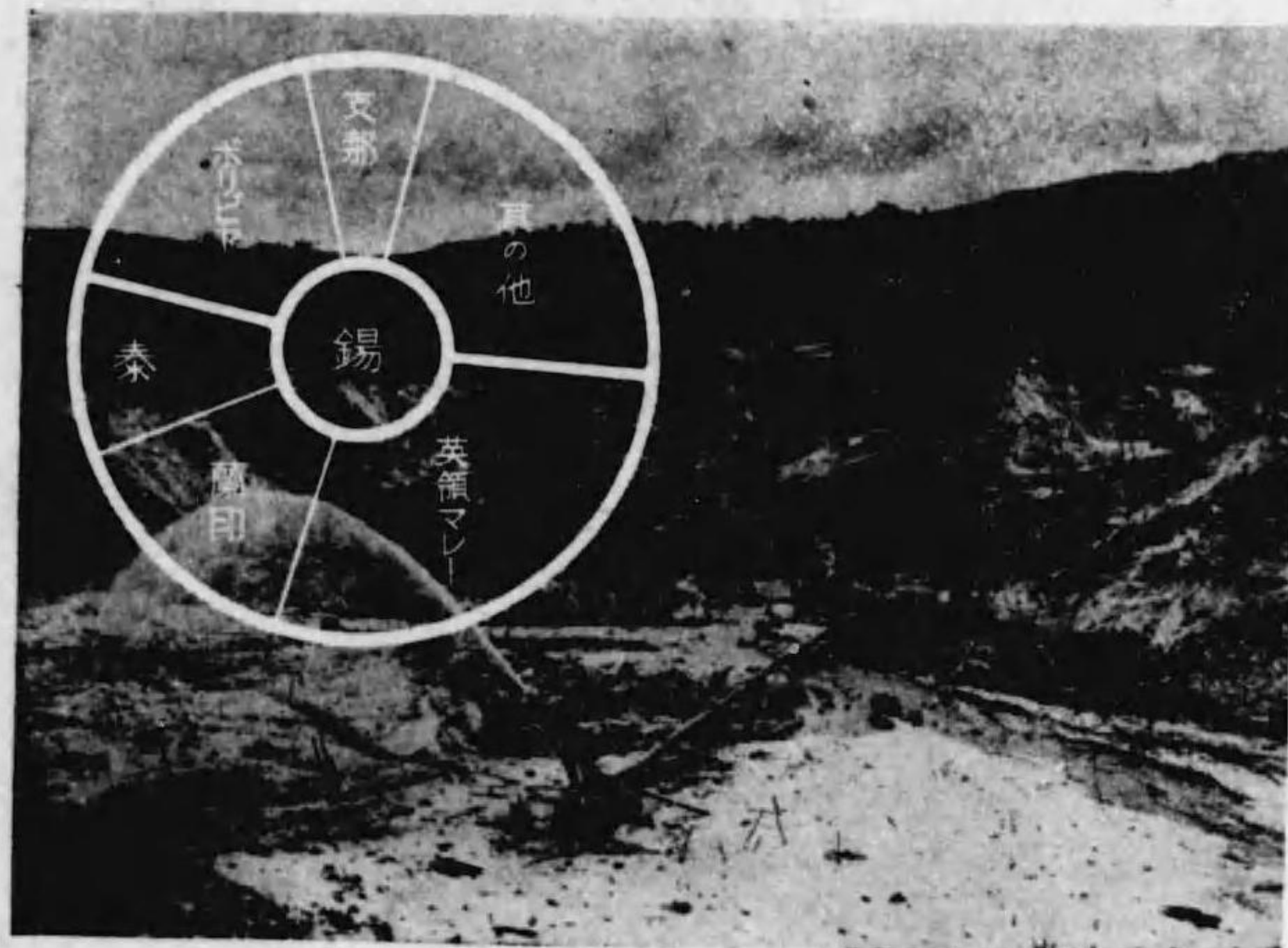
ためこれを燻して乾燥する。これをスモークド・リップド・シートといふ。帶状のものは燻さずに陰乾にする。これはちりめんのやうに縮んでゐるので、クレープ・シートといふ。普通一エーカーからのゴムの收量は約四百ポンドであるが、近來は八百乃至千ポンドを産出する優良園を見るやうになつた。

三三、錫・鐵・石油その他

**南洋の地下資源** 南洋の礦物資源は非常に豊富である。しかしその調査はなほ甚だ不十分で未開發のものが多い。現在採掘されてゐるものは、錫・鐵・マンガン・タングステン・ボーキサイト・金・銀・銅・亞鉛・クローム・石炭・石油・燐礦・寶石等で、世界的にも重要な礦産物が少なくなく、わが國にとつて必要不可欠の礦物資源が甚だ多い。これを地方別に見ると次の通りである。

- 佛 印 (石炭、錫、鐵、マンガン、金、亞鉛、タングステン、燐)
- タ イ (錫、タングステン)
- ピ ル マ (石油、錫、タングステン、銀、鉛、亞鉛、ニツケル、コバルト、寶石)
- 英領マレー (錫、鐵、銀、マンガン、タグステン、ボーキサイト、金、イルメナイト)

フィリピン (金、鐵、銅、マンガン、クローム)  
 英領ボルネオ (石油、金)  
 蘭 印 (石油、錫、石炭、金、銀、銅、ボーキサイト、タングステン、マンガン、燐)



第153圖 錫鑛山と世界錫生産高圖

このほかフィリピンには石油、石炭、蘭印には鐵が相當に埋藏されてゐるらしいが、まだ採掘されてはゐない。將來開發の進むにつれて、南洋はその種類と量において世界的に有望な鑛産地となるであらう。

錫は南洋の鑛産物中、世界的に最も重要視されてをり、世界産額の六〇%が産出されてゐる。銅、ニッケル、マンガンのやうな軍需金屬ではないが、罐詰工業、自動車工業等の一般工業にきりめて重要な金屬である。世界總産額の四〇%はアメリカが使ひ、残りの大半をイギリス・ドイツ・日本・フランスの五ヶ國で使つてゐる。しかもこれ

らの國ではほとんど錫を産しないので、その供給の大半は南洋から仰いでゐるわけである。アメリカではゴムとともに自動車工業その他に多く用ひてゐるが、錫については、いざといふときに、南米のポリビヤ(錫産額世界第三位)に轉ずることもできるので、ゴムほど南洋には依存してはゐないといはれる。

南洋で花崗岩のあるところには必ず錫鑛を産するといはれてゐるが、錫の鑛脈はマレー半島の脊骨をなす山脈と蘭印のシンケブ、パンカ、ピリトンの諸島にあつて、ビルマ、タイ、英領マレー、蘭印が主産地をなし、このほか佛印のラオスにも出る。昭和十四年には世界總産額十八萬トン(金屬含有量)に對し、南洋は十一萬トン餘を産出してゐる。

英領マレーは一八八三年ごろから世界第一の錫の産地となつてゐる。昭和十四年には五萬四千トン、世界總額の三〇%を産出してゐる。今までに約二百五十萬トンを採掘し、なほ百萬トン餘の埋藏量があるといはれてゐる。半島の脊骨をなす山脈の東西に産し、その鑛山數も百餘に達してゐる。一般に西側に多いが、東側のパハン州にあるパハン・コンソリデート鑛山は世界最大のものである。英領マレーにおける製鍊錫の輸出額は昭和十四年一億五千八百萬海峽ドル(八二萬トン)で全輸出額の二一%を占め、前年より五千萬海峽ドル(二一萬トン)の増加を示してゐる。これは第二次歐洲戰爭によつて需要がふえたためである。輸出の六〇%はアメリカ

カに送られてゐる。錫に對する投資はイギリスが六割を占め、あとは華僑が占めてゐる。

蘭印の錫は石油とともに世界的に重要な資源となつてゐる。昭和十四年の生産額は三萬二千トンで世界産額の一七%にあたり、世界第二位を占めてゐる。パンカ島が最も多く、全蘭印の約六割を産出してゐる。蘭印の錫採掘事業はほとんど官營で、第三國には全然許されてゐない。昭和十四年の錫の輸出額は約五千萬ギルダーで蘭印總輸出額の七%にすぎないが、ゴム、石油、砂糖に次ぐ重要輸出品である。鑛石の六七%が製鍊されて多くアメリカに輸出されるが、

あとは鑛石のままオランダ、英領マレーに送られる。しかしオランダ、英領マレーで製鍊してアメリカに輸出する額を考慮にいれると、蘭印錫輸出の過半がアメリカに流入してゐるものと思はれる。

タイ國の錫は米とともにこの國の重要な産物である。昭和十四年の生産額は一萬七千トン、世界錫産額の一〇%を占め、ボリビヤに次ぎ世界第四位である。主な産地はマレー半島部のブーケット島で、この國の錫産出量の約七割を産出してゐる。ナコンシータマラーからもかなり出てゐる。輸出額は三千萬バ



第154圖 錫 鑛 山

イツ(昭和十三年)、全輸出額の一五%を占め、米に次ぐ重要輸出品である。その大部分は原鑛のままピナン、シンガポールに輸出されてゐる。タイ國における錫鑛業に對する總投資額の八割はイギリスが占めてをり、残りの大部分はアメリカ資本である。オランダやタイ國の資本は兩者合せても二%にすぎない。わが國では三菱がバンナに鑛山を經營してゐる。

ビルマの錫はマレー半島部のテナッサリム沿海地方に産する。年産約四千五百トンで、原鑛のまますべてシンガポールに送られて製鍊される。

佛印では錫は石炭につぐ重要地下資源で、主としてトンキンのカオパン、ラオスのカンモン地方に産する。大部分フランスの資本によつて經營され、年産一千五百トン、多くは原鑛のままシンガポールに輸出されてゐる。

鐵 各種の金屬のうち鐵は最も多く、また最も廣く使はれ、近代産業文化の基礎資材となつてゐる。しかも莫大な鐵がなければ近代戰は不可能であるために、列國は、險惡なる最近の國際情勢の下に、多量の鐵を必要としてゐる。世界的に鐵飢饉の聲を聞くのはそのためである。わが國は鐵鑛資源に乏



第155圖 スリメダン鐵山

しいため、多く外國から輸入してゐる。東亞における鐵鑛資源は滿洲國と支那に多く埋藏されてゐるといはれるが、まだ開發が十分に進められてゐないので、差當り南方からの輸入によつて補つてゐる。殊に英領マレーの鐵鑛石はほとんど全部わが國に向けられてをり、昭和十一年にはわが國における鐵鑛石需要の三六%を補つてゐた。

南洋の鐵鑛石埋藏量は約十六億トン餘と推定されてゐる。多くは未開發でまた操業も幼稚なため、現在の産出は少く、英領マレー、フィリピン、佛印から世界産額の約二%を産してゐるにすぎない。鑛石はラテライトが大部分で、之に次いで赤鐵鑛、磁鐵鑛を産し、砂鐵もある。

英領マレーには鐵がどれくらゐ埋藏されてゐるかわからないが、約二億トンであらうといはれてゐる。これの採掘事業にあたつてゐるのは大部分日本人で、その投資額は南洋における鑛山事業に對するわが投資の過半を占めてゐる。主な産地はジョホール州のスリメダン(石原産業)、エンダウ(飯塚鐵鑛)、トレンガヌ州のケママン(石原産業)、ツングン(日本鑛業)、ケラント州のテマンガン(南洋鐵鑛)、マレー聯邦州のタンブン、スンゲイ・ロレン、ロンピン(石原産業)で、なかでもツングン鑛山が最も大きい。英領マレーにおける鐵の年産は昭和十四年百二十萬トンでほとんどわが國へ輸出されてゐる。この鐵はわが國需要の相當量を補ふほど重要なものであるが、こゝが英領であるかぎり英國の干涉壓迫の機會が多く、またシンガポール

を控へてゐるかぎり戦時においては全く頼りにすることができない不利を伴つてゐる。

フィリピンの鐵は金につぐ重要鑛産物で、埋藏量四億四千萬トンといはれてゐる。フィリピン群島各地に産し、ミンダオ島のスリガオが最も有名である。年産約四十萬トンで、昭和九年以來大部分が日本に輸入されてゐる。

佛印の鐵はトンキンのタイングエン、リナム(臺灣拓殖)、安南のタンホア、カンボヂヤのブノムデク(臺灣拓殖)が主な産地であるが、開發はこれからといつてよい。年産は約七萬トンである。蘭印の鐵は埋藏量十億トンと推定されてゐるが、採掘不便なため殆ど手がつけられてゐない。

**石油** 石油は近代的動力燃料の王座を占め、飛行機や機械化新兵器をはじめ艦船用として缺くべからざるもので、戦時においては實に石油の一滴は血の一滴にも比すべく貴重なものである。したがつて石油の需要は各國とも驚異的増進を示し、その獲得に血眼となつてゐる。わが國でも支那事變以來その需要が特に増加してゐる。しかるにわが國の産額はきはめて少く、從來主としてアメリカその他外國の石油に依存してゐたが、アメリカの不當な輸出禁止にあつた今日では、どうしても東亞共榮圈内の南洋から求めなければならなくなつてゐる。

南洋の石油の主産地は蘭印、ビルマ、サラワク、ブルネイであるが、これらの地から昭和十四年世界總産額の三%、約一千萬トンが産出されてゐる。このほかフィリピンやニウギニヤで

の油田開發も相當に期待されてゐる。

蘭印の石油は埋藏量三十億バレルといはれ、現在その原油產出量は昭和十四年約八百萬ト  
ンで、世界産額の二・八％に當り、世界第五位を占めてゐる。産額は累年増加しつゝあり、昭和  
十五年には九百萬トンを突破してゐるものと思はれる。主な産地はスマトラのパレンバン、ジャ  
ンピー、東海岸地方、アチエー州、ボルネオのサンガ・サンガ、タラカン、ジャバの東北部、  
セラム島等である。なかでもパレンバンは蘭印全產出量の四割を産出する東洋一の油田であ  
り、このためスマトラは全蘭印產出量の六六％を産出してゐる。石油の品質はタラカン油田  
を除き概して輕質石油で、なかには三〇％以上のガソリンを含むものがある。これらの油田の  
開發に當つてゐるのは、主としてバターフェ、オランダ・コロニヤレ、蘭領印度の三石油會社で  
ある。バターフェは資本金三億ギルダの會社でオランダ資本六割、イギリス資本四割より成  
り（實際は五億ギルダで全部英國資本だといはれてゐるが）全蘭印の石油の五六％を採油し  
てをり、オランダ・コロニヤレは全部アメリカ資本で資本金一億ギルダ、全蘭印の二七％を  
採油してゐる。また蘭領印度會社はバターフェと蘭印政府の共同出資で資本金一億ギルダ、  
全蘭印の一六％を採油してゐる。蘭印の石油に對する全投資額は約五億ギルダ、そのうちオ  
ランダ資本五割、イギリス資本二割七分、アメリカ資本二割二分を占めてゐる。イギリス、ア

リメカが蘭印の石油に對してかくの如き勢力をもつてゐるといふことは、われ／＼が蘭印の石  
油について考へる場合に軽く見過してはならないことである。蘭印の石油の輸出額は昭和十四  
年一千六百萬ギルダ（約七百萬トン）で蘭印全輸出額の二割強を占め、ゴムに次ぐ重要輸出品  
となつてゐる。このうち五〇％はシンガポール及びその灣内の島々に輸出されてをり、三〇％  
は、濠洲、エヂプトその他の英領域に送られてゐる。

ビルマの石油はイラワヂー河の中流、エナンヂオン、ミンブ、シングの諸地方に多く、また

ベンガル灣にのぞむアキヤブ、キヤクブ地方にも産する。

エナンヂオンは全ビルマ石油産額百十萬トンの七割以上を  
出してゐる。ビルマの石油事業には外國資本は禁じられてを  
り、イギリス資本のビルマ石油會社が獨占的に採油に當つて  
ゐる。

英領ボルネオでは石油はサラワクとブルネイに産する。サ  
ラワク・ブルネイは蘭印・ビルマに次ぐ東洋第三の産油地で  
兩地方から昭和十四年九十五萬トンを産出してゐる。サラワ  
クのミリ油田、ブルネイのセラヤ油田が最も産量が多い。ブ



第 156 圖 ミ リ 油 田

ルネイの石油はサラワクに接する地方に多いが、その産油はそのまますべてパイプでサラワクに輸送され、サラワクの石油とともに英領マレーに輸出されてゐる。

このほかポルトガル領チモール島にも石油が出るが量は少い。

**石炭** 石炭は製鐵に、發電に、蒸氣機關の動力等に用ひられ、石油と共に近代産業にきはめて重要な燃料となつてゐる。南洋における石炭の産地は佛印、蘭印、英領マレー、フィリピンであるが、その開發は各地とも充分に行はれてゐない。



第157圖 ホンガイ炭田

佛印の石炭はトンキンのホンガイ附近より全佛印採炭量の七割が産出されてゐる。ホンガイの石炭は所謂ホンガイ炭で東洋一の良質を備へ艦船用として優れた無煙炭である。このほかクロチルドルイ、エスポワル、マオケ等からも多く出る。ホンガイ炭田は埋藏量二百億乃至三百億トンといはれ、主に露天掘によつて採炭してゐるが、近年は坑内掘も行ふやうになつた。佛印における石炭の産額は昭和十年頃から次第に増加し昭和十一年には二百萬トンを超え、昭和十四年には約二百六十萬トンになつた。その約七割が輸出されるが、その五

割は日本向けである。

蘭印の石炭はスマトラのオムピリン、ブキッタセム、東ボルネオのマハカム河流域、ベラウ河流域に産する。埋藏量七億七千萬トンといはれ、昭和十三年の産額は百四十六萬トン、うち三十七萬トンを輸出してゐる。その六割はシンガポール向け、一割八分は香港向けである。政府は石炭の自給自足を目指しオムピリン、ブキッタセムを經營するため約四千萬ギルダの投資を行つてゐる。あとはオランダ民間資本で約一千二百萬ギルダが投下されてゐる。

英領マレーの石炭はバトアラン炭鑛ただ一つで、昭和十三年には四十八萬トンを産出してゐるが、なほ四十八萬トンを輸入してゐる。

**金と銀** 南洋では金はフィリピンに多く、これに次いで蘭印、英領マレー、サラワク、ビルマ、佛印にも少し出る。銀はビルマに多く、またフィリピン、蘭印にも産する。

フィリピンの金は、主にマウンテン州のバギオ地方、カマネリス・ノルテ州、マスバテ地方を主産地とし、世界産額の約三%を産出して世界第六位を占めてゐる。産額は年々増加し、昭和十四年三萬二千キロ(約五千萬ベソ)で、その大部分はアメリカへ輸出される。三つの産地のうちバギオ地方は全フィリピン産額の九割を産出してゐる。

蘭印の金はスマトラのシマウが主産地でボルネオ、セレベスのメナド州にも産する。産額は



昭和十四年二千四百キロで、シマウはその七、八割を出してゐる。英領マレーの金産額は昭和十四年千二百キロでラウプ金山が主産地である。銀はビルマより年々十九萬キロ程度産出してゐる。またフィリピンから三萬七千キロ、蘭印から一萬八千キロを出す。

**銅** 銅は鐵に次いで最大の用途を有する重要な軍需金屬であるから、從來銅の産出國として世界的地歩を占めてゐた我が國も、近年は却つて多額の銅を輸入してゐる有様である。従つて、南洋の銅鑛もまた我が國にとつて見のがすことのできないものであるが、最近までほとんど未開發の状態に望がかけられてゐる。蘭印ではボルネオ、セレベス、チモール等に銅鑛が發見せられてゐる。ジャバのソロ銅山は昭和七年以來我が國の石原鑛業によつて開發されてゐる。フィリピンに於ける銅の産出は由來少量に過ぎないが、將來開發の暁は我が國を凌駕すると説く人もある。昭和十四年には約五千トンを産し、主として日本に輸出されてゐた。

**ボーキサイト** マレー半島其の他にはラテライトが廣く發達してゐるが、その中には優良なボーキサイトがある。これは自動車、飛行機等に必要なアルミニウムの原鑛である。近年開發を見るやうになつた蘭印のピンタン島を主とし、其の他蘭印からは、昭和十四年に於て二十四萬トンの産額を擧げ、年々我が國に輸出せられてゐる。英領マレーでも有望なボーキサイトが發見せられ、ジョホールには本邦人經營の鑛山があつて昭和十二年から我が國に輸出してをり、

又バトパハの石原鑛業の鑛山でも既に採掘してゐる。英領マレーの年産額は五千トンである。

かく南洋のボーキサイトは我が國內におけるアルミニウム製鍊に密接な關係を有してゐる。

**鉛** 鉛は活字用、電氣用に必要であるが、彈丸の原料としても重要である。我が國では需要の九割を輸入にまつ有様である。南洋ではビルマに多く産出する。ビルマは産額が年々増加し昭和十三年八萬トンを産し、世界第八位を占めてゐる。

**マンガン** マンガンは製鐵製鋼に缺くことの出来ないものである。ソ聯が世界産額の半を占めインド、アフリカが之に次ぎ、米英獨佛の製鐵國はすべて外國から輸入してゐる。南洋ではフィリピン、英領マレー、蘭印、佛印に産するが、フィリピンでは近年盛に採鑛され産額は急激に増加して南洋で最も多く、昭和十三年に一萬九千トンを産し、わが國とアメリカに輸出してゐる。蘭印ではジャバ、スマトラ、ボルネオ、チモールの各島に産出し、その産額約一萬トンである。英領マレーは約七千トンを産出するが、こゝは高品位のものが多量にあつて石原産業と日本鑛業が盛に採掘しほとんど全部を我が國に輸入してゐる。佛印は安南その他の地に産する。

**ウオルフラム** ウオルフラムはタングステンの原鑛である。タングステンは特殊鋼製造として重要な金屬であるが、多くは錫鑛石と共に出る。南洋では主としてビルマ、英領マレー、佛印、タイ、蘭印に産するが、そのうちビルマに最も多く、昭和十三年に三千五百トンを産し、

支那に次ぎ世界第二位の産額を示してゐる。これに次いで英領マレーは千トン、佛印は三百  
トンを産出してゐる。

磷 磷鑛は昭和十二年に蘭印から二萬六千トン、佛印から二萬二千トンを産してゐるが、本邦  
人の手で昭和十三年以來佛印、ラオカイの磷鑛が開發され、また最近トンキンのハムデオン  
でも開發せられることとなり、年々數萬トン我が國に輸出される見込である。

その他特殊鋼製造に用ひられるコバルトはビルマから二十萬トン産し、眞鍮合金に用ひられ  
る亞鉛はビルマに五萬トン、アンチモニーは佛印に十萬トン、クロームはフィリピンに一萬八  
千トンを産出してゐる。

### 三四、わが南洋貿易

南洋はもとく、原料生産地として開發されて來たため、その貿易は國際市場向きのゴム・砂  
糖・キナ・コブラ等の熱帶農産物と錫・石油等の鑛産物を輸出し、一方織物・食料品等の生活  
必需品や原料開發に必要な器械類その他工業製品を輸入するのを傳統的な特徴としてゐる。

わが國から見た場合、南洋はわが國各種工業に必要な原料供給地であり、またわが工業製品  
の良き販賣地となつてゐる。すなはち南洋からは生ゴム・麻・木材等の工業用原料や石油・錫・

鐵・石炭等の鑛産物を主に輸入し、わが國からは最大の工業製品である綿織物を筆頭とし、人  
絹織物・メリヤス・綿絲・絹織物等の纖維工業品や硝子・陶磁器・鐵製品・玩具等の雜貨を輸  
入してゐる。ことに綿織物にとつては南洋はわが國最大の得意先であつて、南洋貿易の盛衰は  
一に綿織物の輸出如何にかゝつてゐる。

わが南洋貿易が急速に發展し、南洋の國際貿易戰において確固たる地位を占めるに至つたの  
は前の歐洲大戰中からのことである。それまでは綿織物も大した進出をせず、メリヤス・絹織  
物が主要輸出品で、砂糖・米・麻・石油・錫等の輸入が多く著しい輸入超過をつゞけてゐた。  
しかし大戰中歐洲と南洋との取引が杜絶した機會にわが商品は躍進的に進出し、大戰後期には  
その貿易額は戰前の數倍に膨脹し、一躍輸出超過に轉じた。戦後は多少の波瀾を免れなかつた  
が、昭和六年わが國が金輸出再禁止を行つてからは圓價の下落に乘じさらに奔流のやうな勢で  
南洋を席卷し、昭和八年の如きは蘭印における歐米品をほとんど驅逐するに至つた程である。  
かやうに急速に發展したわが南洋貿易は昭和十二年に空前の記録を作つて、日本からの輸出は  
三億八千六百七十五萬圓、南洋からの輸入三億七千三百六十萬圓、合計七億六千萬圓で、一千  
四百萬圓の輸出超過を示した。

しかし支那事變が勃發し國際情勢が變化するに従ひ、自由であつた南洋貿易は次第にブロッ

ク的な貿易に一變し、わが商品は漸次進出の餘地を狭められると共に現下のわが國が最も必要とする重要物資石油・錫・ゴム等の入手は極めて困難となつた。とくに第二次歐洲戦争が起つてからは英・米勢力下にある南洋各地の貿易管理はいよいよ強化され、わが南洋貿易を著しく阻害するに至つた。

こゝにおいて東亞新秩序の建設をめざすわが國は、これらの英・米勢力を排し、南洋各地を含む東亞共榮圏の確立に邁進することとなり、從來の如き利益本位の貿易政策を一擲し、共榮圏内の物資の交流を圓滑ならしめるやう、貿易關係を是正して行くことになつたのである。その手始めとして先づ蘭印と佛印との貿易の改善を圖ることとなつた。その結果日蘭會商は不調に終つたが、日佛會談は成功し、日佛印經濟協定の締結となつた。しかしわが理想の實現には前途多大の困難が横たはつてゐることを豫想しなければならぬ。

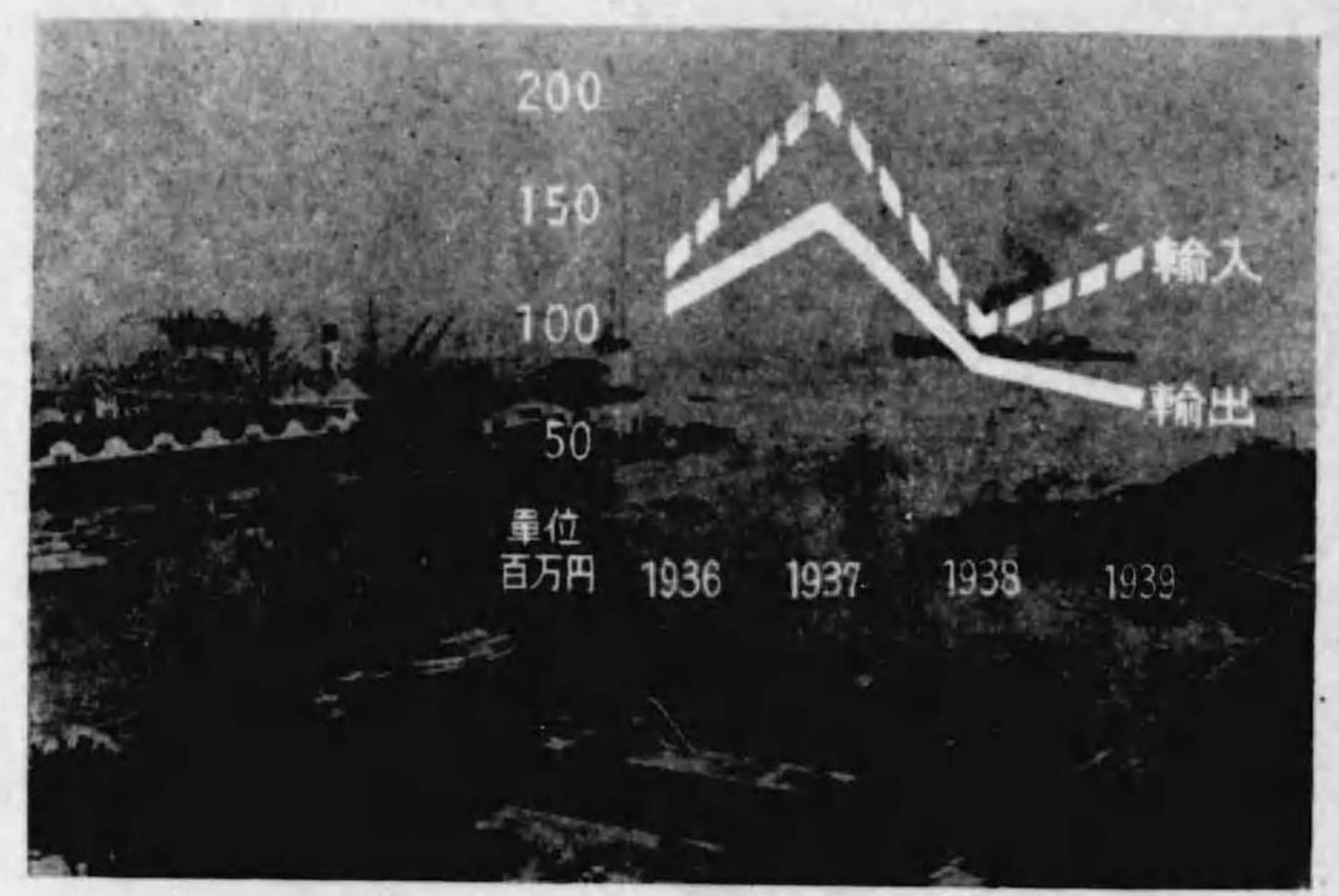


第158圖 蘭印の主要相手國貿易額圖



第159圖 蘭印の對日貿易額品種別圖

日本と蘭印 蘭印はわが日本にとつて從來最も重要な貿易相手國であつて、この



第160圖 蘭印の對日貿易累年額圖とスラバヤ港

關係は蘭印政府の好むと好まざるとにかゝはらず今後とも一層の緊密さを加ふべき立場にある。蘭印が輸出する主なものは昭和十四年においては農産物ではゴムを筆頭に砂糖・茶・コブラ・煙草・キナ等で、鑛産物では石油を第一とし次いで錫等である。輸入品は綿織物を最大とし、食料品・機械器具・金屬製品・化學製品等が主なものである。同年における蘭印の日本よりの輸入は綿織物が第一位、綿絲・人絹等の纖維工業品、自轉車等の金屬工業品が之に次ぎ他は陶磁器・硝子・セメント等であり、輸出はゴム・石油・木材・錫・キナ等であつた。貿易額は日本よりの輸入一億三千七百八十萬圓、

日本への輸出七千六百三十三萬圓、六千六百萬圓の輸入超過であつた。日本が蘭印の貿易に確固たる地位を占めるに至つたのは前の歐洲大戰からで、戦前蘭印の輸入貿易中僅かに一・三%を占めるにすぎなかつたものが、戦時中一〇%に躍進し、昭和六年か

らは綿織物の進出著しく遂に一七%を占めてオランダに代り第一位を獲得し、その後常に輸出超過がつき昭和八年の如きはわが國からの輸出が一億圓も多いといふ片貿易で、その後も五、六千萬圓の出超尻をつまけてゐた。

このためオランダ本國からの輸出は大打撃を蒙るに至つたので蘭印當局はわが國よりの輸入割當制を實施し、或ひは邦人の營業や入國を制限する等、いろいろな方法をとつて日本品の進出を抑壓するにいたつた。

ところが蘭印の貿易は第二次歐洲戦争の勃發によつて前大戰にもまさる大打撃を受け、貿易

蘭印の輸出

	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年
オランダ	一九・六%	二〇・一%	一四・四%
アメリカ	一八・七%	一三・六%	一九・七%
シンガポール	一九・四%	一六・六%	一六・七%
濠洲	三・九%	五・三%	五・五%
イギリス	五・三%	五・三%	四・六%
日本	四・五%	三・一%	三・四%

蘭印の輸入

	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年
オランダ	二〇・三%	二二・二%	二一・四%
日本	二五・〇%	一五・〇%	一八・九%
アメリカ	一〇・〇%	一二・六%	一四・二%
ドイツ	八・四%	一〇・三%	九・二%
シンガポール	七・六%	七・五%	七・四%
イギリス	八・一%	八・〇%	七・四%

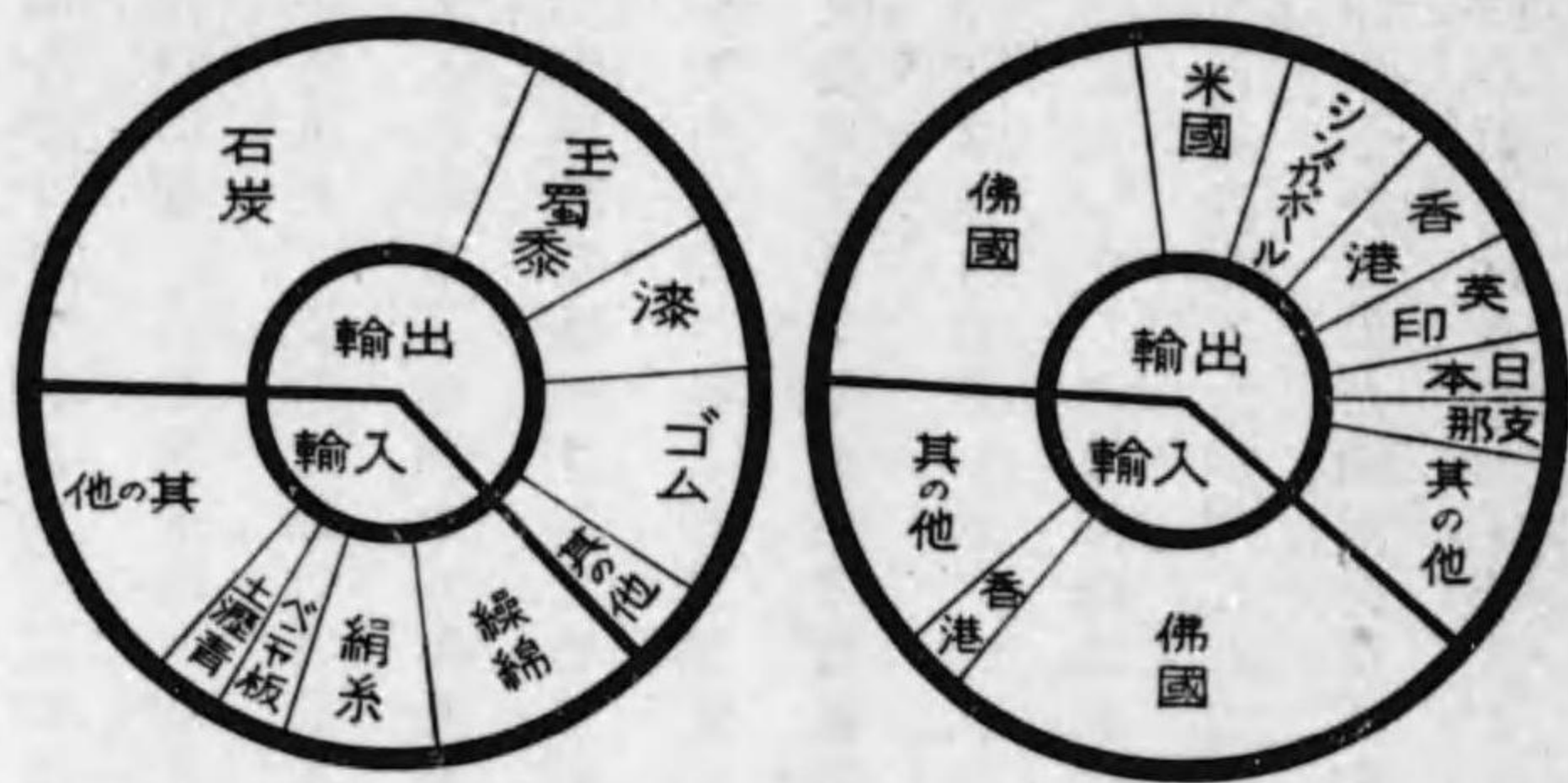
上の一大轉換を餘儀なくされてゐる。この變化は昭和十五年に入つてから次第に顯著となり、オランダ本國はじめ歐洲向輸出が激減し、これに代つてアメリカ・シンガポール・濠洲・印度等への輸出が増大するに至つた。また輸入においても、ドイツのオランダ侵入以後はオランダからの輸入は杜絶し、アメリカの鐵鋼・機械類と日本の綿製品の進出が著しくなつた。アメリカの輸出入貿易に占める割合は別表の如く昭和十四年からとくに強大となつて來たが、昭和十五年に入つてからはゴム・錫の買付が特に増大し、またアメリカからの輸出も激増して遂に日本の地位を奪ふに至つた。かくて蘭印とアメリカは貿易上の相互依存關係を次第に

深めつゝあり、このことは蘭印をして東亞共榮圏から離れ、アメリカの傘下に走らせる結果に導いてゐる。しかしアメリカに依存するとしても、従来蘭印の主要輸入品であつた綿製品やその他の輕工業品等の充足についてはアメリカは到底安んじ日本に及ばない。しかるに蘭印政府は英米に追従して一九四一年日蘭印間の爲替取引交換を停止し、或は日滿支佛印への輸出と日本よりの輸入を許可制としたが、益々増加の傾向にあつた低廉な日本品の輸入を制限して最も打撃を受けるのは蘭印自身である。また蘭印が従来通りの輸入を認めるとしても、従来甚しい片貿易で日本の受取る分が多くなつてゐるから、それだけ蘭印は金または物資をもつて支拂はねばならなくなる。蘭印は英米に依存したためにかへつて困つた立場に陥つてゐる。

**日本と佛印** 佛印はその貿易において極端なフランス本國偏重の政策をとつたため、輸出入ともにフランスが壓倒的に優勢で、輸出の三割以上、輸入の七割近くを占めてゐる。

昭和十四年の輸出は米が全體の約四〇％で、その首位を占め、之に次ぐものは玉蜀黍・ゴム・石炭・魚類・錫等であり、輸入は綿織物が第一で麻袋・金屬製品・機械・鑛油等がこれに次ぐものである。

主な輸出先はフランスを除くほかアメリカ・シンガポール・香港・日本、輸入先は香港・印度・蘭印・日本の順位で、英・米との取引がかなり密接であることは注目すべきである。

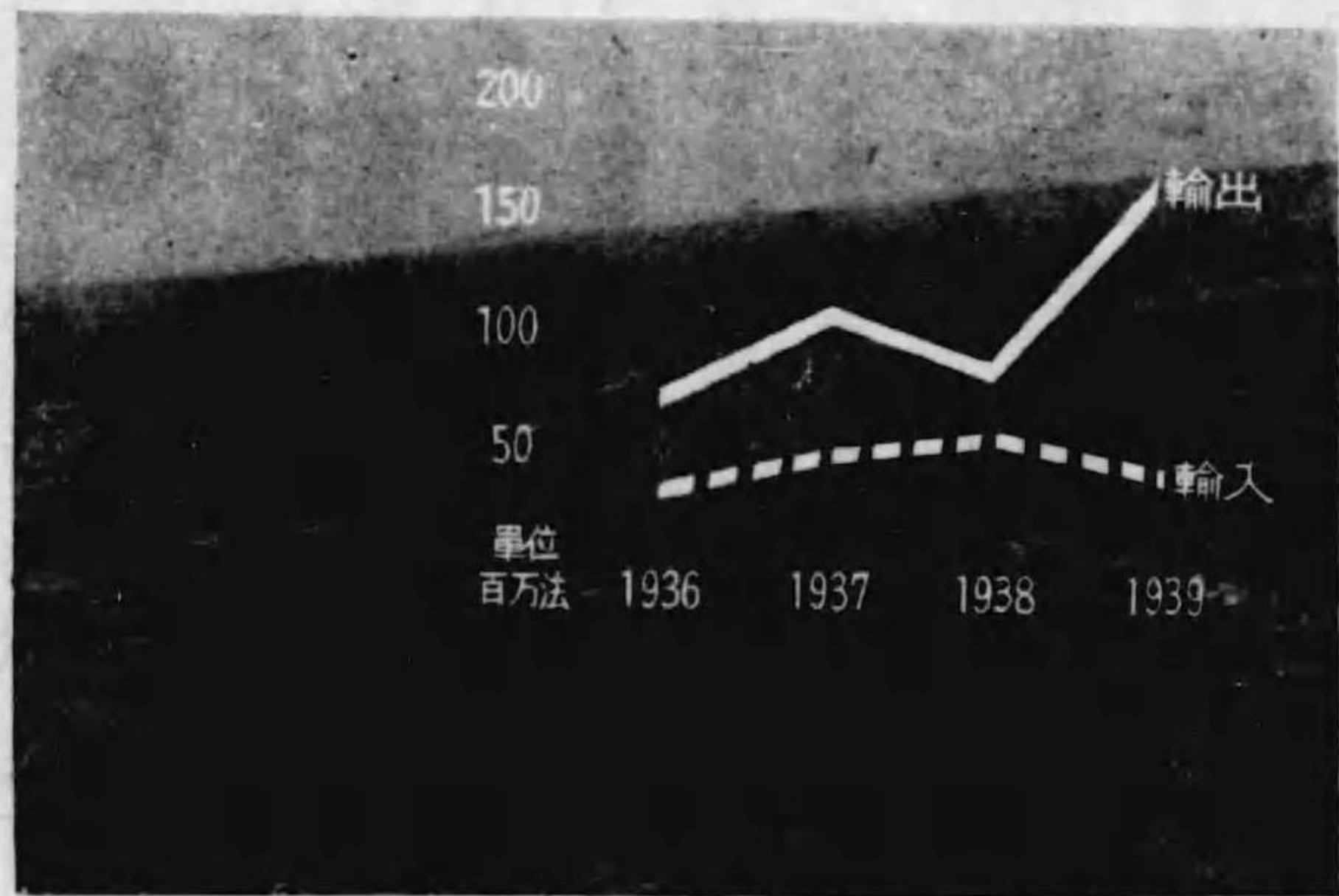


第161圖 佛印の相手國別貿易額別圖

第162圖 佛印の對日貿易額品種別圖

日本の佛印貿易は、はじめから佛印政府當局の排他的な本國偏重の貿易政策によつて、日本商品は不利な待遇を受けてゐた。昭和七年に成立した通商協定によつて一時緩和されたが、これも永續せず昭和九年の關稅改正においてさらに一層苛酷な壓迫を加へられた。すなはちわが國の佛印輸出貿易は明治以來、全く不振沈滯の中を歩みつけて來たのである。

昭和十四年にわが國から輸入した主なものを挙げる  
と線綿を第一位とし、ベニヤ板・絹糸・陶磁器及びガラス・アスファルト・ビッチ・絹及人絹織物・馬鈴薯等



第163圖 佛印の對日貿易累年額圖とサイゴン港

が之に次ぎ、輸出品の主なものは、石炭を第一位とし、ゴム・玉蜀黍等であつた。貿易額は輸入千九百八十萬圓、輸出二千六百六十五萬圓で、二千四百六十五萬圓の出超であつた。

貿易上で對日壓迫をつけた佛印は、支那事變發生以來、英・米と歩調を併せ露骨な援蔣行為をつけてきたが、歐洲におけるフランス本國の没落と、事變處理に邁進するわが斷乎たる決意の前には如何ともし難く、つひに今までの態度を改め、支那事變の解決、促進に協力するとともに、東亞における日本の指導的立場を認め、日本との經濟關係を緊密にすることを約束するに至り、昭和十五年九月遂に皇軍は佛印に平和的進駐を行った。これとともにわが國との貿易關係を調整するために、昭和十六年一月以降日佛印東京會談が開始されたが、同年五月にいたり、やうやく經濟協定が成立し、相互に貿易商品に對して最低稅率を課し或は免稅とし、又從來アメリカドルで貿易決済をしてきたのを、直接に圓とピアストル（佛印の貨幣單位でピアストルは約一圓）で決済をし、決算尻が五百萬圓を超える毎に外貨で超過金額を支拂ふことになつた。なほ佛印當局は輸入組合を設け種々の條件を附して日本商社の組合加入を妨げようと試みてきたが、この協定によつてかなり緩和されるにいたつた。この協定の成立は從來佛印の貿易は飛躍的に増大するものとみられてゐる。



第 164 圖 泰の主要相手國別貿易額圖

日本とタイ 貿易においてタイ國は古くから日本の良い得意先となつてゐる。しかし、數年間日タイ貿易は次第に減少してゐる。それはタイ國貿易が米に依存してゐるため米産の消長に左右されてゐること、國內開發が主としてイギリス資本によつてなされ、貿易もその壓迫を受けて利益を横取りされてゐること、華僑が商業の實權を握り支那事變以來日貨排斥を行つてゐることなどのためと解される。

タイ國の貿易品は、米が輸出の大宗で、昭和十四年においては全體の約五割を占め、之に次ぎ重要なものは錫・ゴム・チーク材・鹽魚等であり、輸入では綿織物が第一位、次いで食料品・金屬製品・麻袋・燈油・石油等である。日本よりの輸入は綿絲・綿布・綿織物と人絹織物の纖維品が過半を占め、このほか紙・鐵製品（ブリキ板）・陶磁器及びガラス等が主なもので、日本への主要輸出品は米で、これに次ぐものはチーク材・皮革等である。昭和十四年の輸入は二千六百萬圓、輸出は五百五十萬圓で、合計三千百五十六萬圓で、前年より二九%の激減を示してゐる。



第 165 圖 泰の對日貿易額品種別圖



第166圖 英領マレーの主要相手  
國別貿易額圖

これはイギリスの政治的、經濟的壓迫と華僑の日貨排斥が主な原因をなすものであるが、佛印との國境紛争の解決を機会に、タイ國は彼等の束縛を脱し、わが國との貿易促進を計るにいたるものと期待されてゐる。

**日本と英領マレー** 世界有数の仲繼貿易港シンガポールを擁する英領マレーと日本との貿易關係は、第一次歐洲大戰をき

つかけに急速にむすばれたのであるが、綿織物を主とする日本商品の進出があまりに急調子であつたため、イギリスは自國製品の驅逐されることを怖れ、遂に昭和九年七月日本製の織物類に對し輸入割當を實施した。この結果、日本商品は全面的に大打撃を受け、爾來わが國とマレーの貿易關係は著しくゆがめられたまゝ今日に及んでゐる。のみならず支那事變の發生に伴つて起つた華僑の日貨排斥は南洋華僑の中心地だけに猛烈を極め、最近とくに苛酷となつたイギリスの對日壓迫と共にわがマレー貿易に二重の打撃を與へてゐる。

しかし日本がマレー貿易に無關心であり得ないのは、日本がこゝから近代工業と軍需に不可欠のゴム、錫をはじめ鐵鑛石(マレー産のほとんど全部)、燐鑛石、石油等をかなり多量に輸入し、これがため莫大な輸入超過をつゞけてゐることによつても知り得よう。



第167圖 フィリピンの主要相手  
國別貿易額圖

昭和十四年、英領マレーが日本から輸入した商品は綿絲及び綿製品、人絹類などの纖維品が全體の半分近くを占め、石炭が之に次ぎ、他は雜貨類である。同年の貿易額は日本からの輸入二千二百四十三萬圓、日本への輸出一億一千五百八十四萬圓、九千三百四十萬圓の出超であつた。

**日本とフィリピン** フィリピンは元來農業國であるから、その

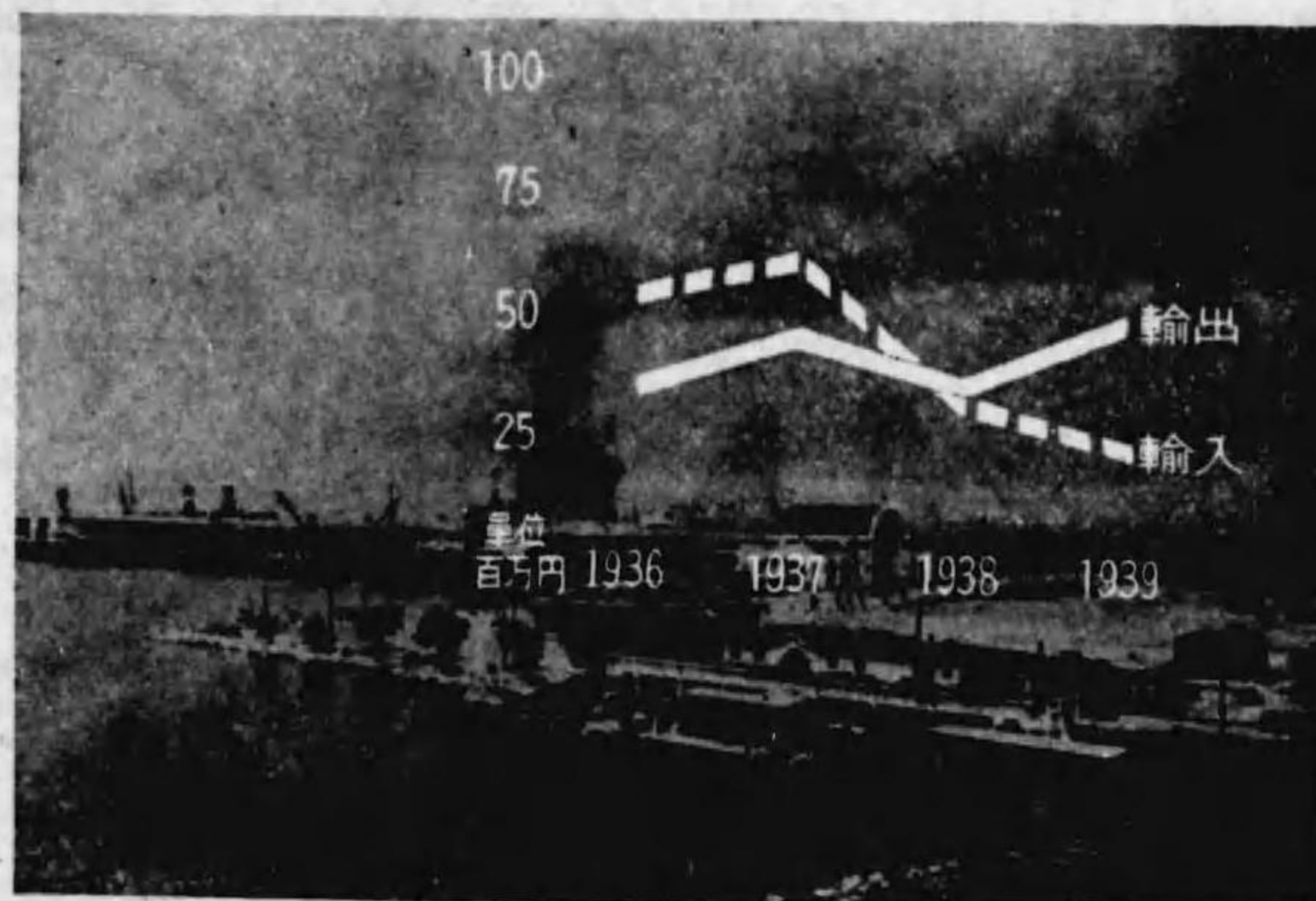
輸出品は砂糖をはじめ、コブラ、麻、ヤシ油、葉煙草、その他木材等が九割を占め、輸入品は綿布が最も多く、鐵及銅製品、機械類、食料品等が主なものである。

フィリピンの貿易に占めるアメリカの地位は壓倒的で、輸出では約八割、輸入において七割を占め、フィリピンは名實共にアメリカの忠實なる農産物供給者であると同時に、アメリカ製品の良き消費者となつてゐる。

日本は輸出入とも第二位にあるが、アメリカの一角に過ぎない。アメリカが貿易の獨占權を握つてゐるのは、屬領であるといふ政治的な關係から自由貿易制を施し、フィリピンの對米輸出に關稅を課せず、その廣大なアメリカ市場を提供する代りにア



第168圖 フィリピンの對日貿易  
類品種別圖



第169圖 フリビンの対日貿易累年額圖とマニラ港

アメリカのフィリピン向輸出に對し他國が競争出來ぬやうな仕組にしたためて、日本はこのため非常な損を蒙つてゐる。

日本とフィリピンの貿易は南洋一般と同様、前の歐洲大戰以後急發展をなし、しかもわが輸出は輸入よりも増す一方であつた。しかし支那事變の勃發により華僑の日貨排斥に逢ひ、輸出は激減し、著しく入超を示すに至つた。わが國からの主な輸入品は綿絲布・綿織物・絹・人絹織物が過半を占め、ガラス・陶磁器・紙等で、輸出品はマニラ麻・木材を主とし、鐵鑛及金屬・葉煙草・皮革等である。昭和十四年における貿易額は輸入二千四百七十四萬圓、輸出四千九百十二萬圓、二千四百三十八萬圓の出超であつた。しかるに昭和十六年にいたりアメリカは對日經濟壓迫のために、フィリピンをして重要輸出品のアメリカ領以外への輸出をほとんど禁止せしめるに至つた。このため日比貿易の前途は極めて憂慮すべき状態に立ちいたつてゐる。

### 三五、列國の投資

南洋の資源をめぐる白人の爭奪は、貿易戰に始つて領土の侵略となり、領有した土地の資源開發に乗り出しはじめた。開發の状態はその國の政情や經濟力によつて差があり、時には自國資本だけでは間に合はず、外國資本の力を借りる場合もあつたが、僅々五、六十年の間に全世界が驚嘆するほどの發展を遂げたのである。

南洋に投下されてゐる各國の資本の額は未だはつきりわからないが、少くとも百二十億圓以上には達しようと言はれてゐる。このうち第一位にあるものはオランダで約六十億圓、これに次ぎイギリスが二十三、四億圓、第三位がフランスで、この三者で全體の七、八割を占め、残りには米・日・獨その他である。このほか見逃がすことのできないのは華僑の投資で三、四十億圓に達し、土着資本として主に商業方面に費されてゐるが、栽培事業に對する投資も少くないと言ふことである。

南洋の特産物がゴム・砂糖・キナ・コブラなどを主とする熱帶農産物と錫・石油などの鑛産物とであることによつても分るやうに、各國の投資は農業と鑛業に大體限られてゐる。農業投資は合計六十億圓以上に達し、残りの過半は鑛業投資で、工業その他は問題にならない。



いま各國が投資した主な事業を地域的に見ると、まづオランダはジャバ・スマトラを中心とする農業開発のために資本の大半を集中し、傍らジャバ・スマトラ・ボルネオの石油開発に力を注いでゐる。オランダが何よりも農業開発に關心を持ち大々的に投資したことは、今日の蘭印をして「熱帯農産物の世界的寶庫」たらしめた重大原因となつてゐる。

これに對しイギリスは先づマレー半島のゴム栽培に力を注ぎ、次で支那人の手にあつた錫鑛業の實權を収めた。またビルマや、北ボルネオの石油を獨占すると共に、タイ國の錫と木材事業に對し有力な投資を行ひ、餘力を驅つて蘭印のゴムと石油獲得に参加するに至つた。このほか、金融や海運を通じ南洋一帯に隙間なく資本網を張りめぐらしてゐる。

フランスは最初から極端な鎖國主義をとつて佛印の錫・石炭を主とする鑛業とゴム栽培事業に主として投資し、タイ國の錫・チークにも若干資本を投じてゐる。

アメリカはその政治的優位を利用してフィリピンの砂糖・ココ椰子・木材事業・鑛業等に有力な投資を行ひつゝ、フィリピンの經濟をしてアメリカ依存を餘儀なくせしめ、また蘭印の石油獲得戦にイギリス資本と鎬を削つてきた。

わが國の南洋進出は二十世紀に入つてからで、しかもその時既に白人諸國による開發が相當進み、門戸を固く閉して、わが國の進出を喜ばない有様であつた。このためわが南洋投資は白

人諸國に較べ著しい遜色があり、現在僅かに三億圓(全體の二・五%)に過ぎない。

いま各國の南洋投資を簡単に紹介しよう。

**日本** 昭和十二年の臺灣總督府調査によつてみると、わが國の南洋投資は農業に對する一億七千萬圓を第一位とし、鑛業の四千萬圓、林業の千八百萬圓、水産業の千二百萬圓がその主なものである。

地域的にはフィリピンが最も多く(二億圓)、ダバオのみで一億圓といはれてゐる。之に次いで蘭印・英領マレーである。

農業投資の大宗はゴム栽培事業で、投資額は好況時代の一億圓には及ばないが現在の投資額は約八千萬圓に上つてゐる。マレー半島(ジョホール州)を中心に、スマトラ・ボルネオ・ジャバの各方面で栽培され、之に従事するものは二十四會社と二百に近い個人經營農園であり、一年約二萬トンの生産をあげてゐる。

ゴムに次ぐものは麻栽培で、フィリピンのダバオを中心に三十會社と約三千の個人自營者が之に従事し、投下された資本は約六千萬圓に上り、フィリピンの麻産出額の四分の一を占めてゐる。最近英領北ボルネオのタワオに於ても邦人の手に由る麻栽培が開始されてゐる。

ゴム・麻に次ぎ第三位にあるものは椰子栽培事業で、フィリピンのダバオ・英領ボルネオ・

蘭印の各地で、ココ椰子や油椰子が大規模に栽培され、投資額は八百萬圓内外に達する。

このほか中部ジャバにおける砂糖(甘蔗)・キナ・コーヒー・茶、スマトラ東海岸のカカオ、東南ボルネオの胡椒、ニウギニヤのカボック・ダマール栽培が大規模に行はれてゐる。

鑛業は英領マレーの鐵・マンガン・水鉛・錫・ボーキサイトを第一として、英領北ボルネオの石油、ジャバの銅、セレベスの雲母、フィリピンのマンガン、佛印の鐵等の採掘に投資されてゐるが、なかでもマレーの鐵、水鉛鑛業は邦人の獨占するところ、鑛産資源に乏しいわが國のため萬丈の氣焰を吐いてゐる。

林業はフィリピンとボルネオのラワン材を主とするいはゆる南洋材に集中し、かつて之に従事する邦人會社は約十社を數へてゐたが、現在は三社に制限されてゐる。

南洋の水産業は全く邦人の獨壇場で、フィリピンのマニラ・ダバオ、英領マレーのシンガポール、英領北ボルネオのタワオ附近、ジャバの北部海岸、スマトラの東海岸、セレベスのメナド等を根據として活躍する邦人水産業者は六千人に達し、年産額約一千八百萬圓を擧げ、將來ますます有望視されてゐる。

**イギリス** イギリスの南洋投資はオランダに先んじて行はれ、前の世界大戰當時すでに九億四千萬ポンドに達してゐた。

一九三一年には英領マレーのゴム栽培に八百萬ポンド、錫鑛業に九千二百萬ポンドを投資し、これらの事業を完全に握つて世界一の産額を擧げてゐる。英領以外の地域では、蘭印に對する投資が最も多く、一九二九年末において、四億九千九百萬ポンド以上を示してゐる。先づ農業ではゴム・茶・コーヒーに約二億八千九百萬ポンド(全蘭印農業投資の一三・五%)を、鑛業では石油に一億二千四百萬ポンド(二一%)を投下し、ともに各國の蘭印投資中、第二位を占めてゐる。このうちゴム投資の如きは蘭印全體の四割を占めオランダ資本よりも優位にあり、石油投資は最初單獨に行つてゐたが、アメリカ資本の進出を抑へるため逸早く、オランダ資本と妥協し、蘭印最大のバターフセ(B.P.M)石油會社を作り、資本金三億九千九百萬ポンドの四割を出資するほか、この會社を通じ蘭領印度石油會社やニウギニヤ石油會社へも出資し、ジャバ・スマトラ・ボルネオ・ニウギニヤなど全蘭印の石油獲得を圖つてゐる。背後には龐大なイギリス石油資本系の援けがあり、また全世界にわたる強力な販賣網を以て蘭印の石油事業を完全に抑へてゐる。

タイ國に對しては多額の公債に投資し、政治上、財政上強大な實力を植ゑ付け、タイ國を引きずつて、表面には不開發方針をとらせ、他面着々と錫・チーク材事業を獨占するに至つた。錫鑛業には七千萬ポンド、チーク事業には二千百萬ポンドを投資してゐる。

このやうにイギリスは南洋の特産であるゴム・チーク・錫・石油獲得のためには、あらゆる

老獯な手段を弄し、その背後にある強力な金融と海運を動かし、南洋の全地域にわたり抜け目なく資本網を張りめぐらし、事實上南洋の富を支配してゐるのである。

**オランダ** オランダの投資は蘭印の開発のみに集中してゐるが、蘭印にはオランダ以外に各國の資本が錯綜してゐる。

蘭印政府が發表した一九二九年末のジャバ・スマトラに對する農業投資額二十億六千五百萬ギルダのうち、オランダは七四％で第一位を占め、イギリスは一四％、フランス（ベルギーを含む）は五％、アメリカは三％、日本は一％である。また一九三一年末における石油を中心とする蘭印の鑛業に對する全投資額六億ギルダのうち、六割はオランダ、二割一分はイギリス、一割八分はアメリカが占めてゐる。

このやうな状態になつたのはオランダの傳統的な自由主義から、先づ各國に門戸を解放し、多額の外國資本を入れて互に競争させ、自分は常に優位を保ちながら開發を促進させようとする巧妙な方針に基くものである。しかし統制經濟の時代に入つてからはこんな政策は許されなくなり、今日では全く鎖國主義に轉じてゐる。

オランダは農産物の輸出利益の多いことに着目し、先づジャバ・スマトラの農業開發に着手し、強制栽培制度の實施によりその發展は目覚ましいものがあつた。

農業投資は一九二九年末には十五億三千六百萬ギルダに達し、その主なものはジャバでは砂糖・ゴム・コーヒー・キナ、スマトラではゴム・煙草・茶・ヤシ類などの栽培で、このうち砂糖・キナ・煙草の栽培事業を獨占し、コーヒー・茶・ゴム事業に牢固たる勢力を持つにいたつた。

鑛業に對しては石油を第一とし、錫・金・銀・石炭に合計三億九百萬ギルダを投資してゐる。石油事業ではアメリカ資本に對抗するため、英國資本と妥協し、資本金の六割を出資して、バターフェ石油會社を作り、表面上蘭印石油界に君臨してゐるが、その實權は完全にイギリス資本に握られてゐることは前に述べた通りである。これに懲りて錫・石炭をはじめ、あらゆる鑛業にわたり現在極端な閉鎖主義をとり、錫の如きは一億七千五百萬ギルダを投じ、オランダの全く獨占する所となつてゐる。

このほかオランダは最近の國際情勢の變化に應じ、蘭印の工業化に力を入れはじめ、金屬・織物・化學工業その他の輕工業に約三億ギルダを投資してゐる。これらを併せ現在オランダの蘭印に對する全投資額は約三十五億ギルダに上るものと見られてゐる。

**フランス** フランスの南洋投資は極端な排他主義で、他國の資本の入ることを防ぎ主に佛印の農業と鑛業開發に集中してゐる。佛印は農産以外に鑛産が豊富なため、先づ鑛山の開發に着手

したので鑛業の投資は農業よりも遙かに多い。すなはちトンキンのアロン灣岸ホンガイを中心とするドン・トリユーー一帯の無煙炭、トンキン、ラオスの錫・タンゲストン・亞鉛が主で、石炭は南洋最大の産出国となつてゐる。投資額は約二十五億フランで、殆んどフランス系の十二社で占めてゐる。

農業投資は交趾支那を中心とする大規模なゴム栽培に全力を注ぎこれと共に同地方の米作、トンキン、アンナンにおける茶・コーヒー栽培に投資し、一九三一年末迄に合計十五億フランを投下してゐる。このほか産業道路、港灣施設等に對する投資を併せると、フランスの全佛印投資は七十五億フランに上ると言はれてゐる。またタイ國にも勢力を伸し、同國の錫・チーク材事業に可成りの投資を行ひ、さらに蘭印の農業に一億一千萬ギルダーを投下してゐる。

アメリカ この國の南洋投資はフィリピンへ二億六千萬ドル、蘭印へ六、七千萬ドル合計三億二、三千万ドル見當と言はれてゐる。フィリピンへの投資の二割は、公社債投資で、産業に對する直接投資は、一九三九年の調査では砂糖・ココ椰子・纖維工業・木材業・鑛業等に一億九千二十萬ドルを投じてゐる。このうち金・鐵を中心とする鑛業は比較的遅れて開發されたにも拘らず、その投資額は最大で約四割を占め、砂糖の二割四分がこれに次いでゐる。フィリピンは米領となる以前永らくイスパニヤ領であつたので、煙草投資はこの國に獨占され、またイギ

リス、日本等の外國資本が入り込んでゐるが、政治的優位とフィリピン産業のアメリカ依存を利し、アメリカ資本の産業方面に對する勢力は絶大である。

蘭印に對する投資は主として石油で、スタンダード系のネーデルランシエ・コロニアル社を中心に一億一千萬ギルダー、その他自動車工業などに投資してゐる。

### 三六、華僑の勢力

南洋の華僑 海外に移住した支那移民と、その居住地で生長した移民の子孫を華僑と呼ぶ。華僑は世界を通じて到る處に散在してゐるが、その約八割は南洋の諸地方に集つてゐる。従つて華僑といへばすぐ南洋の華僑を思ひ出す程である。現在南洋の華僑は約六百五十萬で、南洋の總人口一億三千万の約五%に當り、南洋に於ける最も數の多い民族と云ふことが出来る。長い間未開發のまゝであつた南洋の寶庫を開

(昭和九年華僑委員會發表表) 華僑人口

南洋	泰國	英領馬來	佛領印度支那	比領	英領北婆羅洲	極東	印度及南洋諸島	太平洋諸國	歐洲諸國	アメリカ大陸	計			
六、二〇二、六一	二、五〇〇、〇〇〇	一、七〇九、三九二	一、二三三、六五〇	三八一、四七一	一九三、五九八	一一〇、五〇〇	七五、〇〇〇	一、二一五、〇八八	三八、三五四	三一、八七九	三〇、三三五	四、五〇〇	二六三、四〇四	七、七八六、一七一

いた、事実上の開拓者は誰であらう。それは南洋を支配した白人でもなければ、もちろん土人でもない、殆どきのみきのまゝ或は借金を背負つて、南洋に渡つた華僑である。彼らは幾世紀もの永い間に互つて次第に發展し、遂に華僑の南洋と云はれる程の實力を經濟上に持つやうになつた。

華僑はその祖國支那と非常に深いつながりをもつてゐる。先づ政治上では「華僑は革命の母なり」と云はれたやうに、これまで屢々支那の革命運動にその資金を送つた。又經濟上でも最近數年間、支那の輸入超過は彼等の送金によつて補はれてゐたと云はれてゐる。

**華僑の特性** 支那人の南洋移住は約二千年以前からはじまり、次第に増加して、清朝の後半から非常に増したものと思はれる。その移住は國家の援助もなく、資本もなく、天秤棒一本持たずに殆どはだかのまゝで行はれた。このやうにして海を渡つて來た支那人が根強い發展をとげたのである。一文無しで上陸した支那人は、苦力となつて働いて三十セントか五十セントたまと朝市場の前に立つ。そこには農村から野菜や果實を擔いだ土人が來る。金をためることをしない土人は、市場に店を出すのに必要な五セントの金すら持つてゐない。それで支那人に借りて賣上金の中から十セントかへす。かうして支那人は僅かながら次第に資本を貯へる。資本が出來ると煮賣屋をはじめめる。資本が肥るにしたがつて露店商について行商にすゝむ。これ

が小賣店になる。この成功者が問屋、大商人となつて行くのである。以上のことがらは蘭印の話だが、多くはこの通りと思へばよい。

華僑は一錢でも多く儲けようと、ひたすら商業上の利益を求め、そのために生活費、事業費は常に歐洲人よりも低めにしてゐる。何萬、何十萬と金をためてゐる主人が、小僧と一緒に埃を浴びながら、荷造りや掃除をしてゐるのは華僑の間では珍らしいことではない。華僑の生活は實に堅實である。又一方、常に支那本國の貨幣を輸入し之を地方の通貨として通用流通させる。この本國の通貨を使用する結果、益々華僑の富が増すのである。

生活が安定して相當の餘裕が出來ると、故郷から親戚友人等をどんどん呼び寄せて團結を固めて行く。これらの新來者が新しい支那の空氣を絶えず注入するので、在住の華僑は熱帶の風土に慣れてすつかり土人の如く退嬰するといふやうなこともなく、支那民族の特性を維持することが出來るのである。その上華僑は、粘り強い性質があるので、移住した土地にしつかりと根を下して、子孫代々よく働き、不動の地位を保ちつゝ發展して行くのである。

**華僑の分布** 次圖を一覽すると、數に於ては泰の二百五十萬が最高であり、總人口との割合や人口密度においてすぐれてゐるのは英領マレーの百七十萬である。

華僑の中心は泰、英領マレー、蘭領印度であつて、マレー半島を限界として、これより西方

南洋華僑の國別出身地別分布



第170圖 南洋華僑の國別出身地別分布

には餘り進出してゐない。ビルマの十  
九萬は土地の面積・人口と考へ合せる  
と僅少である。これはその地の土着商  
人が頗る勤勉で、狡智にたけて居り、  
その點ではさすがの支那人も競争が容  
易でなかつた爲である。

**出身地** 南洋華僑は殆ど總てが廣東福  
建兩省の出身で、それも多くは臨海地

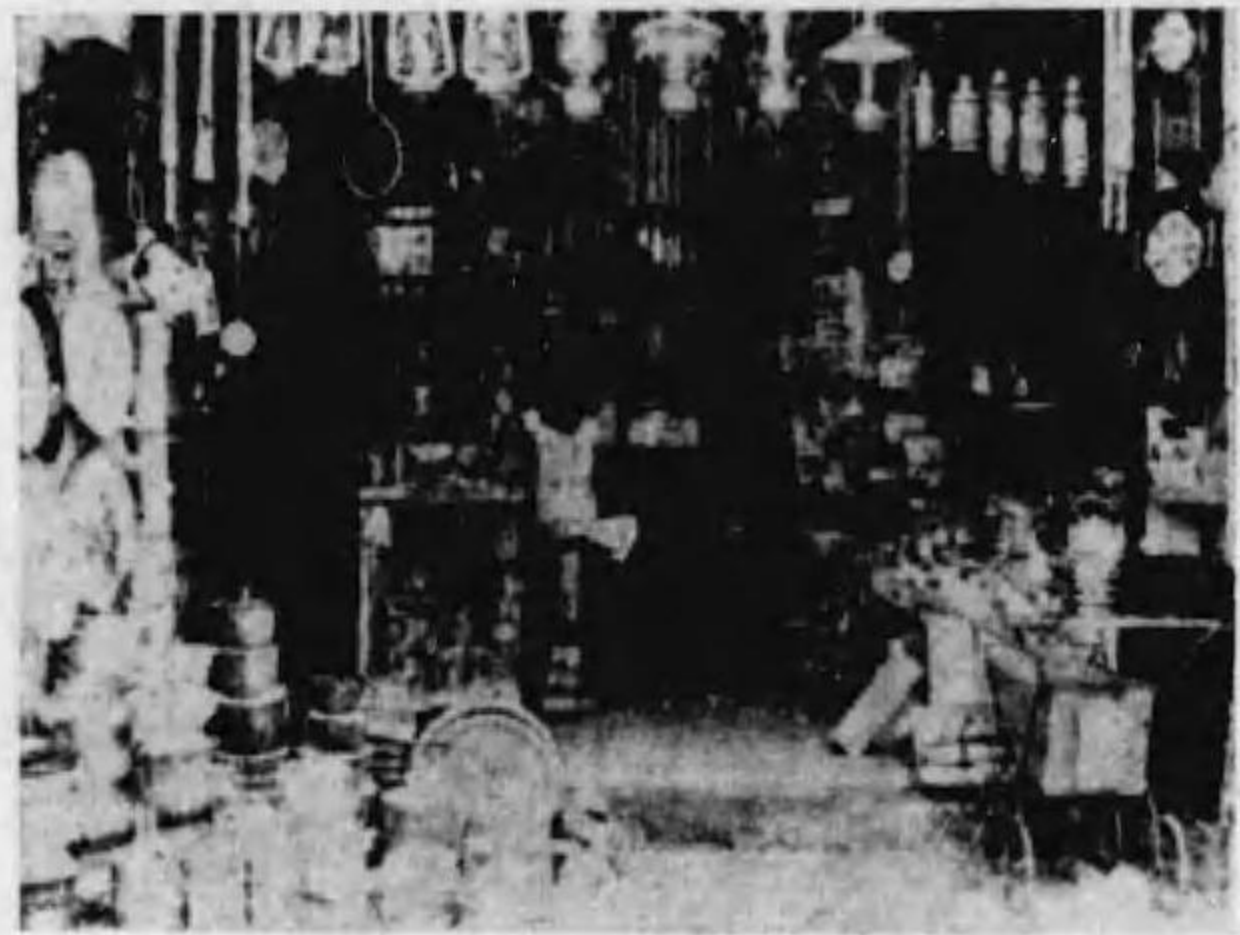
方のものである。北支・中支の者も居るが極めて稀である。

出身地別に分類すると福建人、潮州人、客家人、廣東人、海南人、廣西人の六つである。こ  
れ等のものは郷土別に集團をなして同一地方にかたまる傾向が強い。例へば或る地方には福建  
人が大多数であるかと思へば、或る地方では廣東人が優勢であつたりする。出身地が異ると、  
職業に相異が見られるのは興味がある。

彼等は故國よりも故郷を愛し、同郷人は互に固く結合して、夫々幫(同郷團體の意)をつくつ  
てゐる。例へば廣東人は廣東幫をつくり、その幫内のみならず各地に在る同種の幫相互に連絡

を保ち團結を鞏固にする。然し他の幫との關係は薄い。それ故に全華僑或は支那本國の立場か  
ら見て不利益となるやうな場合も發生し易いわけである。

### 華僑の活動概況



第171圖 バンコックの華僑の店

**タイ** タイ國商業の實權は殆ど華僑に握られてゐるばかり  
でなく、政治方面にもかくれた力を持ち、國會議員や政府要  
路者の中に支那系のものが相當に居る。

近時タイ國の民族意識がたかまるにつれて華僑對策が眞剣  
にとられるやうになつて來た。政治・經濟・教育のあらゆる  
方面において支那人に彈壓を加へると共に、新に入國せんと  
する支那人に對して種々の制限を設けてゐる。けれども現在  
の情勢としては、ドイツがユダヤ人を驅逐したやうに、華僑

をタイ國境外に追ひ出すことは到底不可能である。「タイ國はタイ人に依つて支配せられ、華  
僑に依つて所有せられてゐる」と云ふ言葉はよく眞相を物語つて居る。こゝにタイ國として重  
大な悩みがある。

**英領マレー** マレーがイギリスの支配下となる前にマレーの經濟的支配力を相當強く握つて



第172圖 シンガポールの支那人街

云へる。

一般に、マレー華僑はその文化の程度において他の南洋諸地方の華僑よりも遙かに上位にある。その上にマレーが交通の要衝に當るので、自づと南洋華僑の中核となり、マレー華僑の動向が全南洋華僑の向背を左右してゐるのである。

**蘭領印度**：この地方への支那人の往來は相當古い時代から行はれ、すでに十六世紀の末には

バンタム及びジャガタラに三百五十人の支那人が居住してゐた。やがて蘭人が統治するやうになつて、土地開拓に支那人の特質を大いに利用した結果、華僑の数は次第に増加した。蘭印華僑の主な職業は商業であり、その多くは輸入商と土人との間に立つて小賣業を営んでゐる。その他行商人及び貿易業者もゐる。又商業のみならず農業方面にも活躍してゐる。工業方面でも企業者・労働者として活躍して居り、製糖・製米・コブラ製油・キャッサバ工場等を經營するものもある。

**佛領印度支那** 佛印は支那と境を接し、支那移民が古くから行はれてゐたにもかかはらず、佛印の華僑の数はタイ國より非常に少く、その勢力も亦劣つてゐる。これはフランスが佛印の開發に十分な餘裕を持たないので、マレーのやうに活潑なる開拓を行はず、外國人に大規模の投資をさせなかつたことに因るのであらう。それ故にタイ・マレーのやうには華僑の活動を必要としなかつたのである。

佛印華僑が支那本國から最も遠い交趾支那及びカンボヂヤに多く、近距離の安南・ラオスに比較的少いのは興味深いことである。これは支那人が陸路移住せず、主に海路入國したことを意味し、廣東・福建人が大部分で、廣西・雲南兩省のものが少ないことを物語つてゐる。

佛印華僑が最も勢力を占めてゐるのは商業方面であり、特に米の取引は全く彼等によつて獨

占されて居る。更に綿・砂糖及び茶の取引に著しく進出してゐる傾向が見られる。一般に農工方面の勢力は餘り大ではないが、精米業においては昔ながら相當な勢力をもつてゐる。

サイゴンの近郊シロンは支那人の建設した町で、南佛印に於ける華僑の中心、佛印の商業の中心をなしてゐる。全市人口約十三萬中、七萬位の華僑が居住してゐる。

**フィリピン** 支那人が移民として渡來するやうになつたのはスペイン領となつてからである。華僑はその勤勉と、スペイン當局のとつた支那人保護政策とによつて、商業・手工業方面に進出して、その勢力は著しく強大となつた。しかし土着民は華僑を嫌ひ、又のちには政府も華僑に抑壓制限を加へた。それにも拘はらず華僑は根強く發展して、米領となる直前の明治二十九年には十萬を突破するにいたつた。明治三十五年アメリカは本國同様に華僑労働者の入國を禁止したから、それ以後は餘り増加してゐない。

**支那事變と華僑** 南洋華僑は南洋の經濟社會の支配者として活動してをり、彼等を除外しては到底南洋の經濟活動は續けることは出来ない。彼等は商業殊に卸問屋において壓倒的勢力を持つてゐる。支那事變が勃發すると華僑は過去の場合と同様に、排日貨を行ひ、そのために我が南洋貿易は相當な打撃を蒙つたのである。しかし華僑はこれまでの經驗に依つて、日貨を排斥すれば、彼等も損害を蒙ると云ふことを體得してゐたので、今度は表面は排日貨をやる風を裝

つてゐるが、内實は必ずしもさうではなく、次第に消極的になつてゐる。時局が進展し、ある時機が來れば華僑の排日貨も自然終熄するであらう。

今後益々我が國が南洋諸地方と經濟的に提携して共存共榮の實を擧げんとするならば、南洋貿易に重大な役割を演じてゐる華僑を無視することなく、彼等の長所を充分に發揮せしむるやう指導しなければならぬ。

### 三七、大東亞共榮圈確立と南洋

世界は今や自給自足の資源を求めて四つの經濟圈に分れようとしてゐる。英・米を中心とする經濟圈、歐洲の新秩序を目指して立ち上つたドイツ・イタリヤを主とする經濟圈、ソ聯を中心とする經濟圈、日・滿・支を中心とする大東亞共榮圈がこれである。

今日の國際情勢では一旦緩急のあつた場合は經濟封鎖にも堪得るやうな自給自足の資源をもつてゐなければ、獨立國として存續することがむづかしい。一國のみでこの要望を満たすことが困難であれば、數國が相倚り相援け有無相通ずる共通の自給資源を持つよりほかはない。これによつて始めて經濟的に獨立した強力な國家となり、國民の生活も安定するのである。日・滿・支三國相提携し新東亞建設を目指して立ち上つた所以もこゝにある。



從來支那は相當重要な資源を擁してゐながら開發が行きとゞかず、わが國は優秀な技術をも  
ちながら天然資源の乏しいのを嘆じてゐたが、滿洲事變によつて滿洲國が建設され、支那事變  
が起つて新國民政府が樹立され、こゝに日・滿・支は一體となつて共榮圈を形成することにな  
つたのである。いま日・滿・支の重要資源を一瞥すると、米(日本・支那)、麥(滿洲・北支)、大  
豆(滿洲)、砂糖(日本)、棉花(北支)、羊毛(蒙疆)、鹽(日本・支那)、水産物(日本・支那)、鐵  
(滿洲・支那)、石炭(滿洲・支那)、石油(日本・滿洲)、マンガ(日本)、モリブテン(日本)、  
マグネシウム(日本)等を擧げることができる。これを自給自足の立場から見れば、食料は大體  
満たし得るも石油・ゴム・ボーキサイト・鉛・錫などの如き礦物資源、棉花・羊毛の如き纖維  
資源はきはめて乏しく、どうしてもこれを他の地方に仰がなければならぬ。思をこゝに致し  
た時、われわれの眼は期せずしてたゞちに南方に注がれる。そこには石油がある。ゴムがある。  
錫・鐵・ボーキサイトがある。さらに南に進めばオーストラリヤに羊毛がある。西すればイン  
ドに綿花の山が見られる。日・滿・支に求めて得られないもの、又はその不足を補ひ得るもの  
が、この南海の天地には有りあまる程ある。それゆゑ日・滿・支三國は進んで南洋を共同經濟  
圈に加入せしめなければならぬ。これが成功した暁において始めて眞の自給自足を期する  
ことが出来る。南方を含んだ大東亞共榮圈確立が叫ばれる所以はこゝにある。

ひるがへつて南洋の現状を見れば、政治的にはタイ國を除くすべての土地は、オランダ・イ  
ギリス・アメリカ・フランスに分割せられてその支配下にある。

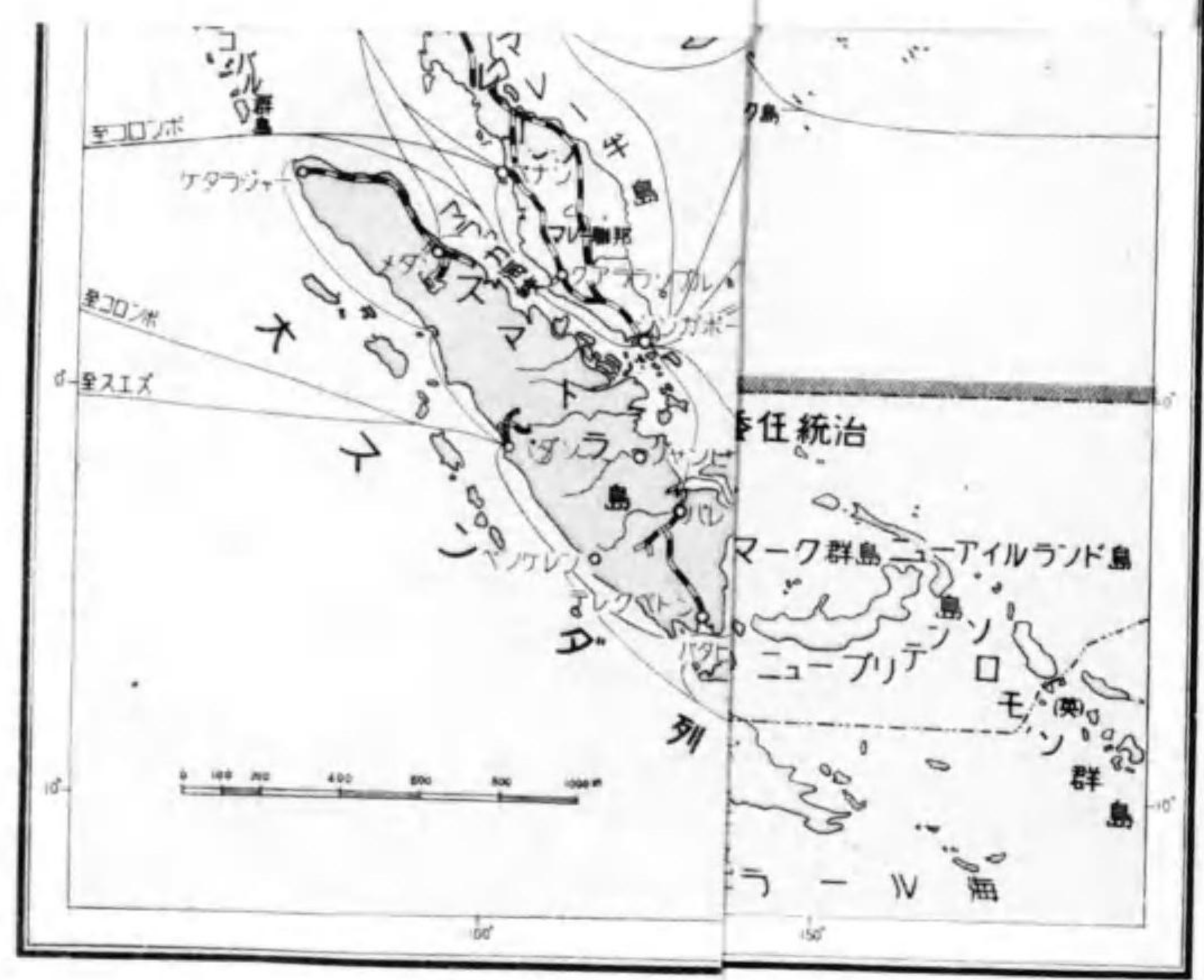
また經濟的にもこれらの歐米諸國は全南洋にわたつて多くの權益をもち、その實權を握つて  
ゐる。その上古からこれらの土地に移住してゐる華僑は商業上に隠然たる勢力を持つてゐる。

白人は昔、通商貿易の美名の下に侵略を行ひ、今日の勢力を築き上げたのであるが、今や日・  
滿・支の三國が大東亞共榮圈の確立を叫ぶのを聞いて、彼等自ら過去に用ひた物指を適用し、  
これを日本の南方侵略なりとし、濠をめぐらし塹を高くして日・滿・支必然の要求を阻まんと  
してゐる。しかも十六世紀以來、白人治下の南洋土着民族の生活はどうであるか。白人の植民  
政策は毫も土着民の幸福を顧みることなく、たゞ自國の利益のみを目的とし、徹底した搾取と  
壓制を逞うしたのである。土民には教育を施さず、いつまでも無智文盲の域に止め「依らし  
むべし」「知らしむべからず」といふ統治方策を堅く守つて來た。これがため土民等の多くは資  
源豊富な天地に居住しながら、何時までも未開な状態を脱し得ない哀れな生活を續けてゐる。

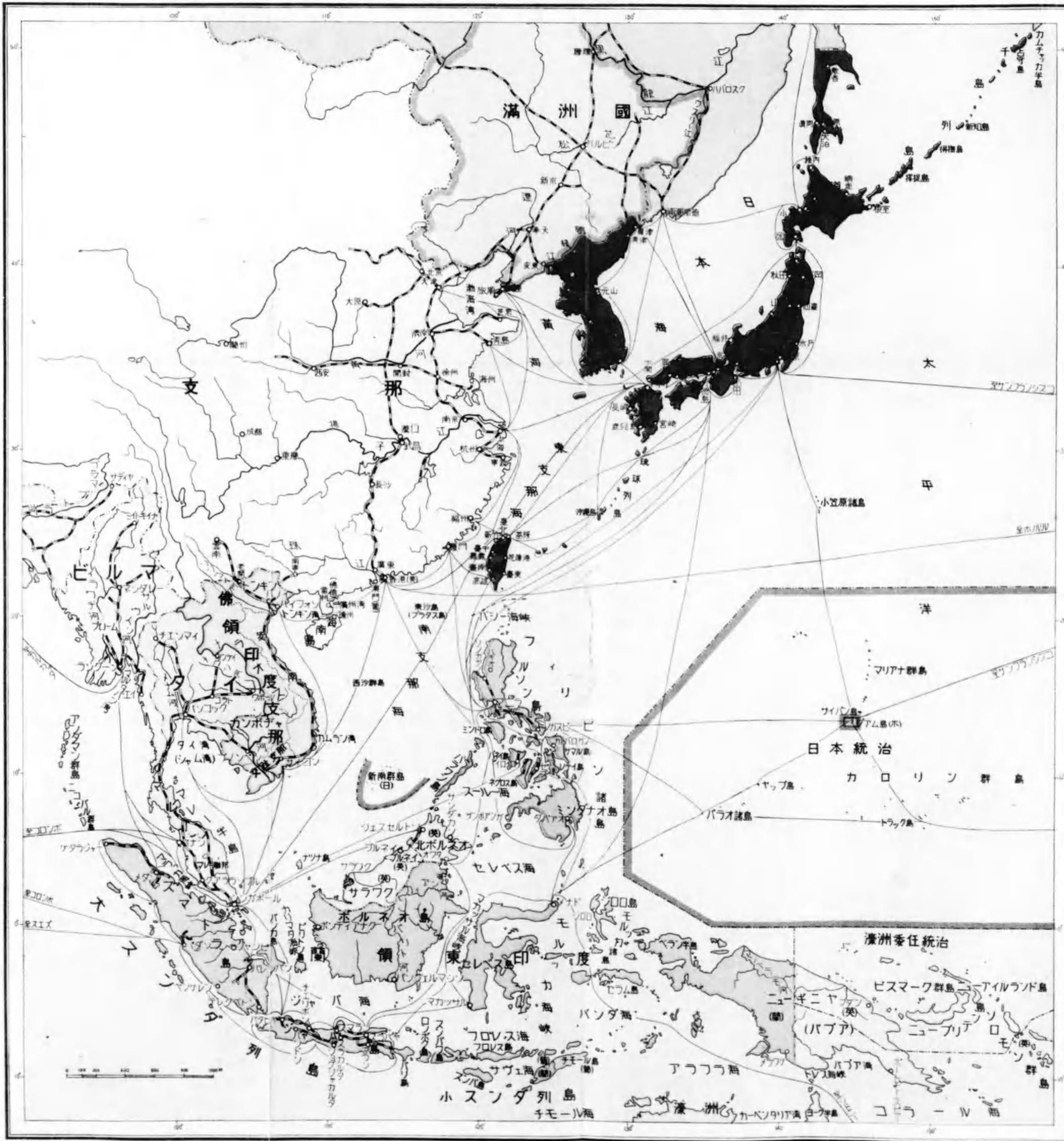
この時において我が國が敢然南方に進出してこれを大東亞共榮圈に攝取し、彼等一億三千萬  
の南洋民族を解放してその幸福を圖ることは、八紘一宇の大理想に基く我が國天與の使命とい  
はなければならぬ。

われくの祖先は三百年前、已に南支那海の波濤を蹴つて外南洋の各地に發展した。山田長政はどうかであつたか、海外の日本町はどうかであつたか、また近くはフィリピンのベンゲット工事におけるわが同胞の決死的奮闘の如き、或はタバオ開拓事業の如き、或はマレー半島に於ける鐵鑛業・漁業の如き、幾多先輩はわれくに南洋發展の可能性を暗示してゐるではないか。しかも白人が熱帯の生活に於て往々退化の事實を示すのに對し、日本人は氣候に對する適應性が強く、熱帯地に活動しても聊かも退歩の憂がないといはれてゐるのではないか。

今や世界の情勢は一變しようとしてゐる。南洋における歐米人の地位にも多少の動搖を來し南洋諸民族の間にもやゝ文化の進んだ地域では、民族的自覺が日にく昂揚しつつある。われらはどこまでも平和手段によつて南方に進出し、南方のあらゆる住民と手を携へて共に幸福の殿堂を築きあげなければならぬ。



大東亞共榮圈圖



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

昭和十六年十一月五日 印刷  
昭和十六年十一月十日 發行

檢印

南方讀本 | ㊦ ¥ 2.80

編纂者 臺灣南方協會

發行者 三省堂

代表者 龜井 豐治  
東京市神田區神保町一ノ一

印刷者 三省堂蒲田工場

代表者 今井 直一  
東京市蒲田區仲六郷一ノ五

發行所 三省堂

日本出版文化協會會員  
第一一五〇一號  
東京市神田區神保町一ノ一  
(振替東京三一五五五)  
大阪市西區阿波座下通二ノ六

配給元 日本出版配給株式會社

東京市神田區淺路町二ノ九

南方讀本

經濟學博士 井出季和太著

# 南洋と華僑

B 六判・三一四頁  
定價一・六〇 送料・一四

東亞共榮圏にある南洋地方は英領・佛領・蘭領の三種民地に分れ、この地方に於ける經濟上の一大勢力は、華僑である。本書は、南洋に於ける華僑の經濟的な重要性を、理解せしむるもので、滿鐵東亞經濟局より蒐集せる斬新、正確な資料に基き、著者多年の研究を纏めた好著である。日本南進の叫ばれる秋、南洋華僑の信頼すべき唯一の研究書として、一讀されんことを切望する。

三 省 堂 刊

H-124

東京外語教授 大谷敏治著

# 南方共榮圏 探視と

B 六判・四一〇頁  
定價二・〇〇 送料・二四

本書は蘭領印度諸島、濠洲聯邦、ニューギニヤ、比律賓等の南方共榮圏を、最も印象的に傳へる新鮮な旅行記である。たえず科學者の眼と詩人の心とをもつて、南方に於けるさまざまな風物を觀察した異色あるもの。ある時は種々の産業状態を精密に調査して、南洋精糖や小麦、羊毛等に關して卓越せる意見を述べ、ある時は南方の情趣を鮮やかに描き出してゐる。南進論の叫ばれる今日、貴重な礎石を與へる好著として一讀を薦む。

三 省 堂 刊

H-160

三省堂編輯所編・山邊平助監修

# 最新大東亞・南洋精圖

四六全判縦三尺六寸横二尺六寸 定價一・五〇  
オフセット多色刷・折疊式袋入 送料・〇六

本地圖は大東亞建設の指針として、南進日本の姿を示す最新の地  
圖・地勢及海深を立體的に表現し、各方面周到なる用意の下に完成  
せるもので、産業・貿易・輸出入・航路・政治區劃等を記入し、我が外  
交に重要な地點は勿論、政治・軍備・産業・交通・觀光等の關係で、  
最近擡頭せる新地點には深甚の注意を拂ひ且讀圖の容易化を計つて  
ゐる。かくの如く重要事項を洩れなく網羅輯録し、その色彩の高雅  
逸麗なることは決定版とも稱すべき優秀大地圖である。

三 省 堂 刊

922

63

終

